

青鶴6

CHEONGHAK



HAN CHANG-WOG-TETSU CULTURAL FOUNDATION

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団

青鶴
6

巻頭言

公益財団法人韓昌祐・哲文化財団 韓昌祐 理事長

二〇一二年三月二十一日に内閣総理大臣から「認定書」を受け、四月一日に公益財団法人の登記をしてから四年目に入ろうとしています。

特例民法法人から公益財団法人への移行にあたり、内閣府公益認定等委員会に提出した新しい財団の定款第3条に、次のような目的を掲げました。

「この法人は、日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における、学術研究、創作活動、啓蒙活動及び実践活動等に対し助成事業を行い、その振興をはかり、両国間の交流促進に寄与することを目的とする。」

この理念は、一九九〇年十二月十九日に、文部省（当時）から正式に認可を得て創設した財団法人韓国文化研究振興財団から一貫して変わるところがありません。

当時は、日韓の歴史・文化等の学術研究を助成する財団法人がありませんでしたから、みずから日韓の架け橋になろうと切実な思いで作りました。あれから四半世紀がたちました。

世界がグローバル化し、心のどこかで日韓だけの社会貢献では物足りない思いが芽生えていました。今年度は定款を若干変更して、アジアへの助成事業を内閣府公益認定等委員会に提出したいと考えています。

新しいアジアの助成事業は、これまで日韓で行ってきた助成計画を助成金でサポートするような事業ではなく、「アジアにおける芸術・工芸の振興及び芸術・工芸を媒介にした

相互理解に貢献した個人や団体に与えられる賞」という位置付けで、賞金一〇〇万円を授与する顕彰型の助成事業です。対象範囲は、日本、韓国に加え、ASEAN（東南アジア諸国連合）一〇カ国になる予定です。

さて二〇一〇年五月に故郷の韓国・慶尚南道泗川市に発足した韓昌祐 祥子 教育文化財団（韓裕理事長）の活動にもふれておきます。

今年二月九日に、地元の泗川文化芸術会館で「二〇一五年度奨学証書授与式」を開催しました。教育文化財団のユニークなところは、成績優秀かつ家庭の幸せに恵まれない子どもたちへの支援です。

韓国は一月一日から新年度に移行するため、二〇一四年の成績で奨学金の選抜を受けた市内の子どもたちは二〇一五年度奨学証書授与式に参加します。

小学校は一八校と分校二校が対象になります。閑麗海上国立公園に面した泗川市は離島が多く、分校も奨学制度の対象になります。小学生は一八校から一八名に各五〇万ウォン。中学生は一校二名に各一〇〇万ウォン。高校生は九校で、一三名から一四名に各三〇〇万ウォンの奨学証書が手渡されました。泗川市内約四〇校、四二〜四三名に総額で約六千万ウォンの奨学金が支給されます。

奨学証書授与式の後、市内の小学校五校と中学校一校が参加して「泗川市青少年コンサート」が催されました。オーケストラ、合唱、伝統音楽など芸術活動に取り組むクラブがあっても発表する機会がない。年に一度、舞台に立つ機会を作っています。これも教育文化財団の情操教育への支援の一環です。

韓国は私を生んでくれた親です。そして日本は私を育ててくれた親です。財団法人活動を通じて社会貢献を実践し、日韓両国が品格のある国に成熟してくれることを願っています。

6

巻頭言 韓昌祐……………2
 写真集『青鶴——存在する夢』より 柳銀珪……………6

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団 第六回助成金受贈者それぞれの道

別所哲也

ショートショートフィルムフェスティバル & アジア代表

国境を超えて感動を分かち合うフィルムフェスティバル……………10

呉夏枝

美術作家

在日であること、女であることを表現の核として……………26

竹田陽子

国際芸術交流 海の道代表／横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

韓国の才人廳舞踊と、日本の伝統音楽の懐かしき出会い……………42

東潮

考古学者／徳島大学名誉教授

古代日本と新羅の交流を起点に東アジアの国際環境を読み解く……………60

國分典子

日韓比較憲法研究会代表／名古屋大学大学院法学研究科教授

憲法の比較研究から生まれた日韓の確かな絆……………76

樋口直人

徳島大学総合科学部准教授

在日コリアンの地位の変遷と日本人の排外主義を調査……………92

赤坂憲雄

「東日本大震災 在日コリアン被災体験聞き書き調査」代表／学習院大学文学部教授／福島県立博物館館長

あの日、東北にいた在日コリアンの、声なき声を聴く……………108

青鶴学術論文集

大韓民国臨時政府の憲法思想の憲法史的的位置づけ……………126

日韓比較憲法研究会代表／名古屋大学大学院法学研究科教授 國分典子

新羅金京と東アジア……………146

考古学者／徳島大学名誉教授 東潮

在日コリアンの社会経済的状況の動態——職業の変遷を中心に——……………192

徳島大学総合科学部准教授 樋口直人

被災者の声を聞き続ける……………212

「東日本大震災 在日コリアン被災体験聞き書き調査」代表／学習院大学文学部教授／福島県立博物館館長 赤坂憲雄

青鶴洞(チョングドゥン)
青鶴洞とは、古くから朝鮮半島に伝わる理想郷のことです。神仙が青い鶴に乗って遊ぶ地上の楽園、そこは世俗のいかなる混乱とも隔絶した平和な村として朝鮮民族の心に伝承されてきたユートピアです。

写真 柳銀桂



公益財団法人
韓昌祐・哲文化財団
第六回助成受贈者
それぞれの道

別所哲也
呉夏枝
竹田陽子
東潮
國分典子
樋口直人
赤坂憲雄

国境を超えて感動を分かち合うフィルムフェスティバル

別所哲也

シヨートシヨートフィルムフェスティバル & アジア代表

シヨートフィルムこそ映画文化の原点。

別所哲也がシヨージルーカー監督の応援を得て

国際短編映画祭を立ち上げたのは99年のこと。

近年はアジア、中でも韓国映画界との連携が

ひと際盛り上がりを見せている。

「日韓で一緒に世界を驚かせよう」

新たな飛躍の時に、期待が高まる。

文 村尾国土

写真 菊地健志





べっしょ・てつや◎1965年生まれ。88年慶應義塾大学法学部卒。
在学中の87年にミュージカルで俳優デビューし、90年の日米合作
映画でハリウッドデビュー。以降、映画・TV・舞台・ラジオなど
で幅広く活躍中。99年より国際短編映画祭「ショートショート
フィルムフェスティバル」を主宰。

2014年6月の2週間、東京と横浜で「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2014」が開催された。短いもので数分、長くても25分という短編映画の祭典である。16回目になるこの年、公式コンペ部門だけで世界の110カ国・地域から4264作の応募があり、そのうち68作が上映された。ほかのさまざまな部門を合わせると実に上映数200作を超える、アジア最大級の国際短編映画祭なのだ。

この映画祭をゼロから立ち上げ、長年にわたって育ててきたのが代表の別所哲也である。著名な俳優である別所は、映画・テレビ・舞台・ラジオで活躍しており、ことに舞台では『レ・ミゼラブル』『ミス・サイゴン』など数々の大作や話題作の主役を務めてきた。そんな別所のもうひとつの顔が国際映画祭の主宰者なのだが、短編映画に着目した点に何よりの独自性がある。

といっても、最初から短編映画に関心があったわけではない。別所の映画の原点は、ハリウッドの長編大作『スター・ウォーズ』。

「中学生の頃に観ましたが、それまで観たどんな映画とも違うすごい存在感に圧倒されましたね。以来、その映画の監督ジョージ・ルーカスが僕の憧れの人になりました」

ルーカス監督はのちに別所をショートフィルムに導くことになるのだが、そこまでの道筋をたどる。慶應大学で英語劇サークルに属し、数作の上演に参加した別所青年は、「物語を表現し、人の心を動



ショートショート実行委員会のスタッフと会議。
16年前に数人で立ち上げた映画祭は今やアジア最大級に発展。



助成金を使用して開催された2012年6月の映画祭フィナーレ。
世界から参加した監督・俳優たち。(映画祭事務局撮影)



第1回の開催年である1999年、
「憧れ」のジョージ・ルーカス監督と。(事務局撮影)



07年の映画祭に訪れた韓
国の国民的俳優アン・ソン
ギ氏(右)。(事務局撮影)



14年の映画祭の会場
スタッフたち。多くの
ボランティアが参加。

かすことのできる」俳優を志した。186センチの長身、恵まれた容姿で早くも在学中にミュージカルでデビュー。卒業後には日米合作映画『クライシス2050』のオーディションを受け、多数の日本人応募者の中からただ一人選ばれた。1990年、ハリウッドデビューを果たした別所は、当時では稀な日米を往来して仕事する俳優となった。

「ハリウッドのスタジオでは、よくショートフィルムの上映会が開かれており、僕も誘われていたが、いつも断っていたんです」

上映会は若手の監督や俳優がプロをめざす登竜門であり、すでにプロとして活動していた別所には関心がなかった。また短編映画といえば実験的で退屈なものという先入観もあった。それが逆転したのが97年秋だった。

「あまりしつこく誘われるので、しかたなく観に行つたんですが、目からウロコでしたね。映画は長さじゃない、短くてもすばらしい表現ができる。画家でいえばデッサン画、映画文化の原点がここにあると気づきました」

憧れのルーカスをはじめ、多くの名監督が短編からスタートしていることも知り、南カリフォルニア大学のフィルムライブラリーを訪れた。名作短編映画が集められたそこは「宝の山」で、別所は「なんで今までこの世界を知らなかったのか」と悔やむほど感動した。

その感動のままにある決心をした。

「僕自身がそうだったように、当時の日本では短編映画なんて面白くないという思い込みがあり、当然、短編専門の映画祭もなかった。じゃ、自分でやってみよう、と」



日本で国際短編映画祭を立ち上げ育てる

別所は映画関係者の仲間数人に呼びかけ、行動を開始した。会場をさがし、企画書を作り、米国大使館に交渉するなど、どれも手さぐりの作業である。会ったこともないルーカス監督に「アメリカのショートフィルムの祭典を開きたい」とメールを送ると、「喜んで応援します」という返事が届き、それが支えだった。こうして99年6月、「アメリカン・ショートフィルムフェスティバル」を開催にこぎつけた。米大使館でのパーティに、折から来日中のルーカス監督が駆けつけてくれ、「若手映像作家を育てるため、君のような人に頑張ってほしい」と激励された。

この短編映画祭ではアメリカ作品を中心に27本を上映、別所自身は開催できただけで安堵あんどしていたが、観客から「来年も期待しています」という声が多く寄せられた。それに背中を押され、翌年以降も毎年開催するようになる。上映作品もしだいに増えていき、第4回にはアメリカ作品だけでなくよりグローバルな映画祭をめざし「ショートショートフィルムフェスティバル」に改称、世界からも注目されるようになった。

創設5年、映画祭は大きな飛躍のときを迎える。当時の石原慎太郎東京都知事から「映像交流を通じて、もつとアジアの諸都市と提携していくべき」と提案され、「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア」を新たに立ち上げた。さらにこの年、米国アカデミー賞公認映画祭に認定され、名実ともにアジアを代表する国際短編映画祭となった。

この間もむろん、別所は本業の俳優としても活動を続けていたが、映画祭の発展につれ国際的文化オーガナイザーと目されるようになった。05年の万博「愛・地球博」では統括プロデューサーとして



今や国際的文化オーガナイザーとして「映像は国境を超えてお互いを理解しあう心の窓になると思います」。



話題のアニメ映画「TATSUMI」では1人6役を務めた。エリック・クー監督とのトーク。



ショートショートEXPOを開催、08年に日本初の短編専門シアターを横浜にオープン、翌年には文化庁・文化発信部門の長官表彰を受賞、さらに観光庁「VISIT JAPAN大使」に任命されるなどめざましいばかりだ。こうした活動の中から韓国との交流も生まれてきた。

日韓映画人の相互交流を推進

この20年来、韓国は国策として映画産業の保護育成をはかってきた。多くの大学に演劇映画学科が設けられ、各種映画祭が生まれた。その一つにアジアナ国際短編映画祭がある。07年当時、この映画祭の実行委員長を務めていた韓国の国民的俳優・安聖基が別所たちの映画祭視察に訪れた。

「半ばお忍びの来日でしたね。安さんは私にとつては大先輩ですが、すぐに意気投合。これから韓国でこういうことをやりたいと夢を語れる大きな存在になってくれました」

ここから両映画祭の提携が生まれた。別所は09年、観光庁の支援のもと、「旅ショート！プロジェクト」を展開、アジアナ国際短編映画祭も「韓国トラベルショート」を立ち上げ、双方の映画祭で上映した。また別所はアジアナ映画祭のシンポジウムに招かれパネリストとして参加した。さらにこの同時期、韓国の若手俳優との交流もスタートしている。カンヌ国際映画祭受賞作の演技で高い評価を得た劉智泰である。俳優だけでなく、映画製作にも熱意を抱いていた劉は、05年に自ら監督した短編映画を別所たちの映画祭に出品、翌々年には新作を出品するとともに、映画祭審査委員を務めた。

このような交流を礎に、別所たちの映画祭は10年、観光庁の支援を受け、「日韓観光振興プロジェクト」を発表した。日本と韓国の若手監督が相互の国を訪れ、協力して短編映画を製作するという画

期的な試みであった。作品は日韓双方の映画祭で交換上映され、好評を博した。

こうして日韓の映像交流がしだいに盛り上がってきたのだが、これを大いに後押ししたのが(助)韓哲文化財団(当時)の助成基金である。

「日韓で一緒に作り世界を驚かせよう」

財団の研究助成を受けた別所たちは、交流企画を進めた。12年6月開催の日本での映画祭「アジアインターナショナル部門」に韓国短編映画を特集上映し、監督たちを招聘すること、さらに同年11月、日本側から若手監督を韓国に派遣し、作品を上映するというのが企画内容である。

まず日本での映画祭には6名の監督とアジアナ国際短編映画祭プログラマーが招聘された。彼らの作品はテーマも作風もそれぞれ異なっていたが、観客に大きな反響を呼んだ。

「韓国はショートフィルムにおいても、アジアで一番プレゼンスが大きい。無名の監督でも映像表現の基礎体力が実に強いんです。そういう作品群を日本で紹介できたのは、私たちにとって非常に重要なことでしたね」

一方、11月に韓国へ派遣されたのは平柳敦子監督である。平柳は、半年前のショートショートフィルムフェスティバル & アジアに作品『もう一回』を出品、日本人女性監督として初のグランプリに輝いた。この映画祭からスタートし一本立ちした監督は少なくないが、平柳はまさに旬のホープであり、韓国映画祭の観客たちも熱い拍手で迎えた。この2年後の14年5月に開催された、カンヌ国際映画祭で平柳敦子監督の『Oh Lucy!』(桃井かおり主演)が学生映画を集めたシネフォンダシ

15年1月上演のミュージカル「SAMURAI 7」の稽古。映画「七人の侍」の舞台化で、重厚なリーダー役に。



オン部門で2位に入賞した。同部門の受賞は日本人初の快挙であり、平柳は一躍、期待の新進監督として脚光を浴びた。

ちなみに、前出の劉智泰も別所たちの映画祭に短編を出品し好評を得たのを機に、長編映画の監督としてもデビューを果たした。映画の原点であるショートフィルムの真価を日本や世界の人々に知ってほしい、同時に、若手の映像作家たちに飛躍の場を与えたい、そんな別所の願いが実ってきたのだ。ここまで別所哲也の足跡をたどってきて不思議に思うのは、俳優でありながら国際映画祭を主宰運営するなど抜群の行動力、それを長年にわたって持続する力である。源にあるのは何なのかを最後に質問してみた。

「僕は人がやらないこと、困難なことをやるのが好きなんですよ」と笑いながら答えた別所は、真剣な表情になってこう語った。

「俳優であれ映画祭運営であれ、僕の中では境目がないんです。ハリウッドでデビューさせてもらい、人種や国境やさまざまな背景を超えていろんなものを生み出す、物語を作ることができるという実感を得たことが大きいですね。お互いに『分かり合える』、感動を『分かち合える』、これがすごく大事で、日韓の今後にも言えると思います。双方の映画人が手を携えて共通の目標を持てば、極東アジアの文化的パワーを発揮できます。僕はよく韓国の友人に言うんですよ。『韓国と日本で一緒に何かを作って世界を驚かせましょう』と」

目を輝かせながら語る別所から、その実現が遠くないことを信じる意思がたしかに伝わってきた。

(文中敬称略)

在目であること、女であることを表現の核として

呉夏枝

美術作家

朝鮮半島から渡ってきた祖母、
日本で育った母と自分。
それぞれの記憶はチマチヨリを通して
ひとつの作品となっていた。
韓服を縫うことからスタートした
美術家「オ・ハチ」が行き着いたのは
女たちの緩やかで確かな流れ。

文 千葉望

写真 渡辺 誠



オ・ハチ©1976年大阪生まれ。京都市立芸術大学卒。2012年に同大学院で美術博士号を取得。02～04年韓国ソウルへ留学。08～09年カナダ・ヨーク大学アジアリサーチセンター客員研究員。09年、Textile of Canada インターン。数々の展覧会に出展。現在は豪シドニー在住。

わたしの記憶を受け継ぐチマチヨゴリとの出会い

2014年6月、東京で開かれた呉夏枝の展覧会『記憶をまとう』に展示された写真パネルのなかで空中に浮かんでいるのは、まるで透明人間が羽織っているかのように立体的なチマやチヨゴリだった。巻きスカートに似たチマ、柔らかなカーブを描く袖のついた短い上着チヨゴリ。さまざまな素材と色合いの布地で仕立てられたそれらは、呉夏枝の祖母や母の着たものである。

鮮やかな色合いが多いが、ひとときわ目立っていた白い麻のチマチヨゴリは喪服である。母方の祖父が亡くなったとき、近所のわたしが集まり、手分けをして仕立ててくれたのだという。かつて日本でも、死者が着る帷子は親族のわたしが集まり、さらし木綿を使って一気に仕立てたものだった。刃物を忌み、生地は手で引き裂く。糸は留めない。あの世へ旅立つ衣装は、未亡人の喪服と死者の帷子という違いはあっても、親密な関係の人々が心を込めて針を運ぶ点では似通っている。喪服とはいえず、一目見た瞬間に「美しい」と思った。このチマチヨゴリを着た女は、たとえ老女であっても衆目を集めるだろう。

呉は在日二世の両親のもと、大阪で生まれ育った。上に兄が二人、妹が一人の四人きょうだい全員が日本の学校に通った。両親もそうで、留学経験のある呉をのぞくと、韓国の言葉はできないという。済州島出身の母方の祖母は日本語を話したが読み書きは難しく、役所から日本語の書類が届くと母が翻訳して手続きなどを済ませていた。この祖母に呉はかわいがられた。

塗装の仕事で家族を支えていた父は書道を嗜み、何をするにも器用な人だった。洋裁が得意だった



大阪にあったアトリエは彼女の作品をたくさん生んだ大切な拠点だった。ここを離れ、豪州で新しい活動に入る。



梱包などに使うジュート（麻）の紐も呉の重要な素材の一つ。垂らし、ほどき、広げることでさまざまな表現が可能になる。



母はよく、子供たちの洋服も作った。それらはまず妹へのお下がりとなり、その後親戚の家をまわっていた。三人の子供のために家中にミシンの音が響く毎日で、母が洋裁をするかたわらで呉も人形の服を作った。

「絵を描くよりも布に触れる機会のほうが多かったです」

手仕事が好きだった呉は、将来のことを考えるときも、美容師やメイクアップ・アーティストなどに職がつけられる仕事を夢見ていたという。だがこういう仕事をするには美的な感性が大事になるという話を聞き、高校の美術教師に相談した。

「頑張れば京都市立芸術大学に入れるかなあって。そうしたら『努力すれば入れるよ』と言われたんです。大学では染織を学ぶために工芸科に入りました」

現代の工芸科では、ごく普通に洋服や着物のデザインや染織をすることは少ない。「繊維を使った造形表現をするという感じ」と呉が言う通り、映像と組み合わせたインスタレーションなど表現の幅は大きく広がっている。ただ美しいものを作るだけでなく、作り手のテーマ設定が重要になる。

呉は大学4年を迎える春、初めて韓国を旅した。妹と二人でソウルと慶州^{キョンジュ}へ行き、古い寺を見たりまだ開発されていなかったソウルの骨董街「仁寺洞^{インサドン}」を歩いたりした。このときに自分のテーマに出会った。韓服^{ハンボク}である。

「チマチヨゴリにしてもポジャギにしても、私がイメージしていたものとまったく違いました。在日の間で着られるチマチヨゴリは鮮やかな色合いが多いのですが、実際には素朴なもの、落ち着いて地味な色使いのものがたくさん。木綿で作られたチマチヨゴリもたくさんありました。一般の人たちは木綿を着ていたんですね」

日本の着物と同じである。庶民は絹には縁がなく、木綿が日常着だった。だが素朴な中にも手の込んだ細工が施され、魅力的なものも多かった。人は美しいものを作らずにはいられない生き物なのである。呉はチマチヨゴリの世界に魅せられていった。

「その経験の中で、在日であること、女であることを改めて考えるようになったのです」

日本に渡ってきた祖母、母、自分や妹へとつながっていく女たちの血と文化。遠い済州島の記憶。それらを象徴するのがチマチヨゴリだった。大学で染織を学ぶ娘のために、母は祖母から受け継いだチマチヨゴリやサンベと呼ばれる大きな麻布をとっておいてくれた。

韓国留学で「呉夏枝IIオ・ハチ」を自覚

帰国した呉が考えた末に大学の卒業制作で作ったのは、赤い長襦袢^{ながじゆばん}と子供用の着物地を使って仕立てたチマチヨゴリである。呉の骨格を作り上げている韓国と日本という二つの国を、パッチワークのチマチヨゴリというかたちで表現したものである。市で探した長襦袢地の上にはミシンワークで立体感のある刺繍^{ししゅう}を施した。作業に3週間をかけ、最後は徹夜続き。

「展示日の朝に完成しました(笑)」

この時期に制作したもう一枚のチマチヨゴリは、薄く透けるオーガンジーにシルクスクリーンの技法で朝鮮半島の家系図「族譜^{チラポ}」を摺^すり、その生地を使って仕立てた。ツリーののように広がる「族譜」だが、そこに女たちの名前は出てこない。朝鮮文化の中で存在を消されてきた女たちへのオマージュである。

アトリエの中で、自分で撮影したチマチョゴリの写真とジュートの紐を組み合わせながら、展覧会のイメージをふくらませていく。





東京で行われた個展「記憶をまとう」の会場で。祖母の郷里・韓国の済州島を初めて訪れた際、心にスイッチが入った。

「これを作っていた時期に、ちょうど祖母が入院しました」

異国へ渡り、結婚し、子供や孫を育てた祖母への思いが結実した作品である。

修士課程を終えた後、呉はソウルに渡った。最初は3カ月の予定で、移民しているコリアンが通う語学学校へ通いながら、アルバイトをした。国籍は韓国にあるので働くことに支障はない。日本から韓国に来るバイヤーの通訳をして生活費を稼いだが、滞在2年目からはソウルで雑貨店を経営する在日女性の店に自分で作った雑貨を卸し、売ってもらって暮らすようになった。

「日本の生地と韓国の生地を組み合わせて小さな袋物を作ったりしました。アートの盛んな地域にお店があったので、こういう変わった物を好む人が多かったです」

この時期に学んだのは、韓服を仕立てる技術である。それ以前は見よう見まねで仕立てていたが、本来の仕立て方を知りたいと思ったのである。ソウルでは街の仕立て職人にミシン縫いの技術を習ったし、国立民族博物館で古い韓服を復元する技術も学んだ。復元はすべて手縫いである。この時期の勉強を通じて、韓服の仕立てのポイントのほか、着る人の体型に合わせた工夫の仕方なども知ることができた。

留学中、彼女は「夏枝」の韓国語読みで「ハヂ」と呼ばれていた。日本では「なつえ」「なつちゃん」、両親には「なつえちゃん」と呼ばれていたが、

「ハヂも自分の名前なのだ」

という自覚が芽生えた。日本人でもなく韓国人でもない「在日」という国の住人。そんな自分だけができる表現があるのではないか。新しい発見とともに呉が帰国したのは28歳のときである。アーティスト名は通名ではなく「呉夏枝（オ・ハヂ）」。以前からときおり個展やグループ展に参加してきたが、

帰国後はその活動の幅をさらに広げていった。2009年には公募で選ばれて、国際芸術センター青森で国内外のアーティストとともにグループ展を行った。


写真を使った作品作りで他者の「記憶」を表現

さらに2013年2月には同じく国際芸術センター青森のアーティスト・イン・レジデンスとして、美術館が収蔵する刺し子の着物と彼女の作品を独自の手法で展示する個展を開催した。ただ刺し子やチマチヨゴリを展示するのではない。刺し子の着物は天蚕糸てんさんすいで吊って立体化し、それを着ていた人間やその生活まで想像させている。刺し子の技術は高く美しいが、それを受け継いできた人間の体温まで感じさせる展示は、図録の写真で見ても新鮮である。

近年、呉が祖母や母のチマチヨゴリを使った写真作品に行き着いたのも、このときの経験が生きているのではないだろうか。マネキンやボディに着せてしまうとそれはただの衣服になるが、立体的に吊り、コンピュータ処理で天蚕糸を消してしまうと、そこに人間が浮かび上がる。いったいどんな女性が着ていたのだろうか。彼女はなぜ日本で生きているのだろうか。どんな喜びや悲しみを背負っていたのだろうか。

「自分で作品を縫っていると行き詰まりを感じることはありませんでした。私のテーマは祖母が語らなかった記憶を表現すること。それは祖母であっても他人の記憶なのに、実際に布に託していたのは自分の思いだったからです。どうすれば祖母や母自身の記憶を表現できるのだろうか」と悩みました」

青森での展示を経て、立体的な表現を写真に残すことを考えつく。写真なら、自分の感情を排除し



祖母や母が着たチマを天蚕糸で吊し、光に透かして撮影した。そこにいないはずの人の肉体が想像され、その人生にまで思いが至る。

異国で暮らした祖母、日本で生まれ育った母、カナダに留学し豪州で結婚生活を送る呉。移動して生きる女たちの流れに彼女もある。



た表現が可能になるのではないか。親しいカメラマンに相談すると、「それは自分で撮影したほうがいい」と言われ、試行錯誤しながらカメラを扱うようになっていった。撮影した写真を大きなパネルにして会場に設置する。微妙な光の加減も、繊細な布地の表情も、少しずつ表現できるようになった。だが質の高い写真を撮影するためには高価な機材が必要である。

「助成金（助韓哲文化財団―当時）は機材の購入などに使わせていただきました。それがなかったら、新しい作品作りは続かなかったと思います」

呉は今、移民の労働環境を研究する日本人の研究者と結婚してオーストラリアのシドニー近郊の町・ウロンゴンで暮らしている。以前はカナダのトロントで1年間暮らした。共に多民族の移民国家である。「同じことが当たり前」の日本で育った呉にとって、「違うことが当たり前」の環境が新鮮だった。

「今度も、違うところへ行つて違うことをすれば、作品世界が広がるんじゃないかと思っています」
濟州島から大阪へ、大阪からウロンゴンへ。受け継がれる女たちの記憶に、またひとつの流れが生まれた。

竹田陽子

国際芸術交流海の道代表
横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

東京・表参道の能舞台で、韓国の伝統舞踊と日本の伝統音楽の響演が実現した。二つの文化は深い水脈で響き合い、そこには「神気が降りてきた」という。仕掛け人の竹田陽子は、専門の情報技術を駆使し、舞踊の画像解析も手掛けている。古の芸の伝承に、新しい風が吹きそつだ。

文 西所正道

写真 渡辺 誠

韓国ジェインチョンの才人廳舞踊と、日本の伝統音楽の懐かしき出会い





たけだ・ようこ◎1988年、京都大学文学部（心理学専攻）卒業。市場調査会社に就職するも、研究者の道に。1999年、慶應義塾大学経営管理研究科で博士号（経営学）取得。国際大学グローバルコミュニケーションセンター助教授、スタンフォード大学訪問研究員、横浜国立大学大学院助教授をへて、2006年より現職。

日本人にも懐かしい韓国の「才人廳舞踊」

「懐かしい」と感じるときは、自分の背後の時間の流れに、ふと気付かされたときである。

日頃は、情報通信技術の企業や経営への影響について研究している、横浜国立大学大学院教授・竹田陽子が、韓国舞踊に出会い、のめり込んでいくきっかけになったのは、「懐かしい」という感情だった。

竹田が、韓国舞踊に出会ったのは2007年のこと。1年の「サバティカル休暇」を利用して、ソウル大学を拠点に研究していた。企業内などで情報技術がどう活用されているのか、一般のネットコミュニティはどうかといった切り口で、日韓比較をしようとしていた。

ある日、同大学の日本研究所長（当時）・韓榮恵と食事をしたとき、こう質問した。

「日本にいるときは、フラダンスをやっていたんですが、韓国では見かけませんね。体を動かしたいと思っっているのですが」

「それなら、伝統舞踊はどうですか？ 私も17年ほどやっているんです」

韓に紹介された教室で、グループレッスンを始めた。しかしまったくついていけなかった。現代音楽やダンスのような繰り返しがなく、しかも全体の構成が不規則で非対称で、一曲が長いときている。これではダメだと、個人レッスンも並行して始めたところ、これがよかった。

「教えてくださった鄭珠美先生の踊りがよかったですね。心を揺さぶられました。

韓国舞踊はなじみがないけれども、深いところで非常に懐かしく感じました」

同公演。才人廳「太平舞」
天下太平を祈って踊られる、
代表的な韓国伝統舞踊の一
つ。才人廳で着るのは男性
貴族の文官の衣装。(踊り
手は鄭珠美)



「海が伝える古(いにしえ)の記憶」の「鎮魂舞」。死者をあの世
に送る儀式が芸術的に展開する。(撮影・大槻茂、公演の3点)



同公演。才人廳「基本舞」クッコリチュム 才人廳舞踊の基本動作
を修練するための舞。動きが上品で女性的。



鄭珠美。韓国中央大学大学院舞踊教育科修士課程を卒業後、30代まで、韓国伝統舞踊を複数の師について勉強する。その中で、李東安イドンアンという「伝統舞踊の生き証人」と評される人物との邂逅かいこうを果たす。李は才人廳ジンニョウの長の家に生まれ、親が芸以外の道に進んでほしいと望んでいるにもかかわらず、芸の道を究めた。彼が最も重視したのが、「才人廳舞踊」だった。鄭もその影響を受け、才人廳舞踊を後世に伝えることを使命とするようになる。

才人廳舞踊とはどんな背景をもっているのだろうか。「踊ってみるとアニミズムの匂いがあるんです。調べてみると、シャーマニズムをベースにした舞踊だといいます。宮廷舞踊ではなく、庶民の生活に浸透していて、たとえば祝い事、正月などの季節の行事、またいっぽうで、身内に不幸があつて、なかなか悲しみが癒えないときに踊ったりもするようです」

才人廳は、各地にいた巫子ムイダシ、巫樂演奏者ムアケ、芸人らを統括とうかくする組合的なものだったという。李朝朝鮮時代にあつた祭祀や芸能を司る機関で、民間に伝わるさまざまな音楽や踊りを整理して後世に伝える役割も果たしていた。

1824年、現在の京畿道水原市キョンギドスウォンシにあつて、世界遺産に登録された華城ファソンに設立され、1920年、日本によつて廃庁を迫られるまで続き、末期でも4万人あまりの会員を擁ようしていた。

韓国の舞踊は、国の無形文化財に指定されて残る形態が主流である。国家に認められると、その道の大家が教えてテストをし、資格を与えるという、日本でいえば家元制度のようなシステムができる。したがつて、舞踊人口も増えていくわけだ。

だが、才人廳舞踊は無形文化財の指定は受けておらず、マイナーのままである。李朝朝鮮時代は世襲で伝わってきたが、今は崩壊。才人廳舞踊を学べる機会が多くあるわけではなく、後世への伝承が大きな課題になっている。

竹田は、才人廳舞踊を続けながら気付いたことがあつた。それは、体の使い方などに日本と韓国で共通点が多いことである。

「たとえば、伝統芸能の基本が呼吸だということは日韓で共通しています。それと躰せいかた下丹田かたんでん、あるいは「腰を入れる」という認識も共通していました。バレエなどは「天」に意識があるのとくらべると、対照的です」

また、観客と対話したほうがよい舞台ができるという認識も共通しているという。「たとえば能などは静かにみえるけれども、観客と対話している。これまで太鼓や太極拳、日本の伝統芸能などに私は触れてきましたが、アジアの伝統芸能は、質的な部分でも深いところにつながっているような気がします」

竹田が最初に感じた「懐かしさ」の背景には、そうしたこともあつたのかもしれない。

舞踊を通して国際交流を図る団体を設立

韓国から帰国後、また新しい出会いがあつた。舞踊家の柳美羅ユミラである。竹田が韓国舞踊を教えるもらつたのがきっかけだったのだが、話してみると、柳は日本と韓国だけでなく、アジアのいろいろな舞踊などと国際交流をしたいという熱意を持っていた。

柳は来日以来約10年、日韓芸術の文化交流を草の根で続けていた。韓国滞在中から、鄭を日本に呼

研究室の扉に貼られたお気に入り poster。中央の木は、ソツテといわれる魔除けの木。シャーマニズムの流れをくむ。





び、才人廳舞踊を披露したいと考えていた竹田は、柳とともに2011年、国際芸術交流「海の道」という団体を設立する。

すぐに公演をやれたわけではない。手始めに、一般市民向けの公開講座を催した。鄭を韓国から招待して実演の披露、そして体験。さらに竹田の専門でもある情報技術を使った伝統芸能伝承支援に関する研究についても発表した。これについては後で詳しく触れる。公開講座は3年続いたのだが、その経験は着実に公演への足がかりになっていく。

2011年、韓哲文化財団(当時)に助成を申請したところ授与され、公演が実現に向けて動き出した。

竹田は、舞台は能楽堂以外にないと考えていた。理由は韓国伝統芸能の本質と関わる。

「韓国の伝統芸能の本質は、天と地の交信なんですね、それを人間が媒介する。能楽堂というのは神がいらっしゃるところで、まさに天と交信する舞台装置としては最適だと思っただけです。韓国では伝統芸能も、バレエやクラシック音楽のコンサートをするホールで公演されるのですが、やはり違和感があります。とくに才人廳は大舞台向けではないので、能舞台ぐらいの空間がしっくりくるはずだと思います」

来日した鄭に日本の能楽堂を見せたとき、呟いた一言を、竹田はいまでも鮮明に覚えている。

「初めて見た気がしない」

公演は2012年7月16日に行われた。場所は表参道に近い鏡仙会能楽研究所。タイトルは「海が伝える古の記憶」韓国才人廳舞踊と日本伝統芸能の響演」である。

舞台の右手には韓国伝統楽器、打楽器のチャング、クエンガリ、プク、ジン、笛のテグム、ピリ、

テピョンソ、そしてアジェンという琴、口音が配され、正面奥には、日本の和太鼓、鼓、篠笛・能管、薩摩琵琶、鶴田流五弦琵琶が並んだ。奏者が音を紡ぎだし、舞台では舞踊が披露された。

第一部は、才人廳「太平舞」、能囃子「次第」「中之舞」、才人廳「基本舞」、五木の子守唄、「鎮魂舞」と、韓日の芸が交互に披露された。

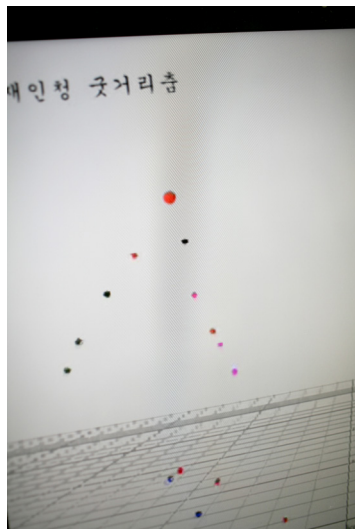
なかでも「鎮魂舞 キルタクム」散調舞「オツチュンモリシンカルデシム」が演じられているとき、舞台上の複数の人が、「神気が降りてきた」と感じたという。

「ゾクゾクとしましたね。神気とはつまり、靈氣、魂が降りてくる感じ。これは鄭さんだけでなく楽器の方もおっしゃっていました」

この演目は、巫女の儀式に振りをつけたような踊りなのだが、死者を送る儀式を芸術的にアレンジしたものだ。導入部では、あの世に死者を送る道をつくる。音楽はシャーマニズムのものだ。身につけているものは貴族の正装。始まりはやや重々しいが、次第に天と地のエネルギーを受けながら、躍動的になっていく。竹田によれば、この演目はとても能楽堂と合っていたと振り返る。

第2部の冒頭の演目「海わたる風」(仙堂新太郎作曲)では、日韓の楽器がセツションをするアレンジが施された。日韓の打楽器が掛け合いをするシーンでは客席から合の手が入るなど、会場は盛り上がりを見せた。

興味を引くのは、五木の子守唄が間にはさまる構成になっていることだ。なぜ五木の子守唄なのか。この歌が三拍子であることに理由がある。民謡など日本の伝統的な楽曲で三拍子は珍しく、一説によると、朝鮮半島から渡ってきたものではないかというのだ。つまり海を渡って九州に来たのではないかと。



モーションキャプチャーは、モデルになる人の体にセンサーやマーカーを複数つけて、その点の動きを追うことで人の動きを記録する。



モーションキャプチャーを使った太鼓のワークショップ。
「楽器というのは、動きがすべてで、音は結果だ」という。



モーションキャプチャーでつくった画像。最先端の情報技術で、伝統芸能を伝承する可能性を追求している。



「鄭さんに歌の意味は伝えましたが、最初はどうかと、すごく悩んでいました。ところが、実際に曲が流れ、舞台上上がり、感じるままに振りをつけていくと、それがびつたりで。理屈はわかっ
ていなくても、芸術の中にあるものをくみ取って表現できる、その感性に驚かされました」

もう一つの発見は、鄭の踊りが能の形式に極めて似ていたことである。

「人生の楽しかったこと、辛かったことなどをいろいろと思い出しながらも、最後はしばらく心
解放されて去って行く。これはまさに能の形式と同じなんです、これを鄭さんが即興でやったこと
に、彼女の能力の高さを感じました」

2部では、このあと才人廳チンセチュム、京畿トリチュムが披露され閉幕となった。

竹田はこの公演にプロデューサーとして参画したが、一番嬉しかったのは、韓国側の出演者がみな
満足していたということである。

鄭は公演後、こう言っていた。

〈能楽堂は才人廳舞踊と非常に合う舞台だと感じました。さらに観客のみなさんの雰囲気もよく、感
動しました。観客と舞台と舞踊する者の三者が一つになるといって、最高の芸術の本義を感じました。
偉大な舞台でした。夢が叶いました。一生忘れることがない舞台になりました〉

観客との一体感も、舞台をよりよいものにしていったのだ。観客の感想を抜粋する。

〈舞台と一体となり、とても楽しかったです〉

〈鄭珠美さんの表情、動き、息遣いに才人廳に魅せられた魂の光を見たように思う〉

〈一番古いものを極めている人が実は一番新しいことを生み出しているのかもしれないです。今日の
公演はすべて古いのに、新しい感じがしました〉

一体感とは、豊かな感性と深い理解があつて初めて成り立つものだということがわかる。

先端の技術で古の芸を伝承する試み

前述したが、竹田は、自分の専門分野、情報技術を才人廳舞踊の伝承に活用する試みを続けてきた。

竹田が、韓国舞踊を習い始めて感じるものがあつた。それは、「伝統芸能という言葉で伝えら
れないコミュニケーションの典型である」ということだ。

「もちろん言葉も使つて伝えるのですが、それはヒント程度のも。ほとんど比喩だと思ひました。
初歩的な体の動かし方に関しては言葉で伝えられるかもしれませんが、それ以上となると難しいと感
じました」

言葉として伝えられないことをどう伝達するか。これは竹田の新しい研究分野になった。

帰国して2年目に始めたのが、モーションキャプチャーの活用である。モデルになる人の体にセン
サーやマーカーを複数つけて、その点の動きを追うことで人の動きを記録する。

「わかるのは点の動きでしかないのですが、プロの人や踊りに習熟している人が見たら、たとえばど
ういう呼吸をしているのかもわかるんですね。普通の映像で演者の動きを見ていると、顔の表情など
に気を取られて、大事な動きを見逃してしまいがちなのですが、モーションキャプチャーだと動きだ
けに集中できるのもいいようです」

また、モーションキャプチャーは、「とても感覚的だ」という指摘も興味深い。

「工学系の研究者は、データを解析して、人のモデルをつくらうとするのですが、私は、芸の伝承に

韓国舞踊の呼吸法の影響
か体調がいい。その呼吸
法を伝えるワークショッ
プも計画中という。



は点の動きをそのまま見せることが有効だと考えています。人の感覚を通して伝えたほうがよいような気がします」

実際、才人廳舞踊の伝承現場にもモーションキャプチャは活用されている。指導者の踊りをモーションキャプチャーで撮り、それをCG化した画像をつくったところ、弟子たちがiPhoneにデータを移して、それを見ながら、公演前の練習をしたこともあったようだ。

将来的には、特別な設備がなくても、ゲーム機のようなデバイスを使って、簡単に撮影ができるようになるだろうと、竹田はみている。

「まだまだ工夫の余地はありますが、日本舞踊でも授業のたびに撮影して、変化を見ながら指導に役立ててもらおう試みもしています。やる気のある人が利用すれば、便利なツールになるはずですよ」

シャーマニズム、アニミズムの色濃い才人廳舞踊が、最新のモーションキャプチャーを通して伝承されるといふ取り合わせがおもしろい。これがうまく活用されれば、まったく新しい踊り手が育つかもれない。

(文中敬称略)

古代日本と新羅の交流を起点に東アジアの国際環境を読み解く



東潮

考古学者／徳島大学名誉教授

694年、持統天皇によつて開かれた藤原京。
東アジア考古学の泰斗、東潮によれば、
唐よりも、新羅の影響を深く受けているという。
一つの文化を理解するには、時代の状況や
国際環境を、虚心に捉える視点が欠かせない。
朝鮮から中国、モンゴル、さらに西域へ。
日本とアジアの歴史を、新たな光で照らし出す。

文＝高瀬 毅

写真＝菊地健志



あずま・うしお◎1946年生まれ。徳島大学名誉教授。九州大学大学院文学研究科博士課程修了。奈良県立橿原考古学研究所主任研究員などを歴任。著書に『高句麗壁画と東アジア』『倭と伽耶の国際環境』『邪馬台国の考古学』など多数。調査、踏破した地は東アジアからユーラシア諸地域、エジプトにまで及び、さらに関心を広げている

万葉の都・藤原京に香る新羅の文化

奈良の中心部を南北に走る国道169号線に沿って、広大な土地と空間が広がっていた。左の方角にこんもりとした丘のような形状の山が見える。

「春過ぎて 夏来るらし 白妙の 衣干したり 天の香久山」(万葉集・持統天皇)で知られる、あの香久山だ。後方には耳成山。右手は畝傍山。大和三山のこれらの山に抱かれるようにして残るその土地は、万葉の時代を象徴する藤原京跡の一部である。2014年9月最後の日。徳島大学名誉教授で考古学者の東潮とともに旧跡を歩いた。汗ばむ陽気の中、東の足取りは飄々として軽い。藤原宮の大極殿基壇跡が残っていて、近くでは、発掘作業が行われていた。

藤原京は、現在の奈良県橿原市を中心とした地域に造られた日本で最初の本格的な都である。飛鳥時代の694年、天武天皇の遺志を継いだ女帝の持統天皇が、飛鳥浄御原宮から北へ数キロの地域に遷都し、律令国家を象徴する都とした。地元の橿原市藤原京資料室に置いてあった「観光ガイド」には、「中国の都城制を模して造られた」とある。多くの歴史関連の書籍にもそう書かれている。

だが、東は違う見解を持っている。

「実は、藤原京と新羅の王宮(金城、または金京)が相似形なんです。おそらくは、唐の長安城と新羅の影響を受けて藤原京が造られているんだらうと思います。ですから唐の長安城そのものを、藤原京が模倣したのとは違うんですね」

つまり東は、唐の都の影響がダイレクトに日本に入ってきたのではなく、新羅との関係によっても



たらされたのではないかと見ているのだ。その根拠とするのが坊里制である。坊里というのは、四方形の区割りを示すもので、一坊里は約320メートル四方に当たるといわれる。

東は、1999年に「新羅金京の坊里制」という論文を書いているが、2012年には、「新羅金京の坊里制再論」を発表した。この論文は、百済・山城研究の第一人者で、故成周鐸忠南大学校長、教授の記念論文集に掲載されたが、その中で東は、日本の飛鳥浄御原宮から藤原京が成立する過程で、新羅金京の影響のあったことを論じている。

それによると、新羅・金京と唐・長安城との比率が、東西南北が1対3、面積は1対9の関係にあるとし、「つまり金京は長安城の9分の1の規模である」と述べている。一方、金京と藤原京との比率は、1対1・65の相似形である。坊里によっては、それが1対1・84というものもあるが、いずれにしても金京より藤原京のほうが大きい。藤原京と長安城は、比率が南北1対1・81、東西1対1・84。面積は1対3・3となり、藤原京は長安城の3分の1の規模ということになる。

12年10月から12月、勸韓哲文化財団（当時）の11年度の研究助成金を受け、韓国の慶北大学博物館に滞在、新羅や百済の都城を調査し、仮説を検証した。

坊里という尺度を使つての研究だけに、調査は精密さが求められる。東は、遺跡の位置などを計測するのにGPSを愛用し、地図を片手に、遺跡の位置や大きさなどを照合、検証していく。

「GPSの誤差はだいたい4メートルぐらいです」

そう言いながら、大極殿があつた藤原宮の近くを片時も休まず、あちこち歩きまわっている。そうした細かい作業の積み重ねの上に割り出した考察は、精緻で、実証的だ。

藤原宮跡から約1キロ南西にある本薬師寺跡。ここにも、新羅の影響を証明する痕跡が残っている。

人通りの少ない住宅地を抜けて行くと、突然、薄紫のホテイアオイの花がびっしりと咲き誇る場所に出た。その向こうに、鎮守の森のような、樹木が茂っている小さな台地があつた。そこが本薬師寺のあつた場所である。本薬師寺とは、藤原京にあつた薬師寺のことで、現在の移転した薬師寺と区別されている。本薬師寺跡は双塔式で、翼廊のつく金堂など、伽藍の配置は慶州の四天王寺跡や、感恩寺跡と同一だ。本薬師寺の跡には、金堂と塔の礎石が二つ、しっかりと残っていた。同じ藤原京にあつた大官大寺も本薬師寺と同様、新羅の寺の様式だという。東は、この藤原京と新羅・金京の類似性、相似性の背景に、当時の日本と新羅との活発な人的、文化的交流や関係があつたと語る。

663年、倭国・百済連合と、唐・新羅連合との間で白村江の戦いが起きた。この戦いで倭国・百済連合は敗退。倭国は、唐と新羅に対する敗戦国であつた。669年から701年にかけて遣唐使が中断された。一方、同時期に統一新羅が成立（668年）。唐の長安に倣つて王都を整備する。倭国と新羅は、以来約30年間、遣新羅使や新羅使などによって交流は盛んになっていった。対外関係は進展し、新羅からさらには渤海へと交流の範囲が広がっていく。

「30年間のあいだに新羅との関係が深まって、建築の技術が入ってきたんです。その技術を生かして建築した物の一つが勢多（瀬田）橋（滋賀県）です。のちの瀬田唐橋の唐橋です。壁画の技術も新羅から流入してきました」

ところが、こうした事実にはあまり知られていない。遣新羅使という言葉も耳慣れない。東によれば、中国・唐偏重の歴史観にとらわれてしまい、新羅との関係が見過されてきたのが原因の一つだという。また、古代の歴史書である『日本書紀』などでも新羅を蔑視する史観があり、新羅の印象が薄くなつてしまったからだとみる。



奈良県の藤原京跡にある大極殿基壇跡の近くで発掘作業中の教え子の調査員と出会った。作業の進捗を聞くのもまた嬉しい。



百穴古墳（滋賀県大津市）。6世紀後半の遺跡。斜面地に穴を掘った造り。「倭人の村長のような人を埋葬したと思われます」



愛用しているGPS。常に持ち歩き、地図を片手に遺跡の位置、長さ、大きさなどを照合、検証する。誤差は約4メートル。



自宅からほど近い所にある南滋賀遺跡（6世紀後半）の発掘現場。調査員とのやり取りで得る情報も研究のヒントになる。



2013年4月、財団の助成金で行った韓国忠清北道の三年山城内で催された「古代の鍛冶実験」を試みる（写真提供・東潮）

東は、日本の古代史の中で、見落とされがちな倭（日本）と新羅との関係に焦点を当てて研究を続けていて、財団の助成金によるテーマも、「新羅王京と東アジア——遣唐使から遣新羅使へ」というものだ。狙いは、中国・唐偏重の歴史観に囚われ、看過されてきた7世紀から8世紀の統一新羅をめぐる国際環境を明らかにすることだった。

東の調査の特徴は徹底して歩き、現場を踏査する点にある。今回の助成金による活動として、12年5月に、中国黒竜江省の渤海上京龍泉府を調査。ここは、渤海の首都で、唐の長安城を模して造営されたといわれている遺跡だ。渤海では王陵や、その他吉林省などの都の跡も歩いている。同年10月から12月には、先述の韓国・慶北大学博物館。13年7月には韓国で百済・慕韓の墳墓の調査。8月、モンゴルでスキタイ・匈奴・突厥の遺跡を調べた。なかでもモンゴル草原の、トルコ系騎馬遊牧民、突厥の時代に造られたとみられるオラン・ヘレム壁画墓を通して、「唐と突厥、唐と新羅、突厥と高句麗の関係を研究できた」と自信を見せる。このときには、出版されたばかりの発掘調査報告書を手、帰国後に「モンゴル高原の突厥オラン・ヘレム壁画墓」という論文にまとめている。さらに、13年12月には、中国陝西省西安、河南省洛陽で隋や唐の都城、帝陵を踏査し、「近年、西安で発見された百済滅亡時、義慈王とともに唐に降った彌氏一族もふくめ、当時の国際環境をみた」。

東は、一つのテーマについて調べながら、常に、その背後にある国際関係や地理的な広がりについても視野に置いている。この一連の調査も、東の中では広い面につながっている。

「たとえば、新羅をめぐるの国際的な関係はというのが、東アジアの枠を超えて、東ユーラシア、西突厥、ソグドまでひろがります」



2014年に発掘された奈良県
明日香村の都塚古墳の石室
内部。国内では例を見ない大
型方墳。蘇我稲目の墓という
説もある。

東アジアを鳥瞰し、歴史観を問い直す

アジアへの関心は若い頃から強かった。考古学を専攻していた九州大学大学院時代、邪馬台国への道を調査するために、「古代復元船「野性号」で、魏志倭人伝に書かれた日本へのルートをたどる航海に参加している。雑誌『野性時代』（角川書店）の編集長だった角川春樹が企画した一大イベントだった。このときは福岡を発ち、ソウル、慶州、釜山、金海を歩き、釜山港から、対馬・壱岐・唐津、博多港と半月の航海を体験した。その後、研究者としての道に入ってから今日まで、膨大な数の海外調査を行ってきた。朝鮮半島、中国大陸各地を中心に何十回もの調査を実施。モンゴル、ロシア、ベトナム、エジプトなどにも足を延ばしている。東は、最近『邪馬台国の考古学 魏志東夷伝が語る世界』（角川選書）という本も著しているが、この中でも、「フィールドワークをもとに倭人伝を魏志東夷伝の中で位置づけ、その世界を再現したい」と記述している。フィールドワークの場所は、高句麗、扶餘、東沃沮、挹婁、洛陽、遼東郡、樂浪郡、帶方郡、玄菟郡、大興安嶺、内蒙古・モンゴルの烏桓鮮卑、東夷諸族の地、ベトナム・ハノイの交趾郡、西南夷の夜郎国・滇国、西域伝の各地域となっている。邪馬台国を、倭と中国との関係だけでなく、もっと広大な地域の中で捉えなおしていくのは東の真骨頂だ。

東とアジア各地を何度も一緒に調査旅行をしてきた、文化遺産関連のミニコミ誌の編集長佐々木章は、東について、「徹底して現場を歩く人」だと称賛する。「残りの視察の時間が1時間しかなくても、目的の遺跡などが見つかるまで、2時間でも3時間でも歩く」というのだ。そのたびに予定変更を余儀なくされるが、東は妥協しない。その東が今、最も関心を持っているのが、明治時代から昭和にか

徹底して現場を歩き、調査、
踏破することを課してきた。
「歩く考古学者」として、
見据えるのは人類学の先覚
者、鳥居龍蔵だ。



けて活躍した鳥居龍蔵だ。

「人類学、考古学、民俗学の研究者で、日本国内をはじめ、朝鮮半島・中国東北部・モンゴル・西南中国・台湾・千島列島・サハリン・東部シベリア・南米ブラジル・ペルー・ボリビアなどの各地を精力的に調査したフィールドワーカーだった。またカメラの導入など、先進的な調査方法の開拓者で、日本における人類学研究の先覚者として大きな業績を残している」（徳島県立鳥居龍蔵博物館資料参照）

佐々木によれば、東は、「現代の鳥居龍蔵として、鳥居の歩いた道を書く考えを持っている」という歴史を知るには、今の時代の視点で見てもいけない。あくまでその時代の状況や環境の中でどうだったのかということを見て、実証的に研究していくことが重要だと考えている。

「唐の時代、唐と周辺諸国との関係はどうかであるのか。唐と新羅、唐と日本の関係と同じように、唐は西の諸国とも密接につながっていた。そういう目で全体を見ていくと歴史の流れがわかる」

そうした観点に立った上で、東が今気になっているのが日本とアジア諸国との歴史認識の問題だ。

「高校の日本史の教科書に、現代の日韓の誤った歴史観が書かれているんですよ。たとえば、『日本書紀』継体紀に倭が百済に「任那四県」の地を割譲したという記事があります。『日本書紀』の編者は「任那四県」の場所を全羅南道の梁山江流域に想定しています。倭が百済に領土を与えた。つまりそれまで倭の領土であったというわけです。百済の武寧王の時代に梁山江流域を領域化したのです。そうした歴史背景をもとに『日本書紀』の編者が創作したのですが、教科書には史実としてそのまま記されています。歴史認識の問題は、古代における関係について、なぜそういう差別観という固定観念があるのかということ、学界も含めて問題提起していくことが大事だと思います」（文中敬称略）

國分典子

日韓比較憲法研究会代表 / 名古屋大学大学院法学研究科教授

憲法は国民の意志である——
法律を学ぶことは、その国の
社会と歴史、文化を知ること——
憲法学者、國分典子の「韓国法」ゼミは、
学生たちの熱気に包まれている。
「人とのつながりを大切にしたい」という
思いから日韓比較憲法研究会も立ち上げた。
交流の輪が、たおやかに広がっていく。

文：歌代幸子
写真：菊地健志

憲法の比較研究から生まれた日韓の確かな絆



こくぶん・のりこ◎1957年愛知県生まれ。慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学。92年ドイツ連邦共和国エアランゲン・ニュルンベルク大学法学博士号取得。愛知県立大学文学部日本文化学科教授等を経て、2005年筑波大学大学院人文社会科学研究所教授に就任。2014年から名古屋大学大学院法学研究科教授に就任。著書に『近代東アジア世界と憲法思想』（慶應義塾大学出版会）ほか。

晩秋に暮れゆく名古屋大学のキャンパス。法学研究科の一室ではぼつんと灯りがともり、「韓国法」のゼミ演習が始まった。

教授の國分典子こくぶん・のりこを囲むのは3人の男子学生だった。法学部の4年生と大学院生、もう一人は博士課程で学ぶ韓国からの留学生。来日して18年になるといふ50代の彼がリードするように、熱い議論が交わされていく。違憲審査をする憲法裁判所の意義は、日本と韓国における憲法学の違いとは……。

「そもそも憲法とは何か。私が韓国の先生に言われたのは『国民の意志である』と。日本と韓国の学者では論じ方も違い、韓国では民主主義を守るという意識が強いと思います」

指導する國分自身も学生たちの意見に真摯まじしに耳を傾け、疑問を抱けば率直に投げかける。

「これが正しいという正解があるわけではなく、私自身も結論を出せないことがほとんど。だから、みなで話し合い一緒に考えることが大事なんです。学生たちは可愛くて、新鮮な目で思いもかけないことを言ってくれるので勉強になりますね」

名古屋大学大学院へ教授として着任したのは2014年4月。それを機に同大で韓国関係のゼミが開講され、國分は年代もさまざまな学生相手に手探りで進めてきた。

ゼミ生の一人、政治学科4年の学生はもともと韓国の地域研究に興味があり、新任の國分のもとへ直接メールを送った。ゼミの聴講を希望すると、すぐに快諾の返事が届く。

「すごく優しいそんな先生で、おつとりとして温和なイメージ」

初対面の印象はそのまま変わることなく、互いに近い距離で論じあえるゼミで憲法への関心も深まった。

「政治に関わる問題は幅広く、理解するためにはツールが必要。法律を学ぶことで、その国の社会や



名古屋大学の「韓国法」のゼミ生が早稲田大学大学院への入学が決まり、みなで味噌おでんを囲みながら祝杯を交わした

した。でも、小学校の終わり頃からだんだんお姫さまにはなれないとわかり、ただお嫁さんになって家庭に入るよりは、何か仕事ができようほうがいいのかなとぼんやり考え始めたのです。将来の夢を聞かれても、どんな仕事があるかわからず、母にアナウンサーやスチュワーデスはどうかと言われても関心がなない。勉強もあまり好きではなく、これといって自信をもてることもなかったんです」

進学した私立の女子校では引っ込み思案な性格ゆえ友だちの輪に入り込めず、休み時間も小説を読んで過ごした。そんな思春期を送った自分に少なからず影響を与えたのは、父の存在かもしれないと振り返る。

父親は名古屋大学で超伝導を研究する物理学者であった。実直そのもので人付き合いは得意でない父に「似ている」と言われて育ち、いつしか自分も同じ道を志すようになった。もともと理科系は苦手であり、法学部へ

歴史、文化も知ることができる」

ゼミでそう学んだ彼は、國分から手厚い指導を受けて大学院への進学を決めたという。この日、ゼミが終わると、國分はみなを誘い合わせて、名古屋名物「味噌おでん」が人気の居酒屋へ向かった。早稲田大学の大学院へ入学が決まった男子学生のためにお祝いの会を催したのだ。

牛スジ、こんにゃく、大根などを八丁味噌でこっくり煮込んだ熱々のおでん、甘辛い味噌ダレをのせた串カツなどがテーブルに次々並び、大皿はたちまち空になっていく。旺盛な食べっぷりの若者たちを見ながら、小柄な國分はちょこんと座って愉しげに微笑んでいた。

はにかみ屋の少女が選んだ憲法学者の道

憲法学者・國分典子の素顔は、おそらく少女のときから変わらないのだろう。

「なんだか頼りないでしょう。あまり先生らしくないし、本当に好きなことがあつて学者になった人にはとても敵わないと思つていて……。小さい頃は『若草物語』や『赤毛のアン』のような世界に惹かれ、どこか山の中に放り出されても、ずっと空想にふけり、食べるものさえあれば大丈夫と思つていました」

恥じらいながら話す当人はもともと名古屋の生まれ。両親と妹の4人家族で市内に実家もあつたが、老いた親を案じて、自分が今も住む横浜近隣へ呼び寄せたという。そんな國分に幼少からの歩みを聞くと、勝手に描いていた「憲法学者」の堅い人物像は薄らいでいく。

「バービーちゃんとか着せ替え人形が好きで、仲良しの友だちとよく『お姫さまごっこ』をしていま

名古屋大学で受け持つ韓国法の特権講義。司法権を担う法院と違憲審査を行う憲法裁判所について講義した。韓国や中国などアジアからの留学生も聴講する。



法院

命令

才半

憲才

法律の
違憲性

申請

移送



進もうと考える。法学部ならば弁護士の道もあり、「きつとカッコいい」と思ったからだ。

慶應義塾大学の法学部へ進むと、共学の伸びやかな気風は肌に合っていた。法律を学ぶなかで、ゼミのテーマに選んだのが憲法。法学では基本となる科目で、人間や社会の根本的な在り方を考える学問として関心があつた。

履修したゼミではドイツ語の憲法の教科書を読まされ、その後の研究につながっていく。大学院で博士課程を修了すると、「アデナウアー財団」から奨学金を得て、ドイツへ留学。南部バイエルン地方にあるエアランゲン・ニュルンベルク大学で博士号の取得を目指した。

「私は憲法ができあがる過程で出てくるいろんな概念やその背景にある思想の変遷へんせんに興味がありました。日本の明治憲法はドイツ・プロイセンの影響が強いといわれ、ドイツで憲法思想史を勉強したいと思ったのです」

当時、國分は慶應大の専任教員だった政治学者と結婚して間もない頃。研究への理解ある夫に背を押され、単身でドイツへ渡って4年間学んだが、そのなかで自身の研究テーマに対する疑問が生じていった。

西洋社会にふれる刺激はあつたが、やがてドイツ人の旺盛なメンタリテイになじめず、溶け込めない自分を感じていく。ことにヨーロッパではアジア人への偏見も体験した。

一方、同じ奨学生の中で最も多かったのは韓国からの留学生だ。大学へ入る前、アジアから来た奨学生たちはドイツ語学校で語学の訓練を受け、國分は初めて韓国人と話す機会を得た。ちょうど韓国では1987年の民主化以後初の大統領選挙があり、88年のソウル・オリンピックに沸わいた時期である。彼らは「日本のことは好きではない」と言いつつも、日本人留学生と親しく付き合ってくれた。

「彼らの中には法律を勉強している人もいて、日本の法律についてよく知っている。一緒に話しているうちに、自分は日韓の歴史などもあまりに知らなすぎることを感じ、韓国へと目が開かれていったのです」

違和感を持ちながら、西洋社会や法律だけを研究对象として見ていいのか。留学中にはそんな疑問も膨らみ、東アジアの中でも特に韓国法を勉強したいと思うようになった。

足元の日本と韓国の法律を研究テーマに

ドイツから帰国後、國分は愛知県立女子短期大学の講師として就職。96年には韓国国際交流財団の助成を受けて韓国へ半年間留学し、本格的に韓国語を学んだ。そこで韓国が近代化を進めた開化期における憲法思想の研究に取り組む。國分の論文は日韓の法学者の目にとまり、研究者同士のつながりができた。

その頃、北海道大学で日韓の研究プロジェクトに携わり、シンポジウムに國分を招いたのが、現・福岡女子大学国際文学部教授の岡克彦だ。岡は國分との出会いをこう語る。

「物腰が柔らかでスマートな人。韓国を研究する学者はどっぷり地域へ入るタイプが多いなかで、新しい研究者の誕生という印象でした。國分さんはドイツ法の研究から入り、韓国もドイツ法をベースにしているので、韓国法を知る上で重要なツールになるのです」

日本国内でも韓国法の研究者は少なかったが、アジア法学会などに参加する中で少しずつ交流も広がっていく。そのなかで國分や岡たちが発足させたのが「韓・朝鮮半島と法研究会」。韓国と朝鮮関



韓国と北朝鮮関係の法律を研究する学者が年2回集う研究会では、民法、行政法など多面的な視点から学び合う。



「韓・朝鮮半島と法研究会」の懇親会が東京・新大久保の韓国料理店で開かれ、筑波大学大学院の学生らと語らう。



2012年に伊東で開催した「日韓比較憲法研究会」の共同研究会。のどかな温泉地で和気藹々と親交も深まった。(写真提供 國分典子)



日韓の憲法学者による共同研究の成果をまとめて、2012年に1巻目を刊行した。

係の法律を研究する人のネットワークづくりが目的だった。代表をとめる創価大学法科大学院長の尹龍澤はその趣旨に大いに賛同したという。

「経済などはひとりですさまざまな分野を手がけることも可能だが、法学界は憲法、行政法、民法など一つ一つの分野が独立している縦割りの世界。それぞれ精通する人間が集まれば、全体像をつかむきっかけになり、多面的な角度から捉えられるので理解が深まりますね」

最初は6人で発足し、現在は30人ほど名を連ねる。民法で日韓の研究をする専修大学法学部教授の中川敏宏は「憲法学の世界で日韓の比較をするのは國分さんがフロンティア的存在。研究者同士のつながりは心の支えになり、情報交換もできる。日韓を比較することがどれだけ役に立つかは未知数でも、だからこそさまざまなチャレンジができる」と期待を寄せる。

日本の憲法研究者も次第に韓国へ目を向けるようになり、日韓交流の声があがる。その一つの端緒となったのが、2008年に韓国憲法60周年を記念して韓国国会で開かれたシンポジウムだ。日中韓を中心とするアジア諸国の学者が集い、これを機に日韓の学者の間でより深い共同研究をしたいという気運が芽生えた。

2010年にはシンポジウムに参加した日韓の憲法学者が中心となって、「日韓比較憲法研究会」を設立。翌年、韓国・大邱市で日韓憲法論の比較検討を行う共同研究会が開かれた。さらに國分らは日本での開催を目指して、(助)韓哲文化財団(当時)の助成金を申請し、その成果を共著による著書として刊行することを目標にした。

2012年8月、韓国から学者を招いて、静岡の伊東で2泊3日の共同研究会を行った。「表現の自由」「社会権」など一つのテーマについて日韓の学者が発表し、参加者とじっくり論じ合う。この

父親も研究生生活を送った名古屋大学へ着任して1年。熱心に学ぶ学生たちに刺激を受け、「私も癒されています」とほほ笑む。

年9月末には、それまでの研究報告をまとめた『日韓憲法学の対話』の1巻目を出版し、続いて第2巻の執筆も進めてきた。

「日韓の交流は盛んになっていても、一過性で終わることも多い。持続的に交流していくうえで互いの理解を深めるきっかけになったと思います」と國分は手応えを感じていた。

今後は日本在住の若手研究者や日本で韓国法を研究する若い学者たちに発表の場を提供し、新たな人材育成にも尽くす。國分らが年2回開く「韓・朝鮮半島と法研究会」には、かつて筑波大学大学院で教えていた学生や教え子たちも喜んで参加してくれる。今ではともに研鑽する頼もしい仲間でもある。

「やっぱり人のつながりを大切にしたいのです。韓国の人は私たちが韓国について研究しているだけで温かく迎えてくれる。そうした人たちに支えられ、私も頑張ろうとやる気が出るのかなと（笑）。彼らはガッツがあるから、それが伝わるのかもしれない」

小柄で華奢なこの人に、どれほどのバイタリティが秘められているのか。國分に聞くと、ただ困ったようにほほ笑む。たえず輪の中心に一人ひとりにそそぐ優しいまなざしに、ともに歩む同志たちも惹かれるのだろう。

（文中敬称略）

樋口直人

徳島大学総合科学部准教授

多文化共生は掛け声だけなのか？
民族差別を標榜する「在特会」が
一定の支持を得る昨今の世相に
心を痛めている人は多い。
排外主義の克服は、在日コリアンの
実像を知ることから始まる――。
樋口直人は大学で教鞭をとる傍ら
フィールドワークを重ねている。

文＝西所正道

写真＝渡辺 誠

在日コリアンの地位の変遷と日本人の排外主義を調査



ひぐち・なおと◎1969年生まれ。1994年、一橋大学社会学部卒業、99年、同大学大学院社会学研究科博士課程を中退し、同年徳島大学総合科学部講師となり、2005年助教授（現准教授）に。著書に『日本のエスニック・ビジネス』（編著）、『日本型排外主義 在特会・外国人参政権・東アジア地政学』などがある。

「在特会」活動家の歪んだ心象風景

新宿・新大久保界隈を撮影しながら歩いていると、樋口直人（徳島大学総合科学部准教授）は大久保公園を指さしながら言った。

「在特会の人たちは、近くの柏木公園を起点にして、周辺を練り歩いて、またあの公園に戻って解散するんです。途中、在日コリアンの人が営んでいる店に、嫌がらせを言ったりしていましたね」

在特会とは「在日特権を許さない市民の会」の略称で、過激なプラカードを持つてデモをする2007年に設立された団体だ。同会によれば、会員数は15355人（2015年2月2日現在）。

樋口は、活動家たちがデモに参加した経緯や動機、イデオロギー傾向、外国人との接点、選挙での投票傾向、仕事などについて面接調査した。

「2012年に出版された『ネットと愛国』が、講談社ノンフィクション賞を取るなど、話題になっていました。著者の安田浩一さんはかなり取材されているのですが、彼の発言や本の中身に疑問を抱く部分があったのです」

たとえば安田は、「取材した半分以上の人が日韓W杯をきっかけに韓国が嫌いになった」（『週刊朝日』2013年45号の座談会で）と発言していたので、「何人か何人がそう答えているのか？」と尋ねても根拠を明示しなかった。感覚的に捉えていることがわかった。

また著書では、「僕が会った在特会員のほとんどが非正規の労働者で、経済生活の不安定な人が多く、精神的にも追い詰められている「しんどそうな人々」と表現、非正規雇用だから排外主義になっ



たかのような表現も気になった。非正規雇用がなくなれば排外主義が収まるほど単純ではないからだ。樋口は活動家に取材するため、同会にアプローチした。が、取材は難航した。というのも、在特会内部が組織的に不安定な時期であり、在特会と安田との間にトラブルが生じ、同時に取材制限をかけているタイミングの悪いときだったからである。それでも粘った末、34人の活動家に話が聞けた。その結果、安田の言うような「しんどそうな人々」は多数派ではないこと、そして彼らが在特会に引きつけられる理由は他にあることがわかった。

詳しいことは、樋口の近著『日本型排外主義 在特会・外国人参政権・東アジア地政学』（名古屋大学出版会）に譲るとして、要点をまとめれば以下のとおりだ。

彼らの基本にはイデオロギー的に保守的な傾向があった。そういうタイプの人が、ネットサーフィンをしているうちに、在特会の存在を知ることになる。

彼らがネットで調べていたのは、何も政治的な問題や韓国のことでもなかった。たとえば株式に関するサイトをネットサーフィンするうちに、在特会のページに行きつくのだ。在特会を率いた桜井誠（会長は14年11月退任）は、プレゼンテーションに秀でた人物で、ネット環境にいる人々を引き込んでいく。この現象を樋口は、「バーチャル空間に張られた蜘蛛の巣に引っかかる蝶」と表現する。

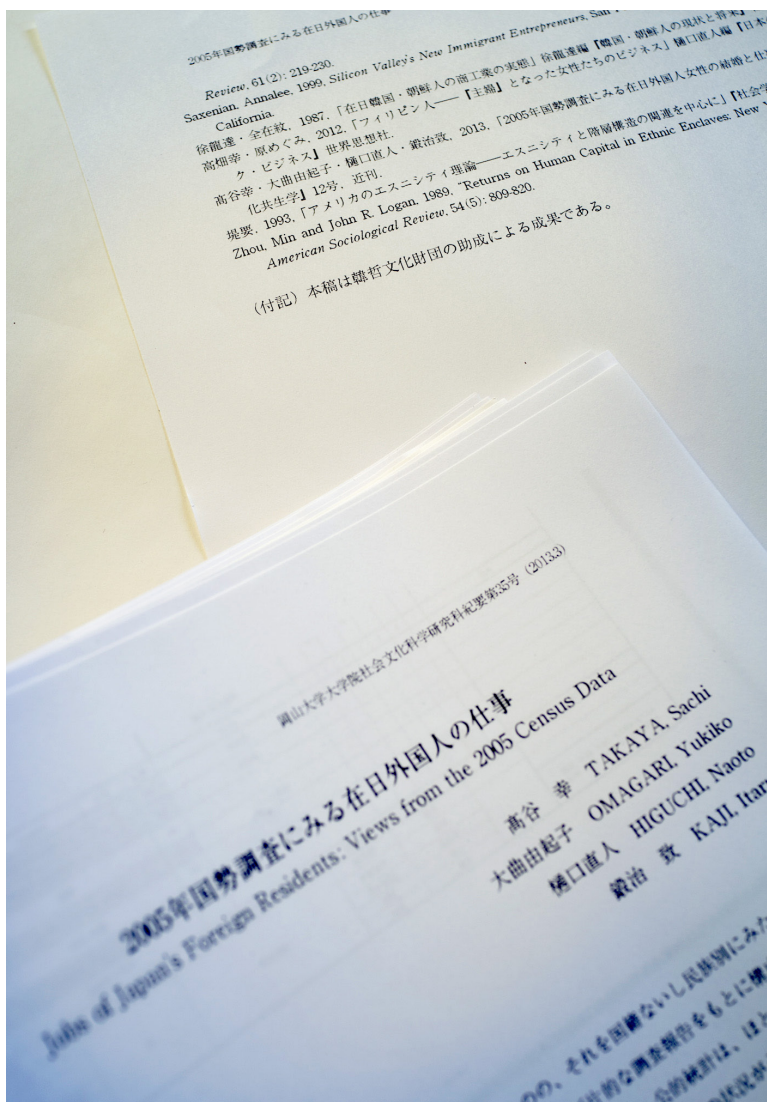
これが在特会にのめり込んでいく典型的な経緯だ。

私は直感的に、樋口がこれまで積み上げてきた在日コリアンの実態を調べた研究成果を、活動家が知れば、デモを考え直すのではないかと思った。それを樋口に持ちかけると首を捻った。

「あの人たちの認識が変わるとはとも思えないですね。在日コリアンに対する憎悪が先で、理由は後から適当につけるわけですから」



大学4年生から修士時代の2年ほど、都立大久保病院の建物内にあった東京都救急通訳センターの休日事務局でアルバイトしていた。



(財)韓哲文化財団の助成金を使ってオーダーメイド集計したデータをもとに書いた論文の一つ。実質的に執筆したのは樋口。

ただ、話しているうちに希望のある見方も口にした。「たとえば在日コリアンの失業率はなぜ高いのか、就職差別なのか……。そうした実態を社会一般の人にしっかりと知ってもらえれば、一つの問題解決の手段になり得るかもしれません」つまり、一般の人に働きかけて多数派にしていけば、在特会に代表される排外主義を食い止めるブレーキになるかもしれないというわけだ。

在日コリアンの社会的地位の変遷を調査

以下に示す在日コリアンの実態調査は、樋口が(財)韓哲文化財団(当時)の助成を受けて行われた。樋口が調べたのは、「在日コリアンの社会経済的地位」についてである。在日コリアンは自営業に強い集団という見方があるいっぽうで、就職差別により排除される集団という見方もされる。両者の見方はともに妥当性はあるが、これまでデータがそろっていないため、議論の対象にならなかった。樋口は25年という時間の流れの中で、どんな変化があるかについても調べた。

こうした国籍別のデータは、一般にはない。国勢調査の元データを総務省の外郭団体に依頼し、研究テーマに合わせてデータを抽出してもらおうのだ。これを「オーダーメイド集計」と呼ぶ。その費用に助成金の全額が使用された。

まず1980年代前半までの傾向で特徴的なのは、起業している人が多いということだ。学歴や、有名大学などの「学校歴」の高い人のほうが、その後大きな会社の社長に納まっている場合が多い。「裸一貫で、学歴に関係なく、一から会社を立ち上げていったというような言われ方をしていました



が、調べてみると、役員になつてきている人は圧倒的に大卒者が多いことがわかりました」

興味深いのは、会社の規模を拡大する過程で在日コリアンを雇い、ビジネス情報もまた民族系の企業を通じて広がり共有されていく点だ。そうして民族系の企業が底上げされていったのだ。

70年代までは就職差別が現実にあつたため、一般企業に就職して働くより、自営業、また少数ではあるが、医師や薬剤師、マッサージ師といった専門職を選択したのだろう。

1980年代後半になると、それまでとは違った特徴が現れる。それは自営業を選択する人が減り、かつて一般企業に就職する人が増えたことである。背景には就職差別の減少があつたと考えられる。在日三大職種にもこの時期、異変が生じている。三大職種とは、金属リサイクル、遊技場（パチンコなど）、焼肉店である。以前は金属リサイクルが目立っていたが、この時期になると、2位が遊技場、トップは焼肉店で、在日全体の2割が就労している。食品加工の大部分を占める焼肉店隆盛の背景には、80年代に出現した無煙ロースターがある。

自営業ではない人は、ホワイトカラーだけでなく不安定な「ブルーカラー」にもなっている。彼らの置かれた状況も変わつていくことが調査でわかつた。

「かつては民族系企業の中で、雇用者と被雇用者という雇用関係が完結していましたが、この時期になると、民族系企業の中で助け合うという関係も希薄になり、結果、一般企業のブルーカラーとなるケースが増えています。それは民族経済の基盤が弱くなったことと関係しています」

在日コリアンの代表的成功者の一人に、ソフトバンクの孫正義そんまさよしがいるが、樋口が意外だと思つたのは、彼はいわば例外で、IT業界に進出する在日が多くなかつたことである。

「マイノリティが勝ち上がっていく一つの戦略としては、新しい産業を狙うところに王道があると思

うのですが、IT業界に進出しているのは、中国人のほうが多かつたですね」

調査でみてきた問題の一つに失業がある。40〜50代を中心に、仕事の機会さえ得られず、就職できないケースが少なくない。ここ20年近くで、団塊世代の自営業者が廃業を余儀なくされ、失業状態に陥つている人も含まれる。樋口によれば、学歴が低いほど失業率が高く、特徴的なのは、どの学歴であつても、日本人より1.5倍ほど失業しやすいという。

「これは学歴ではなく、就職差別のせいだとしか言いようがありません。就職差別は減少しているとはいえ、この世代の再就職に関してはまだ根強く残つているのでしよう。年々改善されていると思つていたのですが、80年代以降のデータを見ても、失業率の格差はあまり変わつていません」

失業した人たちの一部は、焼肉業などに吸収されたのではないかと樋口は推測するが、実態はわからないという。これは今後のテーマとなるだろう。

この調査では、65歳以上の失業率が高いことも明らかになつていく。日本人ならば定年する年齢なのだが、在日コリアンたちは生活のために仕事をしなければならぬ環境にあることを物語つている。その厳しさの背景には年金の問題も関係しているだろう。厚生年金は規模の大小を問わず、法人事業所の社員であれば加入できるが、個人事業主や個人は82年まで、国民年金に入ることはできなかった。82年時点で36歳以上だった人は、年金受給に必要な25年の掛け金期間を満たせないことから、年金制度から排除されてしまったのである。その人たちは今68歳以上になつていく。

無年金の人には、高齢者福祉給付金が支払われているケースもある。自治体によって制度の有無はあるが、支給額は月額5000円から最高3万円ぐらいいまで差がある。

「この趣旨は国民年金における、税抛出分の補填ほてんという意味あいがあると思います。基本的に税金は



韓流ストーリー

TEL.03-3200-9206 FAX.03-6380-3354

韓国コスメ
LUCINO since 1973

注目
プリアット
クリーム
BBIには戻れた

以前はホテルや韓国系料理店ぐら
いしかなかった通りに、今は韓流
系のお店が建ち並ぶ。「変わりましたよ
ね、新大久保」と感慨深そう。

スマホケース ¥1,000~
Galaxy Note 3
Galaxy Note 2
CURE 1,000
CURE ¥1,000
お買い得
七色様
Love's
Love's
Love's

Man in a dark, vertically striped button-down shirt, standing in the foreground with his arms crossed, looking towards the camera.

SNAIL SALE 50%~10
BIG SALE 44%
SALE 50%~10
SHOP

Woman in a white sweatshirt with 'KAWAII' text, holding a smartphone and looking to the right. A rack of clothing is visible next to her.



払っているのだから、その分だけは支給しようという考え方です。無年金の人は少ないので、支給したからといって、自治体の財政に響くわけではない。在特会の桜井などは、このことを知っているのかわからないのかわかりませんが、「老後に金が困ることぐらい、在日コリアンは最初からわかっていたはずなのに、なぜ貯金しないのか」という趣旨の発言をしています。さらに、自治体の窓口に行つて、「支給をやめさせろ」と言う」

排外主義に歯止めをかけるために

樋口が在特会活動家らを取材した研究からもわかるように、フットワークがよい。それは学生時代、ジャーナリスト志望だったことと関係しているかもしれない。高校時代は理系で、離島に住んで調査できる仕事をしたくて気象大学校に入学。しかしジャーナリストになりたいという気持ちが生え、半年後に退学する。

いざ一橋大学に入学すると、今度は本を読み研究する面白さに目覚め、研究職を志すことになる。在特会のフィールドワークは本人曰く、「ジャーナリストイックな関心という地金が出たものだ」。

在日外国人の調査研究に携わるようになったのは、ひよんなことがきっかけだった。

博士課程の1996年、日本への出稼ぎ外国人の調査のために担当教官に駆り出されたのだ。向かったのはアルゼンチン、ブラジル、ペルー、ボリビアといった南米諸国。母国に帰つた出稼ぎ者たちを訪ね歩き、日本でどういう経験をしたかを聞き取り調査したのである。

「この調査も一つのきっかけになっていますが、私の中には、移民に対するシンパシーがあります。

ですから移民に排外的なことを言う人は、私の敵になる。私は、排外主義を予防するための方策はないのか、排外主義の流れがあれば、それを止めるにはどうしたらいいのかを研究しているわけです」

樋口によれば、90年代は外国人の権利が広がっていった時期だったという。神奈川県川崎市では職員採用に関して国籍条項がはずされたり、地方レベルでも同様の政策が整備されていた。ところがその流れを逆回転させようとする者が現れた。

石原慎太郎東京都知事（当時）である。石原は知事就任から2年後に、外国人に関わる諸問題について都知事に意見、提案、要望などを述べる場になっていた外国人都民会議を廃止し、「さんていじん三国人発言」などで物議を醸した。見過ごせない動きだと、樋口は研究者などと一緒に抗議声明を出した。そのいっぽうで、なぜ石原発言を都民は許すのかが気になった。そこで有権者へのアンケートを敢行した。

「その結果わかったのは、石原を支持するくらいナショナリストの傾向を持つ都民が多いということです。ノーマルに日本の国は大事だし、中国を「支那」と呼ぶことに対して違和感もない。そういう人たちが石原を積極的に支持し投票していることがみえてきました」

その後、2009年から1年間、オランダに留学するのだが、オランダに発つ1週間前、4月11日、在特会のメンバーが、埼玉県蕨市のフィリピン一家の住む地域でデモを開始した。「犯罪フィリピン人一家を日本から叩き出せ」などと。

樋口は、その後の動きをオランダからネットを通じて注視することになるが、その間に起こった京都朝鮮学校襲撃事件に関わった4人が、翌年8月に起訴されて有罪判決を受ける。民事訴訟でも、1220万円の賠償と近隣（半径200メートル）におけるデモ禁止の判決が、14年12月、最高裁で確定した。樋口はこの判決についてこう言う。

出稼ぎ調査のために今年も年2回は南米に飛ぶ。これまでアルゼンチン9回、ペルーも8回、ブラジル3回、ボリビアに2回行った。

「高額の賠償とデモ禁止による抑止効果を、現行法で最大限追求したもので評価できません。米国でも、差別主義団体によるヘイトクライム（憎悪犯罪）に対して高額の賠償判決が下された結果、解散に追い込まれた団体もあり、司法判断が一定の効果を持つことが示されています。その意味で、判決が在特会の活動を弱める効果はあるでしょう。しかし、デマを含めて外国人を攻撃するヘイトスピーチ（差別的憎悪表現）は、在特会だけでなく政治の場でも広がっており、それが野放しにされている。ヘイトスピーチそのものの法的規制をしない限り、その拡大に歯止めをかけるのは難しいのではないかと考えます」

樋口は、在特会のような活動、ヘイトスピーチにブレーキをかける他の方法もあるはずだという。樋口は、在日コリアンに対して日本政府がとった政策の変遷を調べていて愕然がくぜんとしたことがあった。「日本政府が自発的に、在日に対して行った政策は何一つないということです。『韓国の要求』といった外部からの圧力に反応して、『仕方ないな』という態度で動く——そういう態度を繰り返してきた象徴的なのが、在日コリアンの地位に関して、日本政府は審議会をつくって議論したことは一度たりともないということ。同和やアイヌにはつくっているのに、あるいは、ニューカマーに対しては2005年に多文化共生に関する審議会をつくったのに、です。こういう態度が排外主義を呼び込んだのではないか。在特会の主張を結果的に裏書きしてしまうことになったのではないか、と考えています」

日本政府が何をなすべきかは自明である。

樋口の研究したデータ解析は、在日コリアンに対する政策を議論する上で貴重な資料になるはずだ。

（文中敬称略）

主催：山形新聞

赤坂憲雄

「東日本大震災 在日コリアン被災体験聞き書き調査」代表
学習院大学文学部教授／福島県立博物館館長

それぞれが国を離れ、
さまざまに個人史を背負って
東北で暮らしていた。
そこで遭遇した東日本大震災。
次の大災害に備えるために、
今こそ彼らの声を記録したい。

文＝千葉望
写真＝渡辺誠

あの日、東北にいた
在日コリアンの、声なき声を聴く

司会
土方正



あかさか・のりお◎1953年生まれ。学習院大学教授。民俗学者。東北芸術工科大学助教授時代に東北文化研究センター設立後、1999年『東北学』を創刊。著書に『境界の発生』『岡本太郎の見た日本』『3・11から考える「この国のかたち」：東北学を再建する』など著書多数。

日本で暮らす外国人、それぞれの3月11日

雨がしとどに地面を濡らす初冬のある日、「被災体験聞き書き調査」の一員である東北学院大学教授の郭基煥と、仙台の出版社「荒蝦夷」の代表・土方正志は石巻にいた。この日は石巻に暮らす日コリアンの東日本大震災被災者に、聞き書きを行うことになっていた。一人はニューカマーで日本人男性と結婚した女性、もう一人は長く日本で暮らし、80代を迎えたオールドカマーの男性である。ニューカマーの女性には日本人の夫も付き添っていた。家の1階は津波ですべてやられてしまい、自分の車で逃げる途中、パチンコ店の駐車場の2階へ上がることができて助かった。仕事中の夫の無事は確認できたものの、会えないうちにいったん韓国へ戻らざるを得なかった。日本に戻ってから、家を直すまではバラバラの生活が続いたという。今はようやく当時の苦労を明るく振り返るだけのゆとりができた。

オールドカマーの男性は仮設住宅で一人暮らし。聞き取りは前に済ませていたが、話し好きの寂しがり屋なので、料理や酒を調達しておしゃべりのためだけに再訪した。男性は大喜びで、仮設住宅の自室も案内してくれた。だが、こうして訪問者がいないときはひとりぼっちである。石巻市街地の仮設住宅は昼間働きに出る若い世代が多く、入居者同士の交流は決して多くないという。そんな男性と丁寧に接する郭や土方からは、インタビューしたらおしまいではなく、腰を据えて被災者と長くつきあつていこうという姿勢が見えた。

同じ在日コリアンとはいえ、出自も経歴もまったく違う人々が、2011年3月11日のあの日、東

石巻の仮設住宅に暮らす被災者の在日韓国人一世の男性。聞き書きチームの来訪を楽しみにしており、部屋も見せてくれた。





北の沿岸部で大地震と大津波に遭った。それは運命というしかない出来事である。土方と郭もまた、仙台でそれぞれ被災している。郭は市内の別の区から引越してまだ1週間目。前の学校から転校手続きを済ませていなかった中学3年生の長男を校舎へ迎えに行けたのは、翌日の夕方だった。土方の自宅は全壊した。それぞれの3月11日がそこにあった。

その後、郭は長いこと被災者支援に走り回っていた。東北学院大学はミッション系で、支援のために仙台入りするキリスト教関係者の拠点としても機能しなくてはならなかった。土方は家も会社も惨憺たるありさまの中、しばらくは関係者の無事を願いながら、生活を建て直すのに精一杯の状態が続いた。「荒蝦夷」でアルバイトをしていた父親も、津波に巻き込まれて亡くなっている。

第一次資料としての聞き書きを残す意味

それでも、まだ混乱が続いていた4月、土方には「被災者の聞き書きをしなくてはいけない」という気持ちも頭をもたげていた。被災地は混乱の極みではあったが、今、この時でなければ聞けないこともある。以前から親しい関係にあった民俗学者の赤坂憲雄（当時・東北芸術工科大学教授、現・学習院大学教授）も同様に記録の必要性を感じていた。赤坂は言う。

「震災後、南三陸町で撮影された鮮烈な写真を見ました。中国人花嫁がおばあちゃんをおんぶして逃げてくる。その横にも花嫁として来た中国人女性がいる。それはとても象徴的だった気がするんです。東北には花嫁として、あるいは外国人研修生として来たたくさん外国人が住んでいますし、長くそこで暮らしている在日外国人もいる。彼らはあの震災の中でどうしていたのかきちんと記録し、記憶

しておくことが、次に必ずやってくる大地震や大津波に対処する方法だと考えました」

いったい彼らはあの未曾有の災害の中で、どのように耐え、生き抜いたのだろうか？ 今後起きるであろう大災害の中で、さまざまな出自や言葉、習慣を持つ人々が情報をきちんと得て、パニックにならず生き延びられるかどうか。その対策をきちんと練っておくことが今後のためには絶対に必要なのだという。聞き書きによって彼らの声を記録し、赤坂自身もそれについて聞き取り、執筆していく。そんな方向性が土方との間で定められ、「被災体験聞き書き調査」が立ち上がった。

赤坂の盟友ともいべき土方は、北海道出身で東北学院大学に進んだ。卒業後は東京で仕事をしてきたが、その時期に「東北学」の提唱者である赤坂と知り合い、赤坂に『別冊東北学』の編集の仕事に誘われた。

「ただ東北芸術工科大学のある山形は土地勘がない。仙台ならできるということで、仙台に引越して最初は編集プロダクションとして『荒蝦夷』を作り、2006年には法人化して独自の出版活動を始めました。聞き書きもずっとやってきたんです。はからずもそれが東日本大震災後に実ってしまいました」（土方）

「荒蝦夷」は『別冊東北学』から派生したさまざまな地域誌の編集・発行も行っている。その間に仙台をはじめ東北各地でさまざまな人脈を広げていった。

一方、郭は名古屋出身で09年に東北学院大学にポストを得て、家族共々引越してきた。そこで大震災に遭遇し、思いがけなく支援活動やフィールドワークという新たな役割と出合ったのである。

「呼ばれたとは思えない感じですね」

と笑う。最初は支援活動として沿岸地区に入るうちに、そこで思いがけないほど多くの在日外国人



親しくなった相手とは酒を酌み交わすこともある。郭は聞き書きに教え子も同行させ、学びの場としている。



韓国から来日し、石巻の男性と結婚した女性に話を聞く郭と土方。津波に追いかけられた経験を語ってくれた。



人生経験についても話を聞く。生きる糧を得るため移動をためらわなかった在日のたくましさが残るという。

が暮らしていることを知った。もともと郭は社会学の理論分野の研究者である。しかし聞き書きを通じてフィールドワークを積み重ねることになっていった。

震災から1年、2年という単位で考えれば、東京のメディアも熱心に被災者の取材を行う。しかし徐々にその意欲が薄れていく。情報を受け取る人々の関心もまた、それを受けとめ、人々の言葉を拾っていくのは結局のところ地元の人たちなのだろう。郭は当初、石巻市役所と協力して在日外国人の支援調査を実施した。アンケートに答えてもらう際に、聞き取り調査に協力してもよい人にはその旨を書き添えてもらうことにした。そのほか、つてをたどつてまずは50名にインタビューするつもりだという。

在日外国人といってもいろいろな国籍の人々がいる。「被災体験聞き書き調査」ではまず、絶対数の多い在日コリアンにターゲットを絞り、8名の聞き手が分担して聞き書きを始めた。(勸韓哲文化財団(当時)の助成金はその資金として使われている。岩手・宮城・福島三県にまたがるインタビューで、交通や宿泊のコストだけでも相当かかる。助成金は大いに活用されているのである。)

「今回はとにかく聞き書きをまとめる一時資料作りでいいと割り切りました。それがどういう意味を持つかは先々のことといい。集めることが先決だと。そう考えたのは、被災者の壮絶な体験記は古びるのが早いんじゃないかと思っただけです」(土方)

たしかに、他地域の人間でも当初大量に報道された壮絶な体験記に心を動かされ、涙した。だがそれにはいつか慣れ、飽きが出てしまえば人々の記憶から薄れていく。後々役立つ記録とは、もっと別の種類のものではないか。

「震災の年の秋ぐらいかな。心理療法士かなにかの小さな研究会でフィリピンから来ている花嫁さん



が数人、体験を発表していたのを聞きました。彼女たち、言葉がわからないですよ。日本人同士がわかっていても、彼女たちには地震や津波の情報が伝わらない。われわれが災害にあったとき、言葉がわからず情報が遮断された状況の中にいることを想像してみてください。そういう人たちがどのように生き延びたのか、やっぱり知りたいと思ったのです。これからの日本では、さまざまな出自や文化、背景を異にする人たちが共生していかざるを得ません。それならば彼らに対し、次の大震災のときにどうやって情報を伝達するのか、最低限のルールを作っておかないといけないでしょう。そのためにはまず記録が大切です」(赤坂)

多様な個人史を背負って日本で生きる人々

聞き書きを続けるうちにメンバーが驚いたのは、一口に在日コリアンといっても、非常に多様な人生を送っていることだった。商売のあるところを探し求めて日本各地を移動し、東北に住み着いたオールドカマー。ニューカマーの多くは花嫁として東北に暮らすようになった女性だが、彼女たちの背景もさまざまである。

多くの場合、被災後の生活は夫との関係で規定されるという。夫と仲良く暮らしており、周辺の人々とも良好な関係を築いていた女性は、たとえ被災してもコミュニティの中で居場所がある。だがそうでなければ、頼りの夫が死んでしまった場合、「出て行け」と言われたケースもある。あるいは狭い仮設住宅で姑と同居が始まり、大げんかの果てに姑が出て行ったケース。こちらは周辺からも冷たい目で見られると訴えている。だいたい精神的に追いつめられているようすだという。ただ幸いなのは、

避難所などで外国人であるという理由で不快な目にあつたケースは極めて少ないということである。

「人間関係の蓄積があるかどうかでずいぶん違いますね。牡鹿半島に暮らしている女性はソーシャルネットワークキングサービス (Facebook や Twitter などの SNS) を使ってほとんど被災地の外へ発信もしていて、たくさんの方の支援を受けています。すごく不便な土地なんです。ところが先日訪ねていき、育てた牡蠣をお土産にもらったんですが、それに九州の支援者が送ってくれたというカボスをつけてくれました(笑)。牡鹿半島にいながら九州ともつながっているんです」(郭)

その女性は中国語と韓国語、日本語ができる。日本語も牡鹿半島の言葉と標準語ができるわけで、今後地域の中で、復興にも貢献できる有為の人材となっていくにちがいない。

聞き書きを続けていく間に、別の問題も生まれた。聞き書きメンバーも被災経験があるなど、体験レベルはさまざまである。インタビューを終え、原稿を起こしていく作業が大変なストレスになることもある。郭自身、被災地に行くよりも、戻ることがつらい時期があった。仙台の市街地に戻れば、津波のすさまじい被害などなかったかのような喧噪がある。その落差が受け入れられない。

「スタッフには『しんどくなったらやめよう』と言っていますし、気づいたら次にまわすようにしないと続かない。原稿を起こして行く途中でフラッシュバックしたりするんですね。今も気をつけています」(土方)

土方自身、大きな被害のあつた閑上で、語り部の人が聞き手の人々に見せるために津波の映像を見せていたのに行きあつたが、自分では目を背けた。あの日の映像はつらくて見られないのである。その分、外から来た人々にはしっかりと見てほしいと思う。

赤坂はこう言う。



石巻在住の在日女性の家で。長身の郭のうしろに見える欄間近くまで津波に浸かったが、幸い骨組みは残り、再建することができた。

「東北の人はあの大災害の中でもかろうじてパニックを起こさずに生き延びました。東北人の我慢強さもあつたでしょう。しかし次に東京の直下型地震とか南海大震災などの大きな災害があつたとき、同じように振る舞えるだろうか。東日本大震災直後、東京では買い占めがありました。僕は土方さんたちに支援物資を送ろうと東京中探しまわつたけれど、何もなかったんです。次の大災害は必ずやってくる。それなら可能な限り準備をしておくべきだし、そのとき『大災害の中の外国人』というテーマは見過ごされてはならないと思います」

日本では外国人に対する非寛容な姿勢を取る意見が一定の支持を得はじめた。こんな時代だからこそ、在日コリアンの聞き書きプロジェクトは大きな意味を持つはずである。

仙台では2015年3月に、「第3回国連防災世界会議」が開催され、世界中の学者やNPO、メディア関係者が集う。今回の聞き書きはそれに合わせて一冊にまとめられる。助成金はその出版費用としても使われることになっている。

(文中敬称略)

青鶴6 學術論文集

國分典子
東潮
樋口直人
赤坂憲雄

大韓民国臨時政府の 憲法思想の憲法史的位₁置づけ

日韓比較憲法研究会代表
名古屋大学大学院法学研究科教授
國分典子

はじめに

韓国は、1910年から1945年まで35年の長きにわたって、日本による植民地支配を経験した。その結果、韓国がいわゆる近代的な国家形成を行うのは、実質的には45年以降のこととなった。しかし、韓国で近代憲法が作られるのは、48年の建国期が初めてであったわけではない。すでに植民地支配下の独立運動の中で、大韓民国臨時政府が設立され、臨時憲法も作られていた。現在の第六共和国憲法も、前文で「悠久なる歴史と伝統に輝くわが大韓国民は、三・一運動に基づいて建立された大韓民国臨時政府の法統と、不義に抗拒した四・一九民主理

念を継承し：」と規定している。この独立運動以来の思想的継承は1948年の制憲憲法以来、韓国が一貫して掲げてきたものである。この点で、1948年の建国以降の憲法思想を考えるには、臨時政府時代の憲法とのつながりを考える必要がある。最近では、日韓の戦後補償を巡る判決のなかでも、この前文が引用されており、臨時政府時代からの繋がり₂を考えることは、今日の韓国憲法の特徴を理解する上で重要な意味をもつといえる。

一方、国家思想の形成という観点からいえば、大韓民国臨時政府の国家思想は、19世紀末に始まる開化時代の思想や愛国啓蒙運動から発展してきたものでもあった。それがさらに戦後の韓国憲法の文脈においても思想的継続性を維持しているということを考えると、臨時政府時

代は韓国憲法にとって近代から現代への思想的連結点を成すものであると捉えることもできる。

こうしたことから、本稿では、臨時政府の憲法思想がどのように形成されていき、どのような内容をもつものであったかを考察すると共に、その制憲憲法との繋がり₃を考えてみたい。

1、大韓民国臨時政府の設立と民主制への転換

大韓民国臨時政府は、1910年に日本に併合されたのち、1919年の三・一独立運動を契機に各地に作られたいくつかの臨時政府が統合され、設立されたものである。この統合の前に上海の大韓民国臨時政府が、1919年4月11日に以下のような臨時憲章を起草している。

【大韓民国臨時憲章】

- 第1条 大韓民国は民主共和制とすること
- 第2条 大韓民国は臨時政府が臨時議政院の決議によりこれを統治すること
- 第3条 大韓民国の人民は男女、貴賤および貧富の階級がなく一切平等であること
- 第4条 大韓民国の人民は信教、言論、著作、出版、結

CHEONGHAK

- 社、集会、信書、住所、移転、身体および所有の自由を享けること
- 第5条 大韓民国の人民で公民資格が有る者は選挙権および被選挙権を有すること
- 第6条 大韓民国の人民は教育、納税および兵役の義務を有すること
- 第7条 大韓民国は神の意思により建国した精神を世界に発揮して進み、人類の文化および平和に貢献するために国際連盟に加入すること
- 第8条 大韓民国は旧皇室を優待すること
- 第9条 生命刑、身体刑および公娼制を全廃すること
- 第10条 臨時政府は国土回復後満一年以内に国会を召集すること

この憲章は、各地の臨時政府が作ったものの中でも最も詳しく、「民主主義原理に立脚した韓国最初の基本法の性格を有する憲法」と評されるものであった。

1条に示されたように、臨時政府は「民主共和制」を表明し、君主制との訣別₄を明らかにしていた。この当時、各臨時政府はいずれも君主制から民主制への転換を示しており、この路線はすでに独立運動の中で確立されて

いたといつてよいであろう。

これに関連して、朴贊勝パク・サンソクはすでに日韓併合に至る過程で、旧体制への批判が強くなっていったことを指摘している。それによれば、当時、アメリカの韓国人社会において作られた共立協会の機関誌『共立申報』がこれまでの韓国の改革がそれぞれの権力拡張のみを考え、国民の自由平等の確立を考えていなかったことを強く批判していた。^{*6}さらに韓国併合が行われる1910年に入ってから、君主制自体への批判が強くなるようになる。共立協会は大同報国会と統合して1909年5月に大韓人国民会を形成するが、国民会は「専制政治の打破」^{（ひょうめい）}を標榜した。^{*7}国民会の機関誌『新韓民報』は皇帝一族の亡国の責任を厳しく主張している。^{*8}

こうした考え方はいまだ君主制批判に留まるものであったが、それが民主制へと強く傾斜する背景には、1911年の辛亥革命があつたと考えられる。このとき、北京にいた曹成煥チョウソンファンは安昌浩アンチャウに手紙を送り、「四千年、老大帝国の腐敗した専制を打破し、大陸に荣誉ある共和制を建設し、少数の血で金功を収め…」と辛亥革命の成功を讃え、「中華のこの成功はまさに半島の先鋒だ」と述べている。

2、大韓民国臨時政府憲法文書の内容

当初各地に設立された臨時政府は最終的に統合され、1919年9月11日に憲法が公布され（第1次改憲と呼ばれる）、新たな統一臨時政府が成立している。^{*13}

この臨時政府憲法は、全8章58条の条文から成るもので、2条で「大韓民国の主権は大韓人民全体にあること」としていた。その後、1925年4月7日に憲法改正として出される大韓民国臨時憲法（第2次改憲）、1927年3月5日の大韓民国臨時約憲（第3次改憲）、1940年10月9日の大韓民国臨時約憲（第4次改憲）、1944年4月22日の大韓民国臨時憲章（第5次改憲）、1941年11月25日の大韓民国建国綱領と、1919年4月11日の大韓民国臨時憲章から始まり、植民地時代の臨時政府では、七つの憲法文書が出されている。臨時政府の活動は、各地の独立運動を把握・統制できない、指導者たちの方向性が一致しない、等の問題を抱え、さらには日本が中国への侵攻を進めると上海から重慶に拠点を移さざるを得なくなるといった状況が加わり、難航した。第2次改憲から第5次改憲までの改正は、こうした

そうした中で君主制からの移行を明示的に宣言する文書として最初に出されたときれるのが、1917年の「大同団結宣言」であつた。申禔シンチ・趙鏞殷チョウヨンイン・申獻民シンホンミン・朴容萬パクヨウマン・韓震ハンジン・洪煒ホンウイ・林殷植リンインシク・申采浩シンサイホ・尹世復ユンセボク・曹煜チョウウク・朴基駿パクギジュン・申斌シンビン・金成キムソン・李逸イイの名前で出された同宣言では「隆熙皇帝が三寶を放棄した八月二十九日は即ちわれら同志が三寶を継承した八月二十九日である。…かの帝権消滅の時が民権発生の時である。その間に瞬間も停息はないのである。われら同志は完全な相続者であり、かの帝権消滅の時が即ち民権発生の時である。隆熙皇帝の主権放棄とは即ちわが国民同士に対する黙示的禪位である」としている。皇帝が退位したからといってその主権が日本に移ることはありえないという植民地支配に対する主張に連動して、主権が君主から国民に移つたことが明確に主張されたのであつた。その後、1919年2月には、「大同団結宣言」に参加した者の多くにさらに金奎植ギョクシク・安定根アンディン・李承晩イスンマン等が加わり、39人が参加して「大韓独立宣言書」が出されたが、そこでも冒頭で「大韓民主の自立」が謳われている。^{*12}

臨時政府の国家形態は、このような流れの下で選ばれたものであつた。

状況を反映している。

1919年4月11日の大韓民国臨時憲章から1944年の第5次改憲までの内容（1941年の建国綱領は「憲法」という位置づけとは異なるのでここでは除く）をみると、いずれも民主権または「民主共和」が謳われている点では共通している。第2次改憲から第4次改憲まで共通するのは、個別の人権に関する内容がなくなり、総則的規定以外は統治機構に関する内容のみとなっていることである。1925年の第2次改正では、第3条で「大韓民国は光復運動中は光復運動者が全人民を代表すること」とされ、第4章のタイトルを「光復運動者」として、その財政負担および兵役の義務（27条）、地方議会の組織・臨時議政院議員の選挙権および臨時議政院への請願権（28条）を定めていた。この結果、実質的には憲法の適用範囲は全人民ではなく、「光復運動者」に限定されることとなつたのであつた。^{*15}

この3条の規定にあたる規定は、その後の改憲では以下のようになっている。

【1927年大韓民国臨時約憲（第3次改憲）】

第1条 大韓民国は民主共和国であり、国権は人民にある。但し、光復完成前には国権は光復運動者全体にある

こととする

【1940年大韓民国臨時約憲（第4次改憲）】

第1条 大韓民国の主権は国民にあり、光復完成前には、光復運動者全体にある

【1944年大韓民国臨時憲章（第5次改憲）】

第4条 大韓民国の主権は人民全体にあること

国家が光復される前には主権は光復運動者全体にあること

これらは、いずれも1925年の改憲の考え方を踏襲したものであろうと考えられる。但し、1927年の第3次改憲と1940年の第4次改憲では、権利と義務についてはそれぞれ1条ずつだが総則的規定が設けられ、「光復活動者」に限定せず「人民」についての規定となっている。また第2次改憲から第4次改憲までは「人民」の範囲についての規定はないのに対し、1944年の第5次改憲では、3条が「大韓民国の人民は原則上韓国民族とすること」とし、2条で「大韓民国の疆土は大韓の固有な版図とすること」という領土規定もおいていた。こうした点で、第2次改憲の内容が臨時政府の組織規範的なものになっているのに対し、第3次改憲以降の内容は一応、憲法としての体裁を維持したものになっている

の記録は残っていない。憲法史学者の金榮秀^{キムヨンス}によると、議政院議員の一人であった趙素昂^{チョソアン}（本名は趙鋪殷^{チョポウン} 1887～1958?）が臨時憲法案を臨時議政院^{チョソウイン}に出し、その後、審議委員に選ばれた申翼熙^{シンウツキ}、李光洙^{イグジュ}、趙素昂^{チョソアン}の三人が審議したものが本会議に回付され、若干の修正を経て議決されたらしい。韓国憲法史における中国の影響を詳細に検討する申宇澈^{シンウチェ}は、これが趙素昂の作品だというのが学界の支配的見解であるとし、また同じく趙素昂が起草した1919年2月の大韓独立宣言書や1941年の大韓民国建国綱領との内容的類似性からみてそうした学界の見解を「一応」妥当なものともみている¹⁹。

では、1919年9月11日の臨時憲法（第1次改憲）はどうか。ここでも金榮秀や申宇澈の分析を参照するならば、中国の影響が大きいと考えられる。金榮秀は1912年3月11日の中華民国臨時約法との類似性を指摘しているが、申宇澈はそのほかに1913年10月31日の中華民国憲法草案（天壇憲草）、1914年5月1日の中華民国約法（袁記約法）も加え、これら「三つの憲法文書を適切に抜粋し編集した『翻案憲法』である」として²¹いる。

1941年の大韓民国建国綱領は、「30余年の独立闘

という違いがある。とはいえ、第3次と第4次の改憲では、前述の1条ずつの権利義務規定が第1章の「総綱」に加えられたのみで、第2章以降は組織規範に留まるという構成は第2次改憲を踏襲している。これが大きく変わるのは1944年の第5次改憲で、第2次改憲から第4次改憲までで失われていた前文や「人民の権利と義務」の章が復活し、個別の権利義務についての規定がおかれるようになっていく。第5次改憲は、1941年の建国綱領で臨時政府の方向性の立て直しが図られたのち、行われたものであった。

第2次改憲から第4次改憲までの変化は、臨時政府の実態との関係からは重要な内容を示すものであるといえるであろう。しかし本稿の注目する臨時憲法の背景にある思想・理念という点では、1919年の臨時憲章と臨時憲法（第1次改憲）、そして1944年の臨時憲章（第5次改憲）とその前に出された1941年の建国綱領に着目する必要があると考えられる。

3、臨時憲法の背景と趙素昂の思想

1919年4月の臨時憲章の制定過程については公式

争の過程で形成された『趙素昂憲法思想』の真髄^{シンソク}をすべて盛り込んだもの²²と評されるように、前述の趙素昂の手になるものであった。1944年の臨時憲章（第5次改正）については、金榮秀は、「建国綱領は大韓民国臨時憲章（第5次改憲）の理論的基礎となった」としているが、これには否定的な見解もある。權寧建^{クワンニョン}は、第5次改憲における論議のなかで趙素昂が「三均主義的革命憲法」を作ろうとし、民主共和国から「均治共和国」への改正を提案したが否決されたことを指摘し、また内容的にみても建国綱領に示された理念が実際には反映されていないとしている²⁴。申宇澈は權寧建と類似の見解を示し、ここにも中国の諸憲法案からの多くの影響がみられることを指摘し、1944年の臨時憲章が1948年の制憲憲法以上に時間をかけて議論され、検討されたものであるとしている²⁵。確かに、建国綱領と1944年の臨時憲章の内容を比較すると、類似性はあまり見えてこない。前文や1条の「民主共和国」規定を始めとする第1章の「総綱」、國務委員会の職権を規定した30条の1号に「復国と建国の方策を議決すること」と述べられている程度にとどまる。個別の権利規定についても、1944年の臨時憲章では、「法律により就学、就職および扶養を要

「請求する権利」(5条3号)、「選挙および被選挙権の権利」(同4号)に平等に関わる内容が盛り込まれてはいるものの、建国綱領にみられるような平等の重視よりは自由権に重点をおいた規定になっている。また1944年の臨時憲章は第5章に「審判院」の章を新たに設け、司法制度について規定していたが、これも建国綱領にはみられないものである。

以上から考えると、臨時政府時代の憲法における建国綱領の位置づけを過大視することは慎むべきであると考えられる。但し、建国綱領は、後述のように1948年の制憲法制定の際にも参照されており、建国以降の憲法思想とのつながりを考える上では無視できないものである。この点で、1919年の臨時憲章と1941年の建国綱領の起草に携わった者としての趙素昂の思想は、臨時政府時代の憲法思想と現代の接点を考える上でのひとつの視角になると思われる。以下では、趙素昂の憲法思想を考察する。

4、趙素昂の三均主義

(1) 趙素昂の履歴

第1章「総綱」、第2章「復国」、第3章「建国」のそれぞれで「三均制度」に則った国家形成の具体的方針を打ち出している。三均主義が体系化されたのは1930年代であると考えられており、1931年4月の「大韓民国臨時政府対外宣言」が、「趙素昂自身が作成した三均主義の公式文書として最初のもの」と考えられている。^{*28} また李東寧、安昌浩、金九らの民族主義者たちと1929年に結成した韓国独立党の党義・党綱として三均主義が掲げられ、その党義解釈において、三均主義の図を用いて細かく説明されている。

(2) 趙素昂の「韓国独立党党義」の解釈にみられる三均主義の内容

1931年から3年の間に書かれたとされる「韓国独立党党義研究方法」^{*30}では、党義が紹介され、その内容を図を用いて説明されている。^{*31}

党義は、

(1) われらは五千年独立自主してきた国家を異族日本に奪われ

(2) 今、政治の蹂躪と経済の破滅と文化の抹殺の下で死滅に直面し

CHEONGHAK

趙素昂は、臨時政府の中心メンバーとして活躍した人物であった。幼い頃、漢学を学び、1902年に成均館に入学した。日韓議定書が調印されたことに激憤を感じつつ、日本留学を決めたといわれている。^{*27} 皇室留学生として1904年10月、日本に渡り、東京府立第一中学校に入学した。その後、正則英語学校を経て1912年明治大学法科で学び、計8年余り、日本に滞在している。日本では、官費留学生の団体、共修学会の主筆および会長や、留学生団体、大韓興学会の会誌『大韓興学報』の編集者を務め、1911年には朝鮮留学生親睦会を組織し、自ら会長を務める等、日本の韓人留学生のリーダー的存在であった。1911年に中国亡命を図るが失敗し、1912年に明治大学卒業後、朝鮮に戻り、大東法律専門学校等で教鞭をとったのち、1913年に上海に亡命し、以後、上海を拠点に本格的に独立運動を行い、臨時政府の理論家として活動するとともに、臨時政府承認を取り付けるためにヨーロッパ各国を回るといった外交活動も行っている。

趙素昂は、すでに言及した「三均主義」と呼ばれる思想を主張し、1941年の建国綱領では「建国精神は三均制度に歴史的根柢をおいた」ものであることを謳い、

(3) 民族的に自存を得ることができず、世界的に共栄を図る由がないので

(4) ここに本党は革命的手段をもって

(5) 仇敵日本のすべての侵奪勢力を撲滅し

(6) 国土と主権を完全に光復し

(7) 政治・経済・教育の均等を基礎とする新民主国を建設して

(8) 内には国民各個の均等生活を確保し外には族と族・国と国の平等を実現し

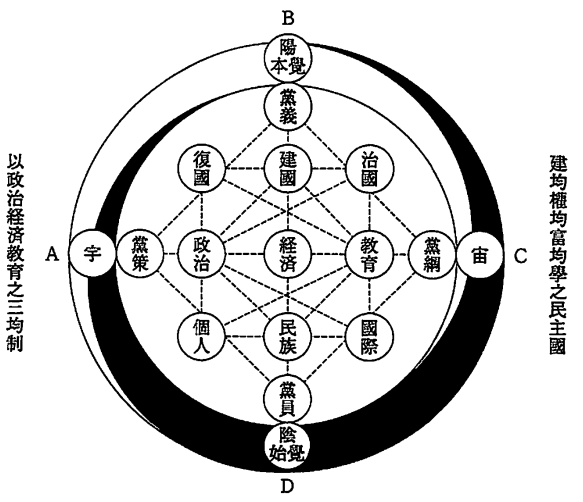
(9) ひいては世界一家の進路へ向かうこと
というものであった。^{*32}

この説明のなかで、趙素昂は次ページのような図表を用いて、その内容を説明している。^{*33}

図の上方には、「復国」、「建国」、「治国」の三つが並んでおり、これは「第一步として国家を光復した後」、第二步として各国の各種事業を建設し、第三步として国家の維持発展に必要な科学的施設をもって永遠の集団生命を継続成長するようにする」という三段階を示すものである。但し、時間的な三段階を示すのみでなく、一定の形式を表すものであるとして、「復国」は「独立国の形式を内容としたもの」、「建国」は「民主政府即ち新民主

外圓圖凡解																
時相				故相				空相								
A = 春分	卯	少	自	善	行	善	行	弱	復	息	成	少	陽	東	左	離
B = 夏至	午	壯	物	美	果	妄	幾	昧	建	盈	往	老	陽	西	上	乾
C = 秋分	酉	老	人	惡	行	惡	行	亂	治	消	壞	少	陰	南	右	坎
D = 冬至	子	幼	無	眞	幾	醜	界	亡	救	盈	空	老	陰	北	下	坤
				人情律				物理律								
				黨義根源												

黨義圖説内方圖



出典：趙素昂「韓國獨立黨義研究方法」

主制度の形式を述べたもの、「治国」は「自由社会の最高級形態を内包したもの」と捉えられている。

中央にある「政治」、「経済」、「教育」は、「党義中の核心問題」として中央に示されている。「権・富・智の三権は人類の中心問題」であると説明されている。「現存する一般的独立国民政府は自由社会の形式だけを建立しているが、これに満足せず、内容として本質的に理想的に生活問題を合理的に解決するために、政・経・教の三大制度について徹底した革新制度の建立を渴求したものである。権・富・智の三権は人類の中心問題である」として、これらについては、「相当水準」から「最高水準」へ、そしてさらに「最均最平水準」にまで高められるよう、「均権・均富・均智の終極究竟を目標として突進」することが求められている。

その下にある「個人」、「民族」、「国際」の三つは、「党義執行者の主体」であり、同時に「党義適用の対象」となるものであると考えられている。³⁴ここでは個人が党員として党義の「主体」ないし「対象」として考えられるのみならず、集団としての党全体、ひいては民族自体、国自体と同じく「主体」、「対象」になるものとされ、「適用対象が發展拡大されるに従い」、国際社会にまで広が

CHEONGHAK

べきものと考えられている。このそれぞれのレベルで必要とされるのは、「均等」である。個人においては、「個人対個人の均生問題、即ち、精神上物質上の生活水準の均等」、民族については、「民族対民族の自決権、すなわち、「(1) 一個の民族が不合理な所属国家から自由に離脱(筆者注・原語は「離奪」)する権利」、「(2) 新たに離脱した一個の民族が自由に建国する権利」、「(3) すでに離脱した一個の民族が自身の政治・軍事・経済・外交等、建国綱領を自由に決定し、再び他国に附属しない権利」等を包括する民族自決、国家については、「国家对国家の平等権」、即ち「国際法上決定したいわゆる独立権・対内主権行使の自由権・生存権・自己保存権・自衛権・平等権・尊厳権・国際交通権・公使権・対外保護国民権等々」があり、これらが「人類社会の必修過程として残存」しているので、その実行が要求されると説明されている。

以上、「復国」・「建国」・「治国」、「政治」・「経済」・「教育」、「個人」・「民族」・「国際」の三種三態様の九つの要素は図上に示されているように、相互に結びついている。例えば、「政治」・「経済」・「教育」の平等は、「復国」・「建国」・「治国」のそれぞれのレベルで要求されるものであ

り、また「個人」・「民族」・「国際」のそれぞれの平等に緊密な関係をもつてもある。これら九つの要素のなかでは、「経済」が中心におかれているが、趙素昂はこれを「経済問題は一切の中心であり、一切の源泉であるからである」と説明している。経済が中心となることの理由については、「個人を出発点として、均等に生産・分配・消費等の権利を賦与し、民族を中心点として、高度の科学的方法をもつて生産を増加し、国民全体の総富力を増加すると同時に応能応分に消費を均等にし、国際的に資源の互用、技術の合作、資本の輸出入等の交互関係を前提とし、国際全体に相応じた調和および協調を促進するのである。故に人・族・国の三方面の経済相および本質を發揮し、古代の陋習・独富主義・強盗主義の侵略および被侵略を防ぎ、自力發展によって理にかなった生産・消費・分配を前提にして、経済政策の基本原則を革命的に実行しようとするのである。そのようになっていない経済は教育を通じて解決されるものであり、生活問題としても実施問題としても工業化、科学化の問題、農村工業化等々の教育を要求する第一の理由となるものである」と述べられている。

「韓国独立党党義研究方法」の説明では、九つの要素の理的な推理によって展開される」ものであり、その内容が「人情律」と「物理律」に分けて提示されていると解される。

以上の説明に見られる伝統思想と組み合わせられて展開される内容は趙素昂独特のもので、1910年代にかれが提唱した六聖教にもみられるさまざまな思想を統合して世界一家の理想社会を作ろうという考え方を示したものであると考えられる。^{*37}

(3) 趙素昂の思想と中国思想の影響

一方、1941年の建国綱領では、第1章の「総綱」で韓国独立党党義に掲げられた内容に類似した異族支配の転覆、主権の回復、民主制度の確立、階級社会の消滅等を掲げ、第2章の「復国」と第3章の「建国」では、さらにそれぞれを第1期、第2期、完成期に分けて三均主義に則った政治・経済・教育分野での実践目標が掲げられている。

趙素昂の理論で特徴的なのは、平等をスローガンに独立を訴えながら、段階を経て最終的には「世界一家」の社会に至ろうとする目標が掲げられることである。発展段階論的な社会の進化を考え、世界一家を標榜するとい

相互関係についての説明の後に、「6. 幾・行・果」、「7. 真・善・美」、「8. 哲學的基礎」の章が立てられているが、章のタイトルがあるのみで、註にこの部分の「解説は散失した」と書かれており、説明は残っていない。

九つの要素は、図の中では円で囲まれ、ひとつの宇宙観の中に取り込まれている。円の左右に空間的世界を表す「宇」と、時間的世界を表す「宙」、上下に「陽」と「陰」と書かれている。この四つの組み合わせについては、李允熙が、伝統的な「太陽」、「少陰」、「少陽」に代わり、道家に由来する概念(宇と宙)と易卦の概念(陰と陽)を用いて新しい太極図を描いたものであったとしている。^{*35}「本覚」、「始覚」の概念は仏教思想を理気説に取り込んだものであり、この図において、陰陽の両儀を示す部分、すなわち、黒い部分は陽を経て再び陽へと戻り、白い部分は陰を経て陰へと戻って、仏教的理解を組み込んだ「宇宙循環論的」な立場が示されている。一方、図の上に書かれた表には、先にみた円形の図中のA B C Dについての「時相」、「空相」、「故相」の三相による説明がみられる。李允熙によれば、「時相」とは「時間的契機により転変する」ものであり、「空相」とは「空間的移動によって変わる」もの、「故相」とは「論

う思想は、康有為の大同論に近い。日本留学時代、趙素昂は康有為の理論に触れたものと思われる。^{*38}1907年の「信教論」では、孔子の教えの「進歩主義」的性格を「清国碩学康有為」の論ずるところとして紹介し、また『大韓興学報』では、康有為の活動を称え、さらに将来的には民権思想が中国に広まるであろうとも述べている。康有為はその著『孔子改制考』で「春秋公羊伝」を平等論と変法改制の根拠として解釈したことで知られる。また『大同書』では、「据乱」、「升平」、「太平」の三段階に分けての社会の発展を論じていた。伝統思想を用いて平等や改革を理論づける手法や三段階の発展は趙素昂の三均主義思想に採り入れられたのではないかと考えられる。また一般に立憲君主制論者と捉えられている康有為は「太平」の世を共和制と捉えており、この点でも趙素昂の思想と一致する内容を示している。

もうひとつの中国からの影響として考えられるのは、孫文の思想である。趙素昂は、1904年にドイツ駐在参事官としてベルリンにいた兄の趙鏞夏から『孫文伝』を贈られており、また明治大学に在学中に国民党要人戴季陶と交際している。戴季陶は趙素昂らと新亜同済社を結成したほか、韓国人たちの独立運動をその後、長く支

援したのであったが、民生哲学の立場から三民主義の再解釈に努力した人物として知られている。^{*43} こうした状況を通じて、三民主義は趙素昂の思想に浸透していったと考えられる。但し、前述の李允熙は、三均主義は三民主義の亜流ではないとし、三民主義と三均主義の違いを①三民主義が救国主義であるのに対し、三均主義は世界平和を志向する救世主義であること、②三民の民族主義は中国国民の解放と独立に限られていないのに対し、三均の民族主義は全世界の平等という原理に立つものであること、③三民の民生主義は国民の生活権の保障に目的を置くのに対し、三均は富の均等化を通じた理想社会建設を目的としていること、④三民が自由と平等の折衷的な立場であるのに対し、三均は徹底した平等論の立場であること、⑤三均の教育思想が特異なものであること、の5点に求め、また趙素昂が三民主義を批判する文章を残していることを指摘している。^{*44} かが挙げるのは、中国在住韓国人に関して「中国の立場から諸問題を見ると、三民主義を韓国僑民に適用し、土地問題、労使問題、参政権問題を解決することはできない」と述べている部分である。^{*45} しかし、孫文の「民族主義」は国家主義とは異なり、排外主義ではないと同時に、他の「被圧迫民族」の

(4) 趙素昂の民主主義理解

では、趙素昂の考える具体的な統治のありかたはどのようなものであったのか？

先の1944年の臨時憲章制定の際の議論では、「均地共和」といった共産主義に近いかと思われる提案がされているが、かれの思想は共産主義とは異なるものであったようである。建国時の1948年12月1日の「社会党結党大会宣言書」では、「わが民衆は、無産階級独裁も資本主義特権階級の似而非的民主主義政治も願うのではない」とし、「進歩的民主主義であるという階級独裁派が無産階級独裁を実施しようとしていることで一部民衆がこれに誘惑、煽動されている現状」を憂えている。^{*52} 1940年頃の執筆と推定されている「韓国独立党党義解釈」においても、「新民主国」について、以下の記述がみられる。

「過去のある時代には、君主専制政治を必要としたこともあったかもしれない。しかし、二〇世紀五〇年代である今日になると、そのような旧制度はなんら必要ないのである。一七・八世紀から欧米では民権運動が台頭し、革命の血を流したことが数多い。そして、それらが成功したときには、民主共和国、即ちデモクラシーの国家を

解放運動との連帯の意識を強くもったものであった。^{*47} たしかに「救国」を掲げたものではあるが、「世界主義」的な発想を排除するものではなかった。^{*48} 趙素昂自身も先の中国在住韓国人についての文章では、最終的に三民主義を適用すべきことを要求しており、三民主義思想がそもそもこれを排除するものであると理解しているわけではないように思われる。^{*49} さらに民生主義についても、孫文は「三民主義」についての講演の中で、民生主義は「社会主義にはかならず、共産主義とも名づけられ、要するに大同主義である」とし、「社会の財源を平均にすること」であって、共産主義と対立するものではなく、ただ方法が違うにすぎないとしている。^{*51} 共産主義との関係についての孫文の説明は、共産主義と敵対する分子による国民党の分裂を抑えようとする文脈で述べられているので、この点を考慮した上で理解しなければならぬであろうが、基本的に三均主義の「富の均等化」と異ならない説明をとっているとはいえるであろう。

趙素昂の三均主義は、李允熙のいうとおり、三民主義の「亜流」ではないにしても、多くの影響を受けていることは間違いないと思われる。

建設した。それならば、現在われわれの理想中にある民主国家は一七・八世紀に欧米で建立されたそのデモクラシー国家であるのか。それも違う。当時それらの成功に起因して建立されたデモクラシーは上昇期資本主義を基礎としたものであった。そして現下、労使間の極度の葛藤と矛盾を内包した制度を産出しているものである。それでは、われわれはどのような制度を建設するか。本党党義に明々白々に規定したところ、政治・経済・教育の均等を基礎とした新民主国、即ち『ニューデモクラシー』の国家を建設しようとするものである。ここに新民主国というの、民衆を愚弄する『資本主義デモクラシー』でもなく、無産者独裁を標榜する社会主義デモクラシーでもない。もはや言うまでもなく、汎韓民族を地盤とし、汎韓国国民を単位とした全民的デモクラシーである。^{*53}

ここでの「全民的デモクラシー」が何を意味するのかは説明されていない。しかし、中国で執筆されたとする執筆年代不明の「党綱解釈 草案」には、「三均主義だけが旧民主制度の失敗と欠陥を補い、名実ともに全民政体を施行する」ものであるとして、三均主義を国家の政体に関する議論と捉える記述がある。ここでは、かれは「新民主主義」ということばをもってその政体を「民主

主義中央集権制」と対置されるものとみており、「民主的であるとは、一般民衆の意思を投票や会議あるいはその他の手段で民意を代表し反映させ、最大多数人の意思をもつて事を行うものであり、万機を公論によって決定することが民主的であり、その反対は官僚的命令的なものであり、または中央集権的である」としている。^{*55}さらに、「現代世界の70余の国のうち最大多数の国家が民主政治を採用しているが、民主政治の実益を得ることができておらず、形式的に進んでいるので、われわれは陳腐な民主的残滓を受け取るのではなく民主政治の真髄あるいは民治の本質を實行しようと新しい字を加えたのである」と述べて、「民主政体」といわれる国々が「本質上は資本階級の政権を代表するもので政・経・教の恵沢が大衆に及ばないことは事実が証明するところである」としており、かれのいう「民主的中央集権」が社会の一部の階級に資するブルジョワ民主主義の問題を指していたことが窺える。

これに従えば、前述の「全民デモクラシー」は、「汎韓民族」「汎韓国国民」という民族主義的な色彩が伴うものの、三均主義に則つて従来の自由民主主義を補完する民主主義、無産者独裁とは異なる社会民主主義に近い

「憲法の精神を要約して述べるならば、……われらは民主主義民族国家を構成してわれら三〇〇〇万は勿論、子孫万代をして現時局に適応した民族社会主義国家に到達せしめようというその精神の骨子がこの憲法に編集されているということが出来ます。：特権階級一切を、特殊階級制度を否認しました。もう一度言つと社会的経済的文化的政治的にすべての領域にあつてわれら三〇〇〇万とともにわれらの子孫万代が均等な社会を作り上げるといふそのような権利義務を設定したことがわが憲法の重要な骨子精神であることをみなさんが理解して下さいなくてはならないことです」

続けて個別の内容について、兪鎮午が憲法提案理由の説明にあつたが、提案理由の冒頭で、かれは「この憲法の基本精神は政治的民主主義と社会的民主主義の調和を図ろうとすることにあるということが出来ます。もう一度申し上げるならば、フランス革命や米国の独立時代から民主主義の根源となつてきたすべての人の自由と平等と権利を大切に、尊重すると同時に、経済的均等を実現しようとするのがこの憲法の基本精神であるということが出来ます。ゆえにわれわれはすべての人の自由と平等を基本原理としつつ、この自由と平等が国家全体

ものと捉えられていたのではないかと思われる。

5、趙素昂の思想と制憲憲法とのつながり

以上のような趙素昂の思想は、前述のように1944年の臨時憲章には大きな影響を与えなかった。しかし、1948年の憲法とは一定の繋がりがあつたように思われる。1948年憲法の起草者として知られる兪鎮午は、憲法制定前の1947年に出した論文で現代の憲法を考へる上でのかれの考えを支える資料として、立法議院の「朝鮮民主臨時約憲」第2章や米ソ共同委員会談話第5・6号に対する韓民・合委等の答申とともに、建国綱領第3章を挙げている^{*57}、憲法制定後に出した『憲法起草回顧録』でも草案作成の際の資料のひとつに挙げている。^{*58}

兪鎮午は憲法制定にあつて、「社会的経済的民主主義」を現代的な民主主義と捉え、韓国憲法の基盤にこの民主主義観を据えようとしていた。制憲国会においても、1948年6月23日、憲法草案についての国会本会議での第一読会では、まず起草委員会委員長であつた徐相日^{ソサンイル}が委員会の作つた憲法案について、以下のように説明している。^{*59}

の利害と矛盾する段階に達するならば、国家権力によつてこれを調和するそのような国家体制を考えてみたのでございます」と述べている。^{*60}

徐相日と兪鎮午のことに示された「民主主義民族国家」、「社会的民主主義」、「経済的均等」ということばはいずれもこの憲法の目指す民主主義の概念を端的に特徴づけているが、ここでも社会民主主義的な理解が示されているとともに、民族主義的視点が盛り込まれており、「憲法の基本精神」とされるものは、先の趙素昂の党義解釈にみられる民主国家の理解と類似した要素をもつものであるように思われる。

制憲憲法には、前文では「政治、経済、社会、文化のすべての領域において各人の機会均等」が謳われ、具体的憲法条項の中でも、第2章の「国民の権利義務」では、自由権より先に最初の8条で平等や社会的特殊階級の廃止が定められ、16条では「均等に教育を受ける権利」、17条、18条では勤労の権利や労働基本権とともに、営利私企業において勤労者が利益の分配に均等に預かる権利、19条に生存権が規定された。また第6章では経済条項がおかれ、重要資源の国有、農地の分配、公共性を有する企業の国営ないし公営、対外貿易の国家による統制、等

が定められた。

このような内容には当時、世界的な思潮となっていた社会主義や社会民主主義の影響、ワイマール憲法や中国の各憲法案からの影響、当時参照された「朝鮮臨時約憲」その他の文書からの影響を考えねばならず、建国綱領や三均主義の直接的影響を重視するのは早計かもしれない。但し、ここで指摘しておきたいのは、臨時政府時代の憲法文書のうちでは、明白に参照されたと述べられているのは建国綱領だけであったこと、すなわち臨時政府時代の思想的特徴であった三均主義が参照されていたことである。

おわりに

以上はいまだ一面的な考察に過ぎず、制憲憲法と臨時政府憲法文書との繋がりとしては、本稿で採り上げなかった自由権について、1944年の臨時憲章の内容の多くが制憲憲法に引き継がれていることも別途、それぞれの制定過程を踏まえて考察すべき課題である。

しかし、冷戦下の1948年に成立した「民主共和国」の憲法論において重視されたのが、どちらかといえば自

由を重視した1944年の臨時憲章ではなく、平等重視の建国綱領にみられる志向であったことは、韓国憲法の背景にある思潮として注意すべきものであろう。経済条項は、1948年以降の憲法改正でも修正を加えつつ、受け継がれた。趙素昂の意図した理想社会を生むことには繋がらなかったが、韓国憲法の特徴のひとつとして重要な論点となっている。建国後の韓国憲法が「自由民主」を前面に掲げるようになるのは、維新憲法の時代からである。それまでの間、建国後の憲法における「民主主義」^{＊10}がもった韓国的な特徴については改めて注目すべき必要があると考えられる。

＊1 戦時徴用を巡る2012年5月24日の大法院判決は、戦後の制憲憲法(1948年)前文が「三・一運動により大韓民国を建立し世界に宣布した偉大な独立精神を継承し」としており、以来、現行憲法前文(「三・一運動により建立された大韓民国臨時政府の法統を継承し」とする)に至るまで韓国憲法が一貫して三・一独立運動および臨時政府を継承するものであることを謳っていること、また制憲憲法100条が「現行法令は、この憲法に抵触しない限り、効力を有する」、同101条が「この憲法を制定した国会は、檀紀4278年8月15日以前の悪質な反民族行為を処罰する特別法を制定することができる」と規定していること言及し、「日本の不法な支配による法律関係のうち大韓民国の憲法精神と両立しないものはその

効力が排除される」と解した。なお、同判決の翻訳が、専修ロージャーナル8号(2013年1月)153頁以下(中川敏宏訳)にある。

＊2 大韓国民議会(ロシア領)、上海臨時政府、漢城政府などがあつたほかに、臨時政府案として、朝鮮民国臨時政府案、新韓民国臨時政府案などがあつたとされている(金榮秀『大韓民国臨時政府憲法論』三英社1980年74頁以下、同『韓国憲法史』学文社2000年213頁、李炫熙『大韓民国臨時政府史』第2版集文堂1983年49頁以下、等、参照)。

＊3 前注に挙げた統合前の臨時政府のうち、実体が伴っていたのはロシア領の大韓国民議会、上海の大韓民国臨時政府、漢城臨時政府の3つであった。この3つの内、大韓国民議会は憲法に当たる内容のものは制定していない(李炫熙前掲『大韓民国臨時政府史』53頁、参照)。漢城政府は1919年4月23日に6条の約法を制定したが、その内容は以下のとおりであった(金榮秀『大韓民国臨時政府憲法論』91頁以下、李炫熙前掲『大韓民国臨時政府史』69頁、参照)。

【漢城政府約法】

- 第1条 国体は民主制を採用
- 第2条 政体は代議制を採用
- 第3条 国是は国民の自由と権利を尊重し、世界平和の幸福を増進すること
- 第4条 臨時政府には左の権限が有ること
- 第5条 朝鮮国民は左の義務を有すること

- 1. 納税1.兵役
- 第6条 本約法は正式国会を召集し、憲法を發布するときまで適用すること

＊4 金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』85頁。

CHEONGHAK

＊5 金榮秀前掲『韓国憲法史』233頁、参照。注3で挙げた臨時政府はそれぞれその名称からも民主制を標榜するものであったし、漢城政府約法も1条で「民主制」を採ることを明記していた(金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』91頁)。

＊6 박찬승『대한민국은 민주공화국이다』1권법 제1조 성립의 역사』돌베개 2013年106頁以下。

＊7 박찬승前掲『대한민국은 민주공화국이다』110頁、参照。同著で挙げられているように、嘯印生「會員諸君」大韓興學報7号(1909年11月)8頁(韓国学文献研究所編『韓国開化期學術誌』のシリーズ中の『大韓興學報』下巻、亜細亜文化社1978年90頁)がこれに言及しているが、この著者の嘯印生は趙素昂である。

＊8 박찬승前掲『대한민국은 민주공화국이다』112頁は、こうした例として新韓民報1910年10月12日の論説「만.국.민이 만.국.노.를.책.한다」を挙げているが、筆者は同論説を確認できていない。

＊9 1912年(日付不明)曹成煥から安昌浩への手紙『島山安昌浩資料集(2)』(韓国独立運動資料叢書 第5輯) 独立記念館附設韓国独立運動史研究所 1991年73頁。

＊10 前掲1912年(日付不明)曹成煥から安昌浩への手紙74頁。

＊11 「大同団結宣言」は、『島山安昌浩資料集(3)』(韓国独立運動資料叢書 第6輯) 独立記念館附設韓国独立運動史研究所 1992年232頁以下に所収。また「韓国独立運動史情報システム」のHPでも原文を見ることが出来る。

＊12 1919年2月(日付不明)の「大韓独立宣言書」は「韓国独立運動史情報システム」のHPで原文を見ることが出来る。

＊13 金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』107頁、参照。

＊14 「光復」とは主権の回復を指す韓国語である。「光復運動」

は意味としては「独立運動」に近いが、韓国語でも「独立運動」の語は別にあるので、ここでは韓国語のままとした。

*15 金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』125頁もこの点を指摘している。

*16 1940年の改憲では、権利についての規定は、主語が「人民」となっているが、義務については「国民」となっている。なお、ここでは各改憲条文については、金榮秀前掲『韓国憲法史』に「附録」として収録されたものを用いた。

*17 臨時議政院の構成については、金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』84頁注40、参照。

*18 金榮秀前掲『韓国憲法史』226頁。

*19 申宇澈『比較憲法史—大韓民国立憲主義の淵源』法文社2008年292頁以下。

*20 金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』109頁。

*21 申宇澈前掲『比較憲法史』309頁。なお同著では、当時の資料では申翼熙が活躍したことが伝えられているが、内容的には中国の憲法を模倣したからこそ短期間に臨時憲法の内容を作ることができたと指摘されている(同307頁以下)。

*22 申宇澈前掲『比較憲法史』424頁。

*23 金榮秀前掲『大韓民国臨時政府憲法論』175頁。

*24 權寧建「大韓民国臨時政府外三均主義」채택배경 및 과정과 한계성, 『중심』101「三均主義研究論集12輯(1992年2月)307頁以下、参照。

*25 申宇澈前掲『比較憲法史』439頁以下、参照。

*26 兪鎮午「우리憲法の輪郭—十八世紀憲法と二十世紀憲法—」兪鎮午「憲法の基礎理論」明世堂1950年85頁、参照。なお、金榮秀「우리나라 憲法과 三均主義思想」三均主義研究論集16輯(1996年2月)48頁以下は、制憲憲法や現行韓国憲法への三均主義の影響を分析している。

れている。

*35 李允熙「趙素昂思想の研究」三均学会編『三均主義研究論集』6輯(1985年12月)61頁、参照。

*36 李允熙前掲『趙素昂思想の研究』61頁、参照。

*37 六聖教は世界のいろいろな宗教の代表的な聖人6人の教えを統合して、人類みな同胞とする世界一家の理想社会を作ろうとするものであった。六聖教と三均主義のつながりについて、김기승「조소앙의 꿈과 세계 지평사」2003年137頁以下、184頁以下、等、参照。

*38 洪善憲前掲『趙素昂思想』44頁、参照。

*39 趙鋪股「信教論」大韓留學生會學報1号(1907年3月)32頁(復刻版:韓國學文獻研究所編『韓國開化期學術誌』シリーズ19卷『大韓學會月報(下)・大韓留學生會學報』亜細亞文化社1978年284頁)。

*40 趙素昂「學生論(上)」大韓興學報4号(1908年6月)13頁(復刻版:韓國學文獻研究所編『韓國開化期學術誌』シリーズ20卷『大韓興學報』上卷 亜細亞文化社1978年317頁)。

*41 嘯印生「甲辰以後列國大勢の變動論」大韓興學報10号(1910年2月)4頁(復刻版:韓國學文獻研究所編『韓國開化期學術誌』シリーズ21卷『大韓興學報』亜細亞文化社1978年286頁、参照)。

*42 李允熙前掲『趙素昂思想の研究』52頁、参照。

*43 以上の孫文や戴季陶との関係について、洪善憲前掲『趙素昂思想』43頁、参照。

*44 李允熙前掲『趙素昂思想の研究』52頁以下、参照。

*45 趙素昂「東三省韓僑問題」前掲『素昂先生文集』上巻103頁以下。

*46 堀川哲男「孫文」(『人類の知的遺産』63巻)講談社1983年6頁は、「彼の掲げる民族主義は、国粋主義・国家主義・

CHEONGHAK

*27 韓詩俊「解題」国学事業推進委員会編『韓国独立運動史資料集—趙素昂篇(一)—』(韓國學資料叢書五) 韓國精神文化研究院1995年3頁、参照。

*28 김기승「조소앙과 대한민국 정부 수립」『중앙정치사상사』8卷1号(2009年3月)32頁、等、参照。

*29 洪善憲「趙素昂思想」太極出版社1975年27頁注6。權寧建前掲『大韓民国臨時政府外三均主義』303頁も同旨。趙素昂自身も、建國綱領の第1章「総綱」の6において、民国13年(1931年)4月の「対外宣言」で三均制度の建國原則を臨時政府が表明したことに言及している。

*30 趙素昂「韓国独立党党義研究方法」三均学会編『素昂先生文集』上巻 列言書1979年196頁以下に収録。同203頁の註によれば、これは党員に配布するために作成されたと推定される印刷物を収録したものである。

*31 以下の説明とほぼ同様な内容は、拙著『近代東アジア世界と憲法思想』慶應義塾大学出版会2012年227頁以下で述べたことがある。

*32 ここで記した党義各文節の前の括弧内の数字は、趙素昂前掲『韓国独立党党義研究方法』196頁以下の記載に従ったものである。ここで、趙素昂は、199字の党義を「9節に分け」、説明するとしている。

*33 以下、図および説明は、趙素昂前掲『韓国独立党党義研究方法』196頁以下による。

*34 なお、この「人と人」、「民族と民族」、「国と国」の均等については、国学振興事業推進委員会編前掲『韓国独立党運動史資料集—趙素昂(一)—』に収められた「韓国独立党綱領浅訳—均等的意義—」881頁以下および「韓国独立党綱領浅訳(統)—均等的意義—」891頁以下でも詳しい説明がされている(このうち「統」には文末に1941年6月10日と記載されている)。

*47 堀川哲男前掲「孫文」16頁、参照。

*48 孫文は「世界主義」について、「こういう道理は、いじめられている民族の口にするべきことではない。われわれいじめられている民族は、どうしてもまず、われわれ民族の自由にして平等な地位を、回復しなければならぬ。そのうえでじめて、世界主義を口にする資格があるのです」と述べている(孫文「三民主義」『世界の名著』64巻 中央公論社1979年133頁以下)。

*49 趙素昂前掲「東三省韓僑問題」104頁、参照。

*50 孫文前掲「三民主義」179頁。

*51 孫文前掲「三民主義」182頁。

*52 「社会党結党大会宣言書」前掲『素昂先生文集』下巻 列言書1979年115頁。

*53 趙素昂「韓国独立党 党義解釈」三均学会編前掲『素昂先生文集』上巻217頁以下。

*54 趙素昂「党綱解釈 草案」前掲『素昂先生文集』上巻227頁。

*55 趙素昂前掲「党綱解釈 草案」227頁。

*56 趙素昂前掲「党綱解釈 草案」227頁以下。

*57 兪鎮午前掲「우리憲法の輪郭」85頁。

*58 兪鎮午「憲法起草回顧録」一潮閣1980年22頁。

*59 大韓民国国会発行「制憲国会速記録」1巻1987年驪江出版社影印208頁以下。

*60 前掲「制憲国会速記録」1巻209頁以下。

*61 維新憲法において、前文に初めて「自由民主的基本秩序」ということが挿入された。

新羅金京と東アジア

考古学者
徳島大学名誉教授
東潮

1 新羅金京の坊里制

新羅王京研究は発掘調査によって新たな展開をとげている。かつて「新羅金京の坊里制」で王京の復元を試みたことがあるが、日本の藤原京、唐の長安城との関係をふくめて、あらためてここに再論する。

新羅王京は金城、金京とよばれ、一般的には王都、大京、京師、京都、京邑と記載された。辰韓時代、斯羅國の中心地は北川と南川によって形成された扇状地に立地していた。月城から隍城洞にかけての地域である。

高句麗は永樂10年(400)に新羅に侵攻し、「新羅城」に至った(広開土王碑文)。金城のことであろう。5世

紀代末葉には炤知麻立干9年(487)「葺月城」、同10年に「王移居月城」という記事がみえ、「月城」が造営されていた。

高句麗は427年に平壤城に遷都し、清岩里土城と大城山城が一体となる都城を造営した。月城はその清岩里土城と立地条件・平面形態などが類似する。そのころ慶州では明活山城が築造されていた。実聖尼師今4年(405)に「倭兵来攻明活城」、訥祗麻立干15年(430)に「倭兵来侵東辺。圍明活城」、慈悲麻立干16年(473)に「葺明活城」(『三国史記』新羅本紀第3)、同18年(475)に「王移居明活城」などの記録がみえる。「倭兵」の記事は検討しなければならないが、5世紀後半には月城ともに明活山城は築造されていた。

慈悲麻立干12年(469)に「定京都坊里名」とある。

坊里制が定められたかどうかあきらかでない。このころから京位・外位の制度の前段階といえる身分制度、中央(王都)と地方との関係が顕在化する時期にあたる。冠飾・冠帽・大刀などに身分制度が表象されている。

新羅都城の発展の画期は7世紀後半の坊里制の成立である。白(村)江戦争後、唐と戦争状態にはいるが、668年統一新羅が成立した。新羅は唐の長安・洛陽城にならって王都を整備してゆく。文武王14年(674)の「宮内穿池造山」(雁鴨池)、文武王19年(679)の「創造東宮。始定内外諸門額号」、孝昭王6年(697)の「宴羣臣於臨海殿」などの王京・王宮造営記事、文武王20年(680)の金官小京、神文王5年(685)の西京小京・南原小京の地方都市の整備などからみて、7世紀末葉、王都に坊里制が形成された。

金京の都市構造

城東洞遺跡は「北宮」と推定される。北宮は767年までに創建されている。「北宮庭中先有二星墜地」(『三国遺事』巻2、惠恭王条)、「三星隕王庭、相擊、其光如火迸散」(『三国史記』巻9、惠恭王3年条)とあり、北

宮は宮庭であった。

雁鴨池・臨海殿跡(東宮)、芬皇寺苑池、龍江洞苑池など王宮、寺院にもなる苑池がある。

仁旺洞遺跡(現慶州博物館)では「習府」「習部」「庀」銘瓦が出土し、習比部関連の坊里と推定される(鄭良謨・姜友邦1974)。月城垓字(趙由典・南時鎮1990)。月城北方遺跡で官衙関係の遺構、皇南洞376番地で見つかった「椽」字木簡は京内の倉・大蔵、市に関連する。東川洞北方遺跡では南北道路、東西道路、建物、排水施設、蓮池、墻垣、苑池などの遺構がみつかっている。独山をふくめたこの一帯は禁苑の可能性がある。隍城洞古墳、龍江洞古墳さらに龍江洞苑池がある。

隍城洞、九黄洞・排盤洞ガス管理設地跡、西部洞19番地、西部洞北門路などで道路遺構がみつかっている。王京内の南川に架けられた月精橋・白精橋、鬼橋の橋によって、王京内の交通網が整備されていたことがわかる。当時の木造・石造の建築技術もわかる。

皇龍寺周辺の地割と坊里

皇龍寺の伽藍垣牆は1尺35・1cmの「東魏尺」によって完数値がえられている。同様に算出すると、東西複廊

CHEONGHAK

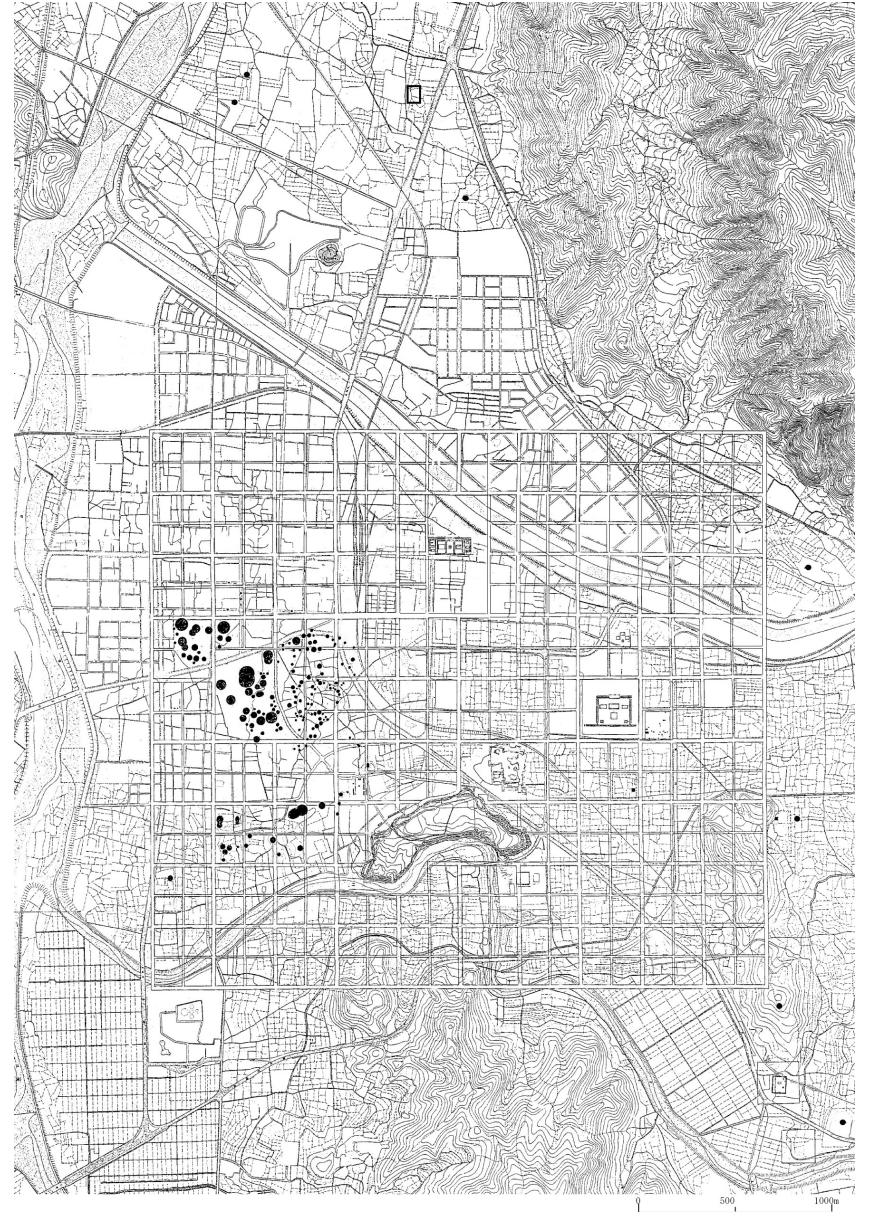


図1 新羅金京復元

間169・1m(480尺)、各金堂間56・3〜56・4m(1660尺)で3等分された数値である。南北関係は、第3次伽藍の講堂―中門間が149・2m(425尺)で、金堂―講堂50・2m(143尺)、金堂―塔間49・3m(140尺)であり、やはり全長の3分の1である。つまり皇龍寺は東西南北を三分割という設計原理の伽藍配置である。東魏尺が使用される。

皇龍寺の東方地区(東南坊里)では、東西方向の道路遺構3条(南大路・幅15m内外、東小路・幅5・5m、北大路・幅16m)と南北方向の道路遺構2条(皇龍寺東大路・幅5・5〜16・0m、道林寺西小路(東南坊里東辺小路)・幅5・5〜7・8m)が発掘されている。

東小路は幅5・5mで、その中心は金堂台座の南18・0m、皇龍寺基準点から北に5・5mにあたる。皇龍寺東塙にとりつく。

南大路(南辺大路、皇龍寺大路)では、上面の約70mの下部から先行する時期の道路遺構(幅15m)が確認され、その南北に石築排水路が道路と並行してつくられる。下層の道路幅は13・5mである。道路心はその中心を皇龍寺基準点から南側に161・3mである。北小路の下層でも、南北両側に石築排水溝の一部が確認され、道路

は側溝をとまなう。

皇龍寺東塙の東に東西2条の大・中形の南北溝がある。その小形排水溝の下層で、統一新羅時代の幅5・5mの道路が確認された。まず大形排水溝がつけられ、大形溝の東16mに中形溝が設けられた。その東塙にそって道路が存在する。その南の延長上に幅約16mの道路が存在する。皇龍寺大路の南にとりつく。東塙東側の道路は坊内にあるため、幅5・5mと減じている。皇龍寺東塙と東南坊里西塙の間を通る道路である。

北小路と南大路の道路心々距離の一端は165mである。また皇龍寺基準点と南大路心まで161・25mという測定値がある。基準点と道路心の間隔は5・5m、金堂台座中心から道路心まで18・0mである。したがって道路心から南大路心まで166・75m(161・25+5・5)を測る。

皇龍寺南北塙間の1坊里は325・43m(140・68+23・5+161・25)で、その2分の1は162・7mで、1坊里を450尺と仮定すると、1尺36・0cm(162・7/450)である。皇龍寺北辺大路の幅は15〜16mの可能性があるので、加算すると、1坊里333・4m(166・7m半坊里)となる。

CHEONGHAK

道路心から北牆心は158・68m(23・50-5・50+140・68)、D路心からE路心は166・43m(158・68+7・75)である。皇龍寺域内では、南に166・8m(161・3+5・5)、北に166・4m、つまり166・6mの単位が算出しえる。皇龍寺東方D路-E路心は、162~165mである。

半坊里の単位は東西160~162m(1尺35・6~36・0cm)、南北162~166m(1尺36・0~36・9cm)、1坊里は東西320~324m、南北324~332m(平均値326m)と割りだせる。

以上の道路遺構と皇龍寺の伽藍および垣牆との関係から、造営基準線、造営尺度を推定する。

皇龍寺の講堂金堂塔中門の中心軸(南北主軸)から西牆まで161・4m、南北主軸から東牆まで126・3mと測定されている。皇龍寺東牆から東方垣牆区画の西牆まで35・2mである。したがって南北主軸から皇龍寺東側の垣牆区域の西牆まで161・3mとなる。さらに図上から東西大路(南大路)と東西小路(北小路)の溝心々距離は162~165mと測定される。南北小路(東小路)と皇龍寺東牆間は約164mである。

大路側溝幅は上層溝で0・8~0・9m、中層で0・

7~1・4mである。道路幅は上層で16m前後、下層で13・5mと推定される。したがって路面幅は上層で14・3m、下層で11・4mとなる。

南北主軸から東南坊里西垣牆まで161・4mであったが、これを450尺と仮定すると、1尺=35・9cmという単位尺がえられる。東西の大路と小路間が162~166mであったが、450尺で徐すると、36・0~36・8cmとなる。つまり35・9~36・9cmの間にある。これを大尺とすると、小尺(唐尺)は29・9~30・8cmとなる。1坊里を450尺×2の900尺と仮定すると、324~330cm(平均327m)となる。162~166m(平均164m)は半坊里といえる。

皇龍寺跡の発掘成果から造営の基準尺度を推定すると、1尺35・9~36・9cm、1坊里328mと算出される。かつて坊里の復元にあたって、遺存地割から160m前後を1区画として、4区画を1坊里と推定したが、造営にさいして施工上の誤差などもあり、160~166mの幅をみて、基本単位は半坊里164m前後、1坊里328m前後をとらえておきたい。

皇龍寺周辺の道路遺構を基本として、王京各地で発掘された遺構、遺存地割などを検討する。

・皇龍寺東方の南北小路(道林寺西小路)で、皇龍寺東北坊里で幅7・6m、東南坊里で5・5m、S430区(S430、E291)で幅7・8mの道路が検出されている。皇龍寺東牆まで160m余である。東南坊里では南北小路と皇龍寺東牆まで約165mである。道路心々距離は160~162mとなる。

・皇龍寺東牆と東辺に沿う南北大路(皇龍寺東大路)は幅12m以上である。東牆に沿う部分は幅約5・5mである。

・皇龍寺南牆の南面を通る東西道路(皇龍寺南大路)で、幅15・5mの大路である。

・皇龍寺金堂の東につながる東西小路(皇龍寺東小路)は幅5・5~6・0mである。

・皇龍寺東北坊の北、北牆延長道路(皇龍寺北大路)の幅は16・0mである。皇龍寺北牆外の道路については不明。

・皇龍寺西1坊里の南北道路(雁鴨池東小路)は東側溝と幅7mの道路面が確認されたが、西側はその現在の道路下に延びるという。

・城東洞西方(南古皇下層)の南北道路(北宮西大

路)は幅13m以上の道路である。東160mの南北軸は、大形の東西棟建物の中心にあたる。

・西部洞の慶州邑城内で南北(西部道南北小路)・東西(西部道東西小路)道路、西部洞北門路で4条の南北道路が確認された。

以上の資料から、皇龍寺東方道路の東西幅は160~162m、皇龍寺南牆と金堂東の東西道路間の南北は約165mである。

皇龍寺周辺では、坊里の区画が東西・南北160~166mというような差がみられる。僧坊など特殊な施設などが想定されるので、普遍化しえない面がある。坊里制施行の基準になった可能性もつよい。

他に王京内で坊里推定の資料が未確認であるので、仮説として提示する。道路幅は小路で5・5~7・8m、大路で15・5~16・0mである。したがって大路・小路の10分の1である。長安城の街路が、おおよそ16・0mである点は注目される。

王京・坊里の施工にあたって、他の基準軸が想定される。それは、西川に並行して南北に走る道路で、現存の鳳凰路にあたる。慶州邑城の中軸線上にもあたり、慶州盆地内ではほぼ南北に直線状をなしている。南は南川に

CHEONGHAK

至り、さらに五陵の東端を過ぎ、南山西麓に沿って南下し、梁山・東萊に至る。北は城乾里から隍城洞。羅原里まで直進し、さらに安康方面に至る。

この道は5千分の1地図で計測すると、試みに皇龍寺の南北主軸(0地点)、道林寺西小路(E293・50m)から計測する。道路(鳳凰路)は金冠塚・西鳳凰台古墳から西に曲がり、最長部分は皇南国校の西側、瞻星台の西である。これらを1坊里328m(900尺、1尺36・4cm)で除すると、①②③が7・3、④7・45で6坊半(13半坊里)という値がえられる。1坊里320m(1尺35・6cm)で除すると、①②③が7・5坊里、④が7・6坊里となる。この道路を南北古道と称する。1坊里・900尺・320m(半坊里160m)を基準尺度として想定しえる。

さらにこの南北古道を1万分の1の地図によつてみると、その東約1800m(1尺36cmで、5000尺)に、雁鴨池と皇龍寺の間を通る南北道が存在する。5・6と5・5坊里(1800・/320と328)である。その西約620m(1・9坊里)に「南北大路」が通るが、南北古道から3・5坊里にあたる。さらにその西約630と640mに南北方向の道路痕跡を明瞭にとどめるが、

皇龍寺中金堂および講堂の西端にあたる。東西の中心軸を皇龍寺の中金堂南北主軸に王京の造営基準線に仮定したことがある。芬皇寺南の坊の西牆が中心軸に合致する。この坊は皇龍寺の僧坊かもしれないが、その西牆の位置、構築時期との関係は無視しえない。つぎに京域をかざる南・北・東の京極を検討しよう。

南京極は、狼山山頂と武烈王陵(661年没)を結ぶ線が想定される。王京は文武王(661と681)代に整備されているので、その前王の陵墓は意識されていたにちがいない。月城の南東部で、南川が南北・東西方向に直線的に改修されている。日精橋の橋脚の位置・方向からみて、新羅時代に修堤されたのであろう。その一帯は、南山の北麓にあたり、地形的条件からみても南の京極の想定できる。その南川は皇龍寺南大路から南に4坊里に相当する。狼山の南峯(標高116m)の南に接して善徳王陵(647年没)が立地する。その南山麓に四天王寺が建立されている。南峯の西に小山(高台)がある。現在、北半部は削平されているが、王京関連の施設があったのであろう。南京極の西端に五陵が存在する。始祖赫居世など五陵の築造時期はあきらかでないが、西南方向・西南隅に築造されていること注目される。宮中

これは南北古道から1・5坊里分に相当する。芬皇寺南方の西牆までは2070m(6・3と6・5坊里)である。この南北古道は金冠塚の東側、鳳凰台古墳の西を南北に通る大路である。金冠塚の東辺がいつの時期に削平され、民家が建築されたか不明である。道路が整備されたことは金冠塚の墳丘外をとおっていたのであろう。北側の隍城洞遺跡の石敷道路とつながる。邑城北辺の北門路の3号道路も南北古道にあたる。王京の造営の基準線になった。皇龍寺の南北主軸でなく、皇龍寺東牆(東大路)ないしその東側大路も基準の一つとなっていた可能性もあろう。

7世紀末の王京の坊里制の再施行にあたって、それまで存在していた月城・皇龍寺・芬皇寺・興輪寺・靈廟寺は王京にくみこまれたのであった。

南北古道と皇龍寺の伽藍・垣牆と周辺の大路・小路から基準線が設定された。南北は、皇龍寺東牆(東大路)、中金堂と塔の中間に通じる東小路と皇龍寺南大路の数値165mが一つの基準になったと推定される。中金堂心から南18mが道路心にあたる。

東西は皇龍寺東大路と道林寺西小路は160・00mで、皇龍寺東大路の西160mは中金堂の西端の線となる。

における西南隅は神(祖先神)が居場所である。五陵の葬地は王京外に定められたのであろう。その造営・祭祀は北の脱解王陵と同じ時期におこなわれたのであろう。

東京極の設定にあたっては、盆地東南の狼山西麓に位置する陵旨塔の性格が問題となる。十二支像の午像の板石が唯一みつかつているだけだが、石製の相輪片もあり、墳墓でなく、基壇に十二支像をめぐらせた塔基であろう。文武王の火葬の場は、狼山の辺りと伝えられている。発見された文武王の碑もその近くに立てられたという。王京内に葬地は禁じられ、茶毘の場はその東南にある四天王寺の辺りでなされたのであろう。陵旨塔が墳墓であれば、その地は王京外になるであろう。

狼山の東に皇福寺石塔が遺存し、寺域も存在する。また皇福寺の東方に破壊された墳墓がある。十二支像の外護列石が圍繞する王陵級の墳墓で、8世紀中葉ごろに推定されている。その墳墓と皇福寺寺域の東端の間に「九黄洞古道」が想定されている。

狼山の北には、地籍図をみても方形の地割が遺存するが、きわめて限定された区域である。やはり墳墓(陵墓)の存在からもその西に京極が設定される。

この京極の北、皇龍寺の東側に九黄洞廃寺(模埴塔)

CHEONGHAK

が位置する。この廃寺から「道林」銘瓦が出土したことから、『三国遺事』巻2にみえる「道林寺旧在入都林口」の道林寺に比定される。道林寺は都の東端に位置していた。その東側一帯で寺院跡は確認されていない。

北京極については、盆地の東北部の丘陵に立地する東川洞古墳群、龍江洞石室墳、隍城洞石室墳を京域にふくめることができない。後世に築かれたとみられる脱解王陵も、京外を意識してつくられたのであろうか。この東川洞から小金剛山南麓・西麓の龍江洞にかけて道路があるが、古道とみられる。川の旧流路に沿うように通っており、東京極から北方に至る当時の幹線道路であった。北川の流路にかんして、王京の一画を流れていたのか、旧地形の復元が必要であるが、旧河川はさきの古道に沿う、小金剛山麓を流れていたと推定される。

小金剛山の西の東川洞一帯から独山という小丘にかけての地域は、南北古道と小金剛山西麓道、北川の旧河道に囲まれた地域である。尹武炳説によると、王京内である。東川洞遺跡で建物、道路遺構が見つかっている。この地域に南北3里、東西6里の坊里を設定することも可能であるが、最大の問題は「北宮」が北宮でなくなるからである。

小金剛山が、三山の「骨火」であるとすると、王京の北岳にあたる。独山から北宮にかけての地域は狼山一帯の「奈林」とおなじ禁苑的な空間であったと推定される。

西京極については、路西洞古墳群のなかに、馬塚・双床塚などの横穴式石室墳が7世紀末以降の時期とみて、王京外とかがえたことがあった。これらの石室は7世紀後半から8世紀前半に編年されるが、7世紀末の坊里制の施行時期との関係はあきらかでない。新羅王京の成立に唐の影響をかんがえるならば、隋唐の喪葬令の規定のように京師における埋葬の禁止は遵守されたであろう。したがってこれらの墳墓は坊里施行以前の石室墳と推定しておきたい。西部洞の慶州邑城内で発掘された南北・東西道路の東西道路が南北道路の西側に延びるならば京極と設定しがたい。

以上のように、京域が設定されたのであるが、京の外域にも方格の遺存地割がみとめられる。狼山の北、東辺、邑城の西・西南地域、北京極の北辺である。ただ東辺は、皇福寺東方墳墓の西、北辺は龍江洞石室墳の北、東辺は西川の西、南辺は南京極の推定線の南にはひろがらないであろう。

独山を中心として、小金剛山麓から西川一帯は禁苑と

推定される。北の龍江洞石室墳や隍城洞石室墳をふくまない範囲である。東川洞で、道路・垣牆・建物・井戸鍛冶跡などがみつかっているが、禁苑内での官宮工房跡とみられる。「北園宮」（『三国史記』雑志第8）とよばれていたかもしれない。

あらたに発見された龍江洞苑池は王京外に位置する。離宮や饗宴施設の苑池であろう。その西の南北道路は「北宮」西大路に直結する。

このように慶州王京は、皇龍寺垣牆および周辺の道路、南北古道などを基準として、坊里制が施行された推定される。その造営にあたっては、「朱雀大路」などの主軸も存在したのであろう。

新羅王京では、坊・里の名が文献にみえ、「坊里」制が布かれていた。

新羅全盛之時。京中十七萬八千九百三十六戸。一千三百六十坊。五十五里。三十五金入宅（『三国遺事』

卷一、辰韓条）

城中。三百六十坊十七萬戸（『三国遺事』卷5、念仏師）

王都長三千七十五步。廣三千一十八步。三十五里。

六部（『三国史記』雑志第3、地理1）

CHEONGHAK

坊名として「板積宅芬皇寺上坊」、「反香寺上坊」、「反香寺下坊」、「隅金坊」がある。

里名は「久遠寺西南里」、「沙梁里」、「芬皇寺之東里」、「孝徳之里」、「王城西里」、「漢岐里」、「徳隱居芬皇西里。或云皇龍寺有西去房未知孰是」、「京師萬善北里」、「明常居四天王寺。：因名其路日月明里」がある。

坊里の關係は「芬皇寺上坊」、「芬皇寺西里」とあり、東西南北の關係で坊里とよばれていた。上坊は現在の北川の河川敷にあたるが、北川がさらに北側にあつたことをしめす。芬皇寺上坊の板積宅は芬皇寺の寺域が1坊里の大半を占めていることから、芬皇寺北の大路をこえた坊里に存在したのであろう。「芬皇西里」は芬皇寺の西の坊里に想定される。

なお坊里の呼称に関連して、「法流寺南」、「川北」、「葛善北里」とあり、東西南北の四至、南北にあたる上下と表現されていたことがわかる。

宅地名は、南宅、北宅、汚比所宅、本彼宅、梁宅、池上宅、財買井宅庾信公祖家、北維宅、南維宅反香寺下坊、隊宅、賓支宅反香寺北、長沙宅、上櫻宅、下櫻宅、水望宅、泉宅、楊上宅梁南、漢岐宅法流寺南、鼻穴宅法流寺南、板積宅芬皇寺上坊、別教宅川北、衙南宅、金楊宗宅

梁官寺南、曲水宅川北、柳也宅、寺下宅、沙梁宅、井上宅、里南宅汚所宅、思内曲宅、池宅、寺上宅大宿宅、林上宅青龍之寺東方有池、橋南宅、巷叱宅本彼部、樓上宅、里上宅、井下宅がある。

寺名もまた「法流寺南」、「梁官寺南」、「青龍之寺東方」というように方位の呼称のもととなった。

新羅金京の復元

新羅に王京は、京城の設定・造営尺度の復元などからみて、南北九坊里、東西八坊里ないし十坊里の坊里(制)が施行されていた。月城から東宮(臨海殿跡)の西をとおり、北宮(城東洞遺跡)に至る中心道路(朱雀大路?)を中心とする。各坊里は小路によって、四分割されていた。坊里内では宅地割りされ、大小の「宅」が存在した。つぎに推定した王京と各遺跡との地理的関係をあらためてみてみよう。

芬皇寺は、善徳王3年(634)の創建である。その伽藍配置については諸説があったが、近年の発掘によって創建時は一塔三金堂式であったことがあきらかとなった。さらに幢干支柱の南3mで、東西方向に約40m延びる垣牆が確認された。芬皇寺の南に、その南北主軸から

西73mで、南に折れ、垣牆で囲まれた「宅地」が存在する。東牆・南牆部分は未確認である。西牆の西5・7mで、幅1・8mの南北方向の石築排水路が30m分確認されている。南北方向の牆は、坊里の南北区画線上にあたる。芬皇寺の幢干支柱は皇龍寺の南北主軸上にあるが、そのわずか3m離れて検出されている。芬皇寺南の壇垣区画はほぼ4分の1坊里分にあたる。皇龍寺東南坊里と同様の性格をもったもので、寺の僧坊のような空間で、皇龍寺の関連施設であった可能性が大きい。

瞻星台は善徳王代(632~647年)に構築されたことが知られる。天文台説、須弥山説などがあるが、その位置関係に注目したい。つまり瞻星台は皇龍寺南北主軸から西に4坊里、南に1坊里の位置にある。この瞻星台付近に道路が施工されたか否かは定かでないが、王京の造営にあたっては、古道とともに重要な指針となつたであろう。

月城は北宮の造営後も王宮の中心として存続した。月城を核として、東宮、瞻星台をふくめ、王京区域が設定される。朴月龍はそれを「満月城」とかんがえる。「新月城北有満月城。周一千八百三十八步」(『三国史記』卷3雜志3地理1)とある。1歩6尺、基準尺36・10cm(皇

龍寺跡)で計算すると、3961mとなる。一辺が3坊里(3×325m)の975mとすると、四周は3900mとなり、ほぼ合致することがわかる。すると満月城は月城、雁鴨池、瞻星台、月精橋・日精橋をふくむ区域といえる。さらに天柱寺・仁旺洞廢寺もふくまれる。ただ月城北方の建物群が南北小路状にある。『東国輿地勝覽』によると、「土築。周四千九百四十五尺」とある。1尺30cmで、1483・5mとせまくなる。満月城の土城が大小の道路に沿うものでないならば、東宮から月城北方建物群を囲む範囲、3坊里分とすれば一致する。

鷄林一帯の建築群も唐尺が使用されており、8世紀以降に月城の外に拡大された宮城の一部と解釈される。

この王宮域で、坊里の道路がそのように施工されたかである。月城の周囲に壕字が掘削されているが、東門跡付近に鍵形の壕字が築造されている。他の曲線的な壕字の形態に対して、北壁を東壁が直線となっており、方形区画、道路と関連する。この壕字に沿って、東門から東宮へ至る通路が存在するのである。

文武王19年(678)の「始定内外諸額号」(『三国史記』卷7)という記事は、坊里制・王京が再整備されたことを示唆する。昭聖王2年(801)に「臨海仁化二

CHEONGHAK

門壞」とある。これが臨海殿への門であり、月城の東門から東宮への南門であろう。また神文王3年(683)に「至王宮北門下車入内」(『三国史記』卷8)の王宮は月城である。帰正門は宮の西門にあたり、京外から王宮に至る重要な門であった。月城の「北門」から、北宮に至るには南北大路を通つたのであり、「玄徳門」などはその一画とかがえられる。北宮の規模も今後の調査によって解明されるであろうが、かつて発掘された宮殿建築の東西軸がほぼ推定の大路に一致し、坊里制と北宮の造営が不可分の関係にあることを類推させる。

王京の内外に六部があり、王都を中心として政治をおこなっていた。「及梁部を中東、沙梁部は南、漸梁部(牟梁部)は西、本彼部は東南、漢岐部は東、習比部は東北」と推定されている。その習比部については、さきにも述べたように月城東南の仁旺洞遺跡(慶州博物館敷地)で、関連資料がみられる。

東方に狼山があり、その狼山一帯に「奈歴」奈林」があった。「狼山之南有神遊林」(『三国遺事』文虎王法敏条)とみえ、この一帯が神聖な地域であった。その奈歴は習比部にあつたといわれる。したがって習比部は月城の東

金京・藤原京・長安城の坊里				(単位m,括弧内指数)				
	新羅金京		日本藤原京		唐長安城		日本平城京	
1 坊里	320-332(326) 東西 320-324(322) 南北 324-332(326)		534 (267)		500-1115 東西 562-1115 南北 500-590		534	
半坊里	162.0-166.0(164)						半条坊133.5	
小尺	0.300-0.305		0.293-0.297		0.294		0.295-0.296	
大尺	0.360-0.366		0.352-0.356		0.353		0.354-0.355	
1 坊里	大尺900,小尺1080		小尺1800,大尺1500 (小尺900,大尺750)					
南北	9 坊里(2883.6)	1.00	9 坊里(4770)	1.65 (60)	13坊里(8651.8)	3.00 (33)	9 条(4770) 外京 4 条(2120) 北辺半条(267)	1.65 (60)
東西	10坊里(3204)	1.00	10坊里(5300)	1.65 (60)	10坊里(9721)	3.03 (33)	8 坊(4240) 外京三条(1590)	1.32 (76)
面積	9239054㎡	1.00	25281000㎡ (9×10)	2.74 (37)	84104148㎡	9.10 (11)	24380838㎡ 京 20224800㎡ 外京 3370800㎡ 北辺 427734㎡	2.64 (38)
			28090000㎡ (10×10)	3.04 (33)				

表1 金京・藤原京・長安城・平城京の規模

CHEONGHAK

新羅金京と藤原京
 文武王19年(679)の東宮の創建、内外諸門の額号の制度、南山城の増築、767年の「北宮」などから、王宮・王京造営の記事が7世紀後半に集中すること、文武王代にみられる唐の諸制度(律令・喪葬令・衣冠制)を導入し、国家機構を整備し、王京・坊里制を施行したのである。

『国史記』雑誌第7職官上)
 統一新羅時代以前に、月城の東に市が設けられ、物資が取引されていたのであろう。孝昭王代に置かれた、西市と南市の監督は各2人で十七等官位の十二等の大舎であった。2人体制の監であることからそれ相当の官営の市であった。各市とも1里4坊分を占める。
 坊里制が施行され、造営工事も進行する時期695年に西市と南市が置かれた。坊里の西・南であるが、宮(月城)の南に市は想定しがたい。王京の西に、南北の市があったと推定される。東西・南北の大路に接していたならば、東部洞や皇南洞に各1坊(里)の市が想定しえる。皇南洞の市の南には官営工房跡とみられる皇南洞376番地地点遺跡が位置する。

南から狼山にかけて存在した可能性がよい。またこの奈林は三山の一であり、さきに想定した京極の東南隅にあたる。独山付近の「禁苑(秘苑)」との関係もある。小金剛山の北岳に対して、狼山は東岳と解釈されるのである。
 南北古道は坊里制の施行に大きな役割をもっていたが、文献には、官道・大道・路・道(『三国史記』・『三国遺事』)のあったことが知られる。
 幸靈妙寺前路、閔兵(『三国史記』卷7、文武王14年) 靈妙寺東北路傍樹(『三国遺事』卷3)
 始置四方郵駅、命所司修理官道(『三国史記』知麻 立干9年(487))
 四大道祭、東古里、南*并樹、西渚樹、北活併岐(『三国史記』卷32)
 四城門祭、一大井門、二吐山良門、三習比門、四王后涕門(『三国史記』卷32)
 官道・大道・城門との関係であるが、このなかで習比門は、習比部とのかかわりで、狼山西麓にあったとみられる。つまり京の東南隅、四天王寺跡から仏国寺に至る古道が想定される。また南北古道の北に「枝北」という地名のこるが、「活併岐」と関連するのであろう。「王

后涕門」は月城の「南門」に通ずる門であらう。
 「幸靈妙寺前路。閔兵」、「靈妙寺東北路傍樹」の史料から、「靈廟寺」の南に大路があり、さらにその東に南北方向の道路が存在した。この南北古道と南川の交差点には、「鬼橋」(『三国遺事』卷1)、「大井門」があったのであろうか。東西道路は遺存地割からみて、皇龍寺南門の前の大路が重要であったとみられる。靈廟(妙)寺では、「五星祭」がとりおこなわれていたが、その祭祀と、寺の西南隅という位置と関係があるのであろう。
 市に関して、つぎのような記事がある。
 昭知王12年(490)：初開京師市肆。以通四方之貨(『三国史記』新羅本紀第3)
 智證王10年(509)春正月。置京都東市(『三国史記』新羅本紀第4)
 東市典。智證王9年(508)置。監二人。：大舎二人。(『三国史記』雑誌第7職官上)
 孝昭王4年(695)。：置西南二市(『三国史記』新羅本紀第8)
 西市典。孝昭王4年(694)置。監二人。大舎二人。(『三国史記』雑誌第7職官上)
 南市典。亦孝昭王4年置。監二人。大舎二人。(『三

月城、月城埭字、雁鴨池、瞻星台付近、仁旺洞（慶州博物館地点）などで、「儀鳳四年皆土」（679年）銘瓦が発掘されている。各宮殿に建築部材として供給されたのであり、月城埭字・東宮などが同時期に建立・修復された。新羅王京の成立、坊里制の施行は7世紀後半の段階であった。

藤原京は岸俊男説によると、南北6里（12条）・東西各4里（8坊）の京城からなる。4坊ごとに一人の坊令が置かれた。東西両京極は中ツ道と下ツ道で隔され、その間隔は2118m、高麗尺（35・3×35・5cm）の6000尺≡4里で、1坊は高麗尺の750尺≡半里≡約265mであった。上・中・下三道は高麗尺6尺を1歩とする1000歩という完数で設定されていた。1里は1500尺で、東西南北の各里は一边750尺で四分割され、さらに各条坊は四分割され、375大尺（実長133・5m）が造営基準となっている。

藤原京造営に大尺（0・35×0・36m）が使用された。大路は朱雀大路が70大尺（復原値24・8m）、六条大路が50大尺（17・7m）、八条大路などが45大尺（15・9m）、三条大路25尺（8・9m）と復原されている。大路のばあい、かなりの差異があるが、路面幅が50大尺というよ

CHEONGHAK

うに一定することが指摘されている。小路は20大尺（復原値7・0m）とほぼ統一されている。慶州王京では16m前後（45尺）の大路が発掘されているが、半坊里（450大尺）の10分の1にあたる。

慶州王京の坊里は大尺900尺（小尺750尺）の325mで、藤原京の各坊里は小尺1800尺（大尺1500尺）の534mである。藤原京の造営単位を1里534mの2分割の267m（1里四方の4分割）とみると、各坊里の基準尺度は小尺900尺（大尺750尺）となる。つまり二つの王京に、「900尺」という共通の単位が存在する。慶州王京では大尺900尺（小尺1080尺）であり、藤原京は小尺900尺（大尺750尺）という関係である。造営基準尺の使用法のちがいをいえる。

慶州王京の造営は、674年に「宮内穿池造山」（雁鴨池）、679年に「東宮」がつくられているので、それ以前にさかのぼる。孝昭王6年（697）には臨海殿で宴がとりおこなわれている。

王京内に皇龍寺を中心として芬皇寺・四天王寺・望徳寺など、王京外に高仙寺・感恩寺・仏国寺などが建立された。いずれも双塔式伽藍配置である。

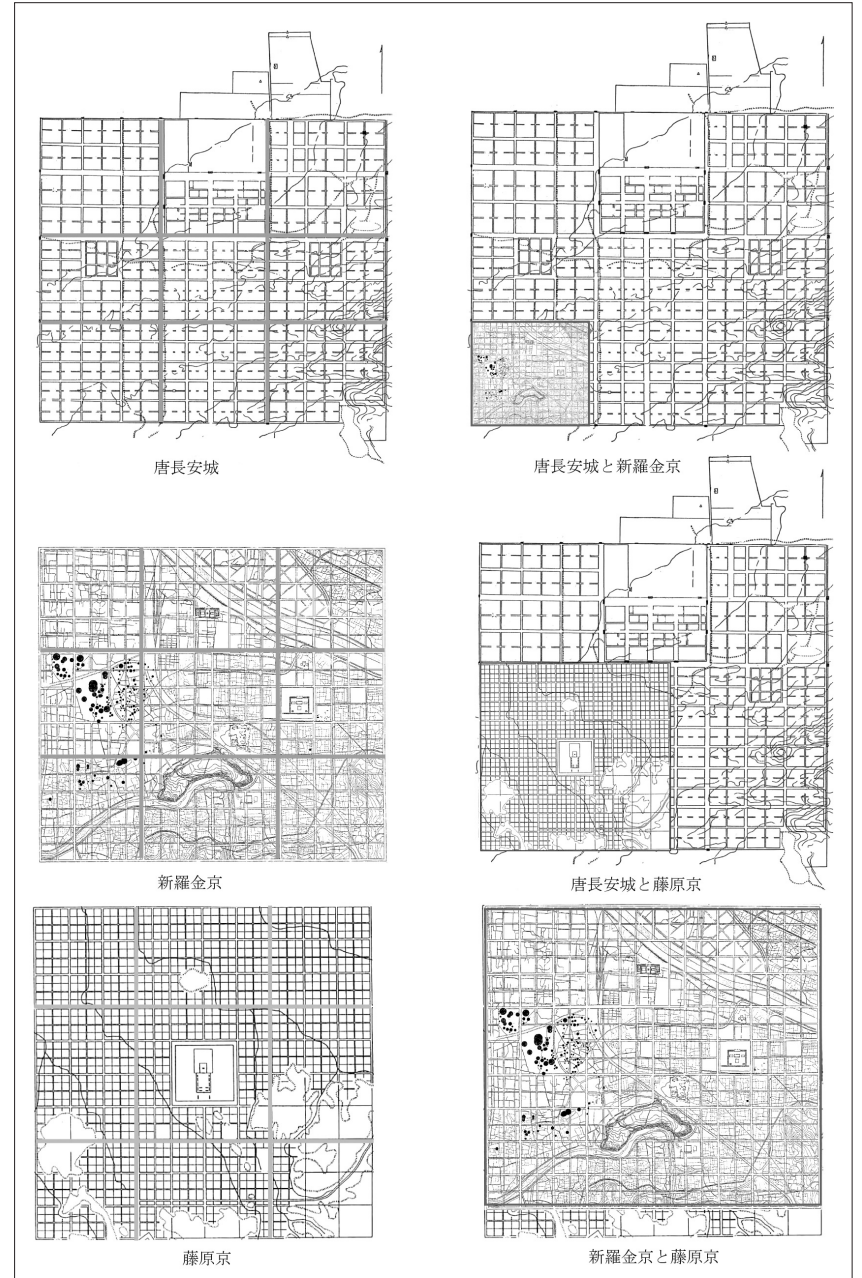


図2 新羅金京・唐長安城・藤原京

藤原京遷都は694年であるが、680年代に造営は開始されている。

680年ごろの建立の元葉師寺や同時期に造営された大官大寺は双塔で、翼廊のつく金堂など、その伽藍配置は慶州四天王寺跡、感恩寺跡と同一である。藤原京内の寺院は新羅仏教の影響によって建立された。

また近江の勢多橋（今の瀬田唐橋）の橋脚構造は新羅王京の月精橋・日精橋に類似し、土木技術の面でも、技術伝播・移転がなされたのである。

慶州雁鴨池と飛鳥苑池造営の時期は同じである。慶州の王京の北京極の北に位置する龍江洞苑池は8世紀代で、平城宮東宮の苑池に類似する。

藤原京は新羅金京に影響のもとに成立した。藤原京の宮は中央部に位置している。新羅王京のばあい、5世紀後半以来、南に位置する月城が王宮として機能していた。7世紀末葉に唐の長安城により、北宮を造営した。

660年の百済の滅亡、663年の白村江戦争、672年の壬辰の乱の政変のなかで、飛鳥板蓋宮から近江大津宮、飛鳥浄御原宮に遷都し、藤原京が成立した。

白村江敗戦後、日本の対外関係は同じ戦勝国であるが、唐から新羅にかわった。そうした歴史環境のなかで都城

て、3分割されている。

『周礼冬官』に「匠人營國方九里，傍三門。國中九經九緯。經涂九軌。左祖右社，面朝後市。市朝一夫」とある。京城各三門の街路によって9分割するのが周礼の理念である。新羅金京、藤原京も9分割されている。

金京と長安城との比率は東西南北1対3、面積1対9の関係にある。つまり金京は長安城の9分の1の規模である。金京の宮殿は月城にあったが、長安城の宮城配置の影響をうけ、北宮を造営した。なお金京と藤原京との比は藤原京が9・10坊里のばあい1対1・65（指数60）の相似形、10・10坊里では184〜1・65（指数54）60）となる。面積は1対2・7〜3・0（指数37〜33）の関係にある。

藤原京と長安城の比率は南北1対1・81（9坊里）〜1・84（10坊里）、東西1対1・84、面積で1対3・3（9坊里）〜3・0（10坊里）の関係である。藤原京は長安城の約3分の1の規模となる。平城京の面積は長安城の4分の1と指摘されている。

新羅では6世紀初めにすでに律令が發布されている。7世紀末葉の統一期に律令体制にもとづく王権が確立した。坊里制が施行され、王畿が形成された。

CHEONGHAK

制や新羅仏教があらたに伝わった。

新羅金京と唐長安城

金京（金城）は東西10坊里（3200m）、南北9坊里（2880m）の規模をもつ。1坊里は約3200m四方で、1坊里は4分割される。1坊里は1尺約36・0cmの大尺で900尺である。儀鳳4年（679）銘の瓦が皇龍寺、四天王寺、月城、雁鴨池で出土し、宮殿や寺院の造営が進められた。月城の王宮とともに、北宮が坊里の北に置かれた。唐の長安城の都城造営の理念にもとづき、北に宮殿（北宮）が造営された。王宮の機能は月城にあった。

新羅金京の東西・南北坊里は各三道（街路9）で分割されたと推定しえる。東西は3・4・3坊里分、南北は各3坊里分を街路で9分割する。各街路に門をおいた。

唐の長安城は南北13坊里（8651・8m）、東西8坊里（9721m）である。南北は春明門―金光門、延興門―延平門の東西二門によって3分割、東西は安化門―芳林門、扈夏門―興安門の南北門によって3分割される。宮城（掖庭宮・太極宮・東宮・皇城の2坊里、東西各3坊里の計8坊里で、長安城は東西・南北を門によつ

2 突厥オラン・ヘレム壁画墓と僕固乙突墓

近年、モンゴルにおいて、オラン・ヘレム壁画墓と僕固乙突墓の2基の突厥墓が発見された。7〜8世紀の唐の政治的国際関係、羈縻体制をさぐるうえでこのあらたなる事実がうかがいあがってきた。

オラン・ヘレム墓

2011年、モンゴル草原のボルガン (Bulgan) 県バヤンノール (Bayan-nuur) のオラン・ヘレム (Ulan-herem) で、モンゴルとカザフスタンの共同調査として発掘された。

オラン・ヘレム墓は墳丘を中心に長さ175m、幅83mの長方形の垣牆で区画された陵園が造営されている。墳丘は南北約34m、東西約30m、高さ約4・0mの楕円形である。単室土洞で斜坡墓道、4過洞、4天井、2龕室（墓道からかぞえて第4天井）、甬道、墓室からなる。全長約46m。墓道は約20m、地表面から6・3m、約15度の傾斜をもつ。過洞・天井部の長さ約19m、幅1・6〜2・2m。墓室は長さ3・1、幅3・4、甬道長さ3・



墓道



墓道東壁 青龍



墓道西壁 白虎

図5 オラン・ヘレム墓 墓道壁画

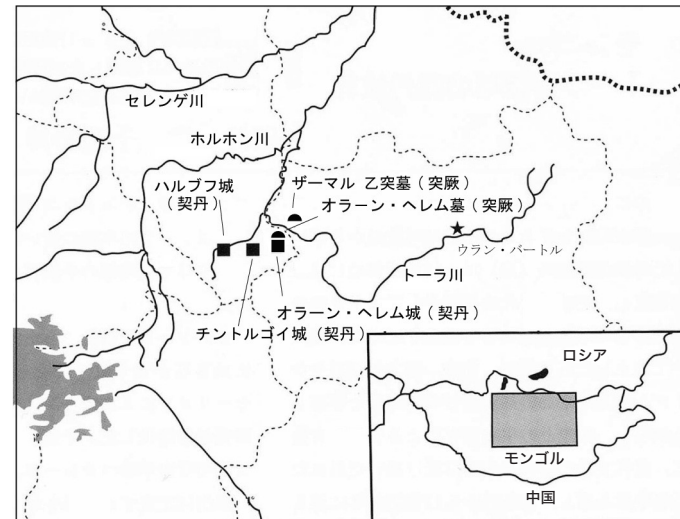


図3 オラン・ヘレム墓と乙突墓の位置

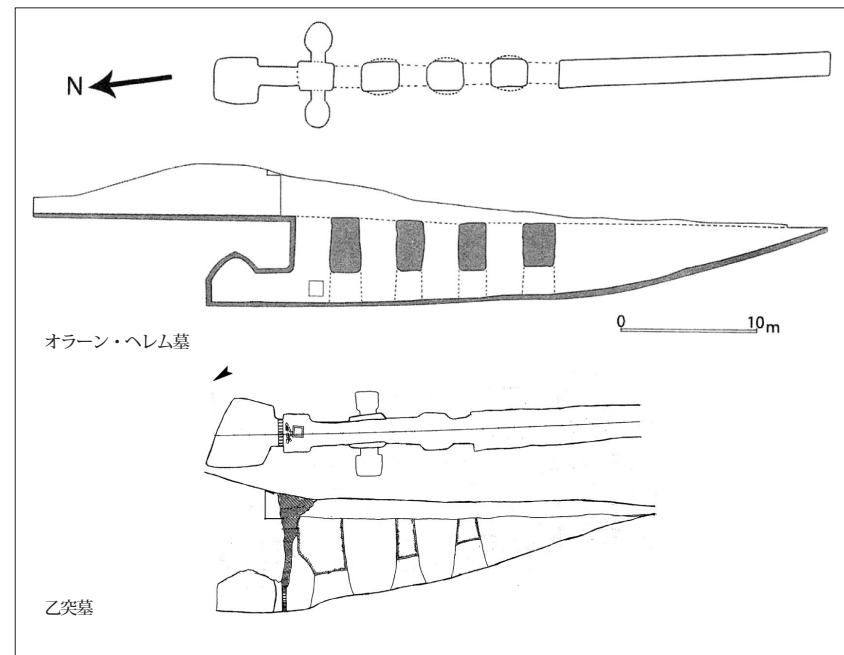


図4 オラン・ヘレム墓と乙突墓の墓室

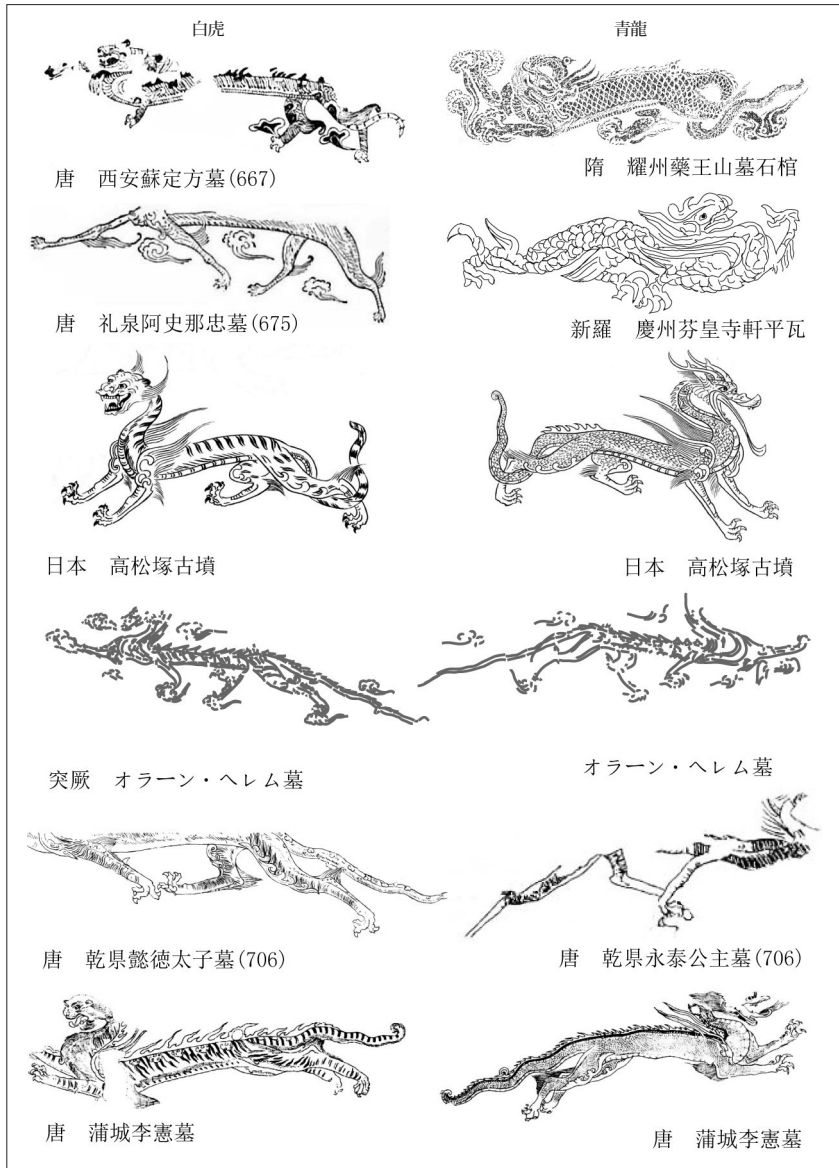


図6 青龍白虎画像

0、幅1・6mである。第4天井に両龕室がつくられる。壁画は墓道・過洞・墓室にえがかれる。墓道の東西壁に青龍と白虎、列戟と儀衛1人、男侍(内侍)3人が配置される。墓道北壁上部の門楼は過洞入口と一体的に表現される。門の基台に入母屋式の楼閣で鴟尾に鳥が止まる。斗拱、扉、櫺子窓、欄干の表現は写実的である、屋根の上方に雁の群れがみえる。

天井・過洞 第1過洞の両壁に牽馬図がある。東壁の牽馬図の御者は弁髪風の頭髪で、開襟の長袍、袴を穿く。馬は鞍金具を装着し、方形状の輪鐙(右)が表現されている。副葬品の金銅装の輪鐙に類似する。西壁の御者は鳳帽をかぶり、円領の長袍、袴・裳を着る。左手で手綱を持つ。鞍を装備するが、鐙(左)が表現されていない。鞍敷は毛織物である。この御者と馬装のちがいは被葬者夫婦の出自に関係するであろう。過洞の後壁に蓮華化生図がある。第4過洞の両壁に2人ずつの人物がある。西壁に女侍と男装女侍の人物がある。墓道・過洞には門楼↓蓮華紋↓畏獣(鬼神) ↓門楼↓鎮墓獣というように一連の辟邪、他界観にかかわる図像が表現されている。壁面に屏風状の輪郭(褐色)をとり、樹下人物像をえがく。女侍は赤色の長袖の衫、条紋裙を身につける。隋

から初唐様式の細身の女性像である。男侍は円襟の袍、裳をつける。上部で数条の赤色線で雲紋があらわされる。同時期の昭陵陪葬の燕妃墓(671)の屏風画に樹下人物図像、雁とともに山岳流雲紋が描かれている。オラーン・ヘレム墓の朱線の横列紋は雲紋を模したものである。

オラーン・ヘレム壁画の青龍・白虎画像の系譜

墓道東壁の青龍は長さ7・6m、高さ1・8mの図像。身体骨格・中心線は青色で表現し、胸繫と腹部下辺、左足にかけて太い朱線で縁どる。左前足を腹部の輪郭線まっすぐに突き出す。足首をかえすようなポーズをとる。下腹部と右後足の交点は約140度の鋭角となっている。白虎のばあいは曲線的である。背から尾に鋭利な線で背鰭をえがく。尾の根元に火焰紋を装飾する。四足は爪の細部まで表現する。左前足をのぞく三足のつま先は雲気紋で装飾される。

西壁の白虎図像の特色は這う姿態で、四足に雲気紋で飾られ、同じ雲龍紋をはき出す。背鰭が表現されているが、白虎図像としては例外的である。朱色の線で輪郭をとる。右足と下腹部下辺は直線的である。背から尾にかけて、背鰭を表現する。尾の端部は丸味をもつ。尾の中

間にねじれのような痕跡があり、部分的にとぎれる。四足のつま先はいずれも雲気紋化している。背の斑点は朱色で花卉状を呈する。盛唐期の白虎のように花紋化していない。

青龍・白虎図像の粉本があり、壁面に転写するかたちで描かれたにちがいない。体軀（尾をのぞく）の幅・高さの指数は47、白虎45で、その比率はほぼ同じである。図面を反転し重ねあわせると明白である。墓道両壁の一定の空間全体に表現しているので、青龍・白虎の大きさはほぼ等しくなっている。白虎の尾の中間に結び目のようになっている。画師の心理状況を推測させる。尾の先端が円まるのは様式的特徴である。青龍の粉本があり、それを反転して白虎が描かれたのであろう。白虎に背鱗が表現されるのは例外である。唐代では金勝村6号墓（山西省太原）の白虎に鱗状の輪郭が描かれる。青龍の図像を基本にして白虎像が描かれたのであろう。オラーン・ヘレムの青龍・白虎図像は阿史那忠墓のものにもっとも類似する。

蘇定方墓の白虎の長さは6・5m（身体5・2m）、阿史那忠墓の白虎は6・5×7・0m、懿德太子墓の青龍の長さは約7m、高さ2・2m、白虎残長6・8m、

続いて、鋸歯状の鱗があり、角も退化している。周囲を花紋で飾る。高松塚古墳の青龍も鋸歯紋化し、青龍の輪郭は縞状紋によってなされている。青龍・白虎の胴部（腹部）に縞状紋で輪郭をとる手法は、初唐の太原南郊墓あたりから顕著になる。冉仁才墓（654）の青龍の脚部は花紋化し、腹部に縞状紋の輪郭がある。

茹茹公主墓の白虎図像は花紋・雲気紋などが装飾され、前進、引導する姿態である。背に唐草紋が装飾される。金勝村7号墓の尾には斑点が表現される。青龍も同様の表現である。体軀の頸から尾にかけての下縁辺部を刻み目紋で表現される。そのため白虎では一般にみられない背鱗状の紋様もある。斑状の尾は蘇定方墓の白虎にもみられ、その尾は左足に絡まる。またその白虎の体軀に花紋が装飾されている点の特徴的である。周囲の花紋が絡まるような表現がなされている。青龍や白虎の尾が後足からまる図像は隋の耀州約王墓石棺、寧夏回族自治区固原史道洛墓（646）墓誌彫刻、蘇定方墓壁画、乾陵石刻にみられる。

オラーン・ヘレム壁画の青龍・白虎図像は咸陽蘇定方墓（667）の図像は礼泉阿史那忠墓（675）から礼泉永泰公主墓・懿德太子墓、洛陽安国相王孺人唐氏墓（7

高さ2mで8mにちかい。永泰公主墓は残長6・0mで、8・0m以上。李憲墓の青龍・白虎は約6mである。墓道に青龍・白虎像が表現されるようになるのは北朝後期以降である。6世紀中葉の東魏武寧陵の湾漳墓（550）などに出現する。墓道に青龍・白虎がえがかれ、四神壁画の表現空間が変容する。四神は十二支像思想とともに墓室壁画に表現される。

墓室・墓道の規模、墓道の図像の構成などに関係する。オラーン・ヘレム墓のばあい、青龍・白虎図像は墓道壁面の半分以上をしめている。同時期の突厥族の右驍衛大將軍阿史那忠墓に匹敵する大きさである。乙突墓（678）も右驍衛大將軍である。

青龍図像は東魏の茹茹公主墓（550）の龍身の背や脚部縁端にC字形唐草紋が表現されている。7世紀後半段階で固原思索岩墓（664）や太原金勝村7号墓のように龍身の輪郭が唐草紋化するとともに、背鱗が鋸歯紋様化（鋸歯紋装飾）される。礼泉・阿史那忠墓（675）に唐草紋様化がみられる。咸陽・蘇定方墓では、龍身が装飾化（唐草紋装飾）するとともに、尾が垂れ下がり、後足に絡ませたり、もぐるような構図となる。高元珪墓（756）は中・晩唐期で、青龍の背から尾にかけて連

06）の図像に変化する。7世紀末葉の唐様式の図像である。

洛陽唐氏墓の墓室壁画の構成は阿史那忠墓やオラーン・ヘレム墓と共通する。

700～701年默啜は安北大都護相王の李旦（のちの睿宗）を天兵道大元帥とした。安北大都護を歴任した睿宗（710～712年在位）の夫人の墓であるが、同時期の長安・洛陽と羈縻支配期の突厥墓と類似する。

突厥僕固乙突墓

モンゴルTov aimag 中央県、Zamar sum ザマール郡の中心から南南東に28 km、Shoron bumbagar ショロン＝ボンバガルあるいはShoron Dov ショロン＝ドブ、トール川から2・5 kmの右岸。契丹の都城址 Khemen Denj ヘルメン＝デンジの北東にある。2009年、ロシア（ブリヤート）とモンゴルの共同調査として発掘された。

陵園の垣牆は北辺92m、西辺111m、南辺90m、東辺108mの長方形である。墳丘は径約20m、高さ5m。円墳内の南東部に墓室が築かれる。全長約28m、斜坡墓道（長さ21m、幅2×2・5m）、3過洞、3天井から

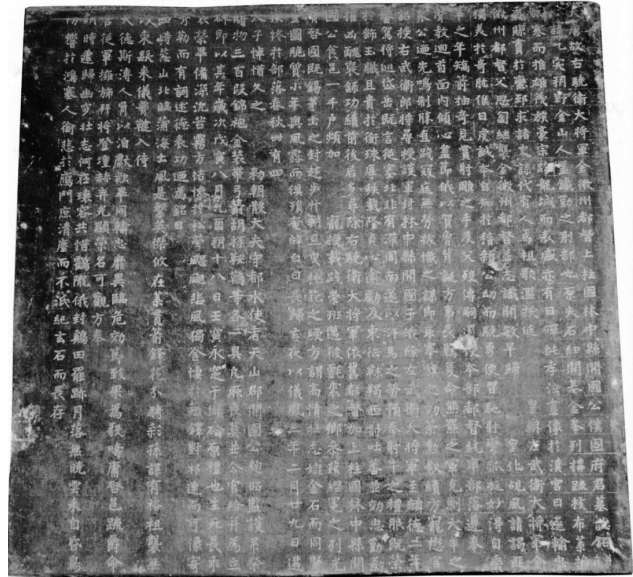


図7 乙突墓墓誌

なる。第2天井の左右に龕がつく。龕内で陶俑、木製品、織物が出土。墓室3・6×3・5m。墓室に連接する天井(第3天井)で墓誌「大唐金微都督僕固府君墓誌」が出土した。

墓誌によると、諡は乙突で金山人。祖は左武衛大將軍

啜拔(子、741年以前〜756年)、僕固懷恩(756〜765、金微州都督)。

僕固乙突は歌濫拔延(右武衛大將軍金微都督)の曾孫、乙李啜拔の子であった(《旧唐書》卷121)。歌濫拔延を祖とする別の家系が知られた。

歌濫拔延・乙突・懷恩等の僕固部は代々金微州都督を受け継いできた。乙突墓の葬地によって、蒙古トウブ県のザアマルの地域に金微州都督府が存在した。

貞観21年(647)、太宗は6府7州を設置し、府に都督、州に刺史、府州の長史、司馬以下の官吏を置いた。僕骨を金微府とした(《旧唐書》卷195迴紇)。墓誌に乙突の祖歌濫拔延は皇朝左武衛大將軍金微州都督とみえる。子孫にあたる僕固懷恩は右驍衛大將軍金微州都督として冊封の地で死亡、埋葬されている。金微は650年に設置された瀚海都護領の一都督である。

墓誌に「祖歌濫拔延、皇朝左武衛大將軍、金微州都督。父思旬、繼襲金微州都督、及父歿、傳嗣還口本部都督。統率部落、遵奉聲教」とあるが、その思旬(乙突の父)は顯慶5年(660)、龍朔2年(662)の討伐によって誅殺された僕固部の首領とみる。思旬は金微州都督の地位にあった。その葬地も本貫の地であったとみると、

金微州都督の歌濫拔延、父の思旬は金微州都督を引き継いだ。乙突は儀鳳3年(678)2月29日に卒し、その年の戊寅(678)に埋葬された。その葬地は墓誌のとおり、西に峙葱山、北は蒲海に面するところである。

大唐故右驍衛大將軍、金微都督、上柱国、林中縣開國公僕固府君墓誌銘并序

公諱乙突、朔野金山人。蓋鐵勤之別部也(《僕固乙突墓誌》)。僕固懷恩、鉄勒部落僕骨歌濫拔延之曾孫、語訛謂之僕固。貞観二十年、鉄勒九姓大首領率其部落來降、分置瀚海、燕然、金微、幽陵等九都督府於夏州、別為蕃州以禦邊授歌濫拔延為右武衛大將軍、金微都督。拔延生乙李啜拔、生懷恩、世襲都督(《旧唐書》卷121列伝第71)。

僕固部世系が乙突墓誌をもとに復元された。

一世歌濫拔延(647〜?、右武衛大將軍金微州都督)―二世思旬(子、?〜657、金微州都督)―三世乙突(子、635〜678、右驍衛大將軍金微州都督上柱国林中県開國公)―四世佚名(子、?〜686、金微州都督)―五世設支(弟?、金微州都督)―六世曳勒歌(子、?〜720以前、充大武軍右軍討擊大使金微州都督)―七世勺磨(弟、?〜741以前、金微州都督)―八世乙李

乙突墓と同じザアマルに位置した。乙突は龍朔2年(662)以降に都督を継承したことになる。

顯慶4年(659)鉄勒の思結反す。翌年の5年(660)に唐の鄭仁泰は思結・拔也固・僕骨・同羅四部を討ち、その首領を斬る。龍朔元年(661)、回紇・同羅・僕固、邊を犯した。龍朔2年、鄭仁泰が鉄勒を天山で破り、契苾何力が鉄勒諸部を安撫して偽葉護・設・特勤等を誅した。龍朔3年正月に鉄勒は平定された。

またオラーン・ヘレム墓の造営年代は乙突墓以前と推定されるので、オラーン・ヘレム一帯が金微州都督の管轄地であったことになる。

唐昭陵十四国蕃君長と突厥可汗・新羅王

突厥国家の発展段階は、護雅夫によると3時期に区分される。

I 突厥第1可汗国期(552〜630)

II 唐の羈縻支配期(630〜679)

III 東突厥第2可汗国期(682〜744)

貞観4年(630)、唐の李靖の征討軍によって頡利が降服し、突厥第一帝国は瓦解した。薛延陀の真珠毗伽可汗が唐の冊立をうけ、羈縻支配下にはいった。このこ



図8 昭陵十四国蕃君長（『大唐皇帝陵』）

CHEONGHAK

この十四国蕃君長の14人のうち唐の將軍、大將軍に任じられたのは8人、ほかの6人は本国王号、可汗号である。長安に入朝しないもの4人である。頡利可汗は長安で卒し、突利は長安への道中で歿した。麴智盛と阿羅那順の死亡地と葬地は不明である。思摩と杜爾は昭陵に陪葬された。

頡利可汗 左衛大將軍阿史那咄苾である。貞觀4年（630）、唐の李勣の軍は突厥の頡利可汗を攻め、捕らえ、長安までおくった。降服した頡利は右衛大將軍に任命された。貞觀8年（634）に死亡する。固有の礼式に従って濁水（渭水の支流）の東で火葬された。帰義王の号が贈られ、荒の諡が賜った。葬地は不明である。

突厥突利可汗阿史那什鉢苾 貞觀4年（630）に右衛大將軍号が授けられた。北平郡王に封じ、7百戸の食邑を与えられた。配下の兵士、領民のところに順州、祐州などの州を置き、領民をひきいて本国に帰らせた。太宗は貞觀5年（631）、突利をよびよせて入朝させたが、并州道（太原付近）まで来て病気になるまで死んだ。29歳であった。太宗はかれのために葬式をおこない、中書侍郎の岑文本に命じて、その碑の銘文をつくらせた（『旧唐書』突厥伝）。貞觀5年（631）に「右衛大將軍順

ろ太宗は諸蕃の君長から「天河汗」と尊称された。突厥尽為封疆之民。於分置单于、瀚海二都護府。单于都護領狼山雲中桑乾三都督、蘇農等一十四州、瀚海都護領瀚海金微新黎等七都督、仙萐賀蘭等八州、各以其首領為都督、刺史（『旧唐書』卷194上）。オラン・ヘレム墓の年代はこの羈縻支配期にあたる。羈縻支配関係において、臣たる諸国・諸族の首長が死亡すれば、必ず詔してその後嗣を冊立する権利と義務を保有したという。

昭陵は貞觀10年（637）に寿陵としての营造が始まり、貞觀23年（650）に太宗が埋葬された。永徽元年（650）に「十四国蕃君長」の石像物が立てられた。その記録どおり昭陵北司馬門跡の調査によって石像座とともに石像本体が見つかった。十四国蕃君長のなかで鉄勒・突厥族が5人であり、太宗・高宗代の唐と突厥などとの政治的關係がわかる。

オラン・ヘレム墓の被葬者問題を検討するため、昭陵の十四国蕃君長石像の突厥人の身分や葬地などについて検討する。

『唐会要』巻20によると、「上欲闡揚先帝徽烈乃令匠人琢石寫諸蕃君長貞觀中擒伏歸化者形狀而刻其官名…十四

人列于陵司馬北門内九峻山之陰以武功乃又刻石為常所乘破敵馬六匹于闕下也」とみえる。

突厥頡利可汗・右（左）衛大將軍阿史那出（咄）苾（634年、洛陽濁水の東に埋葬）⑧

突厥頡（突）利可汗・右衛大將軍阿史那什鉢苾（631年、葬地不明）⑨

突厥乙彌泥孰侯利苾可汗・右武衛大將軍阿史那李思摩（647年、昭陵陪葬）⑩

突厥都（答）布可汗・右衛大將軍阿史那杜爾（655年、昭陵陪葬）⑪

薛延陀真珠毘伽可汗（645年、葬地不明）⑫

吐蕃贊普⑬

新羅樂浪郡王金貞（真）德（654年、慶州金京・沙梁部）⑭

吐谷渾河源郡王烏地也拔勒豆可汗慕容諾曷鉢⑮

龜茲王訶黎布失畢⑯

于闐王伏闐信⑰

焉耆王龍突騎支⑱

高昌王・左武衛將軍麴智盛⑲

林邑王范頭黎⑳

帝那伏帝國王阿羅那順㉑

州都督北平郡王阿史那什鉢苾卒」とみえる(『旧唐書』本紀第三太宗下)。

突厥乙沱泥孰候利苾可汗阿史那思摩墓(647) 右武衛大將軍で、記録のとおり昭陵陪葬墓域で発掘された。墓誌によると貞観21年(647)に埋葬された。思摩は都で没している。太宗は兵部尚書・夏州都督の号を追贈し、昭陵に陪葬させ(「思摩の出身地の」)白道山をかたどつた墳土をぎずかせ、さらに命じて、かれのために化州に碑を立てさせたという。太宗は、突厥を黄河以北に移し、右武候大將軍化州都督懷化郡王の(「阿史那」)思摩を立てて乙弥泥孰候利苾可汗とし、李の姓を賜い、所領をひきいて、その本営を黄河の北に置かせることにしたという(『旧唐書』突厥伝)。

薛延陀真珠毗伽可汗(夷男) 貞観4年(630)に唐が頡利可汗を平定したあと、夷男は東方の故郷へ帰り、宮廷を都尉健山の北、独邏河の南岸の地に置いた。京師の北三千三百里のところにあり、東は室韋に、西は金山に、南は突厥にそれぞれ達し、北は瀚海(バイカル湖)に臨む地点で、すなわち古代の匈奴の故地である(『旧唐書』鉄勒伝)。貞観3年(629)、唐は突厥を討伐し、夷男を真珠毗伽可汗とした。その後反旗をひるがえし、

唐乾陵六十一蕃臣像と僕固乙突

乾陵の蕃君長石人像に「故左威衛大將軍兼金微都督僕固乙突」の銘がのこる。僕固乙突の功績は「及東征靺鞨、西討吐蕃、並效忠勤、承罹凶勳」とある。東は高句麗(666年)、西は吐蕃の征伐に参戦した。

乾陵蕃君長石像のなかに、「吐火□□□□□督阿史那忠節」と、阿史那氏の名がみえる。『旧唐書』卷221下に「顕慶中、以其緩城為月氏都督府、折小城為二十四州、授王阿史那都督」であろう。阿史那忠(675)は昭陵には陪葬されている。昭陵の十四蕃君長から乾陵の六十一蕃臣像への唐の蛮夷、天下観が象徴されている。

オラン・ヘレム墓と僕固乙突墓の被葬者

唐墓において墳丘・墓室・墓道の規模とともに、天井・過洞の数は身分制を関連する。龕には陶俑が置かれ、鹵簿制と関係がある。龕の数は鹵簿に比例する。

天井・過洞の数は墓道の規模と関係がある。7世紀中葉から7世紀末葉、8世紀初葉に4〜7天井・過洞の長大な墓室が発達する。8世紀中葉には衰退する。

突厥僕固乙突墓は右驍衛大將軍金微州都督、オラン・ヘレム墓は右驍衛大將軍の阿史那忠墓と同等か、下位の

貞観5年(631)、李勣(徐懋功)の攻撃に降服した。貞観19年(645)に夷男はにわか他界したので、太宗はこれに対し喪を發した。夷男の少子の肆葉護拔灼は兄の突利失可汗を襲い殺し、みづから即位した。これが頡利俱利薛沙多弥可汗である。灼は廻紇に殺され、かれの一族はほとんど全滅し、その残余の部衆5万、6万人は西域に逃げこんだ。また鉄勒諸姓の俟斤たちはたがい攻撃しあい、おのおのは唐に使者を派遣して帰順した。夷男の葬地はわからない。昭陵北司馬門には石像が立てられた。1982年に「薛延陀真珠毗伽可汗」の石像座が発見された。

突厥答布可汗(阿史那杜爾) 貞観21年(647)に崑丘道行軍大總管となり、龜茲を征服、22年に西突厥の処密を破る。太宗が崩御したとき、殉葬を請うが、高宗は許可しなかった。永徽6年(655)卒し、輔国大將軍・并州都督に贈補される。昭陵に陪葬される。冢を葱山の象に象り、碑を立てた(『旧唐書』列伝第59)。「突厥答布可汗右衛大將軍阿史那杜爾」銘の石像座が出土している。突厥族の阿史那什鉢苾と薛延陀真珠毗伽可汗の葬地は不明である。突厥の地に埋葬した可能性はある。

身分であろう。僕固乙突墓の等級は下位とみられる。

礼泉長樂公主李麗質墓(太宗第5女) (643) 墓室全長48m、4天井4過洞・2对龕(第3・4天井)

礼泉新城長公主墓(太宗第21女) (663) 全長約50m、5天井5過洞・4对龕(第2〜4天井)

礼泉鄭仁泰墓(右衛大將軍・正三品、同安郡公・正一品) 全長53m、5天井5過洞・5对龕(第1〜5天井)

咸陽蘇定方墓(左驍騎大將軍邢国王) (667) 全長73m、7天井7過洞・2对龕(第3・5天井)

礼泉李勣墓(英国公、太子大師) (669) 4天井4過洞・1对龕(第2天井)

礼泉阿史那忠墓(右驍衛大將軍薛国公・従一品) (675) 全長55m、5天井5過洞・1对龕(第4天井)

モンゴル突厥オラン・ヘレム墓 全長約46m、4天井4過洞・1对龕(第4天井)

モンゴル突厥僕固乙突墓(右驍衛大將軍金微州都督上柱国開国公) (678) 全長約25m、3天井3過洞・1对龕(第2天井)

礼泉安元寿墓（右威衛將軍、贈代州刺史・從三品）
（684）約60m、5天井5過洞・2对龕（第4・5天井）

西安独孤思貞墓（698）約31m、5天井5過洞・

1对龕（第4天井）朝議大夫行乾陵令上護軍

乾泉永泰公主李仙惠墓（中宗第7女）（706）全

長88m、7天井6過洞・4对龕（第1〜4天井）

乾泉懿德太子李重潤墓（中宗長子）（706）全長

101m、7天井6過洞・4对龕（第1〜4天井）

乾泉章懷太子李賢墓（高宗・武則天次子）（706）

全長71m、4天井4過洞・3对龕（第1〜3天井）

蒲城高力士墓（玄宗内侍監・正三品）（706）3

天井3過洞・4对龕（第1〜4天井）

洛陽唐氏墓（安国相王孺人）（706）全長35m、

3天井3過洞1暗過洞・2对龕（第2・3過洞）

富平節愍太子李重俊墓（中宗第3子）（710）3

（5）天井3（5）過洞・2对龕（第1・2天井）

山西省万榮薛徽墓（睿宗婿、青祿大夫駙馬都尉・上

柱国汾陽郡開国公、殿中少監太僕少卿太常少卿岐

州刺史、兗州都督追認）（720）全長47m、

5天井6過洞・3对龕（3・5・7過洞）

架に吹き流しの旗旌がつく。鋒先は戟でなく、矛や槍である。架と旗旌付きの武器である。

これまで唐代の列戟は李寿墓で7竿1対14竿（左武衛大將軍、淮安王、贈司空）、段簡璧6竿1対12竿、李氏定襄県主は6竿1対12竿、新城長公主墓は6竿1対12竿、阿史那忠墓（右驍衛大將軍薛国王・從一品）（675）は6竿1対12竿、蘇定方墓（左武衛大將軍）は5竿1対10竿、李賢（706）は7竿1対14竿、永泰公主李仙惠墓（中宗7女）は6竿1対12竿、懿德太子李重潤（中宗長子）墓は6竿1対12竿、万泉県主薛氏墓は5竿1対10竿である。

『唐六典』巻4に「太廟太社及諸宮殿門、各二十四戟、東宮及一品以下、諸州門、施戟有差、凡太廟太社及諸宮殿門各二十四戟、東宮諸門施十八戟、正一品十六戟、開府儀同三司嗣王郡王若上柱国柱国帶職事二品以上及京兆河南太原府大都督大護護門十四戟、上柱国柱国帶職事三品以上中都督府上州上都護門十二戟、国公及上護軍帶職事三品若下州門十戟」とある。

時期がくだるが、元和7年（812）、新羅国王（憲徳王）にたいして「戟」が賜与されている。

以新羅大宰相金彦昇爲開府儀同三司、檢校大尉、

蒲城惠庄太子李為墓（741）墓（724）約39m、
3天井3過洞（第1〜3過洞）
蒲城李憲墓（睿宗李炭旦長子、讓皇帝）惠陵（741）（玄宗内侍監・正三品）（706）約64m、
3天井3過洞・4对龕（第1〜3過洞）

金銅三梁冠は円形の金銅帯に3本の骨架が鈺留されている。李勤墓の三梁進徳冠に類似する。それは径20cm、高さ23cm。側面に六花紋の金銅飾金具がつく。冠帽について「三品以上三梁」という規定がある、李勤の冠帽は太尉楊州大都督上柱国英国公の身分と合致する。李勤は總章2年（669）に卒し、翌年に埋葬された。

親王、遠遊三梁冠、金附蟬、犀簪導、自筆。：進賢冠、三品以上三梁、五品以上、両梁、犀簪導。

九品以上一梁、牛角簪導（『旧唐書』巻45）

貞觀8年（634）五月辛未朔、日有蝕之、上初服

翼善冠、貴臣服進徳冠（『旧唐書』巻3）。

オラーン・ヘレム墓の冠は三梁冠で、李勤の位に匹敵する大都督上柱国英国公級のもので、被葬者の身分を示す。李勤・オラーン・ヘレム墓の冠は唐代の冠帽として稀な実物資料である。

墓道の両壁に3竿ずつの「列戟」が描かれている。木

使持節、大都督雞林州諸軍事、雞林州刺史、兼寧

海軍使上柱国、封新羅国王、仍冊彦昇妻貞氏爲妃。

：新除新羅国大宰相金崇斌等三人、宣令本国准例

賜戟（『旧唐書』本紀第15憲宗下）

冊立王爲開府儀同三司檢校太尉持節大都督雞林州諸軍事時節充寧海軍使上柱国新羅王。冊妻貞氏爲妃賜大宰相金崇斌等三人門戟（『三国史記』新羅本紀第10）

墓室構造・壁画図像などの諸要素を比較すると、670年前後の壁画墓と類似する。とくに阿史那忠墓（675）とくらべと、オラーン・ヘレム墓は先行する。

近在するザアマル乙突墓は唐の羈縻支配期（630〜680）の最晩年、第2突厥帝国が形成される直前である。乙突墓とオラーン・ヘレム墓は同一地域に存在する。二つの墓に築造上の時間差があり、オラーン・ヘレム墓が先行し、オラーン・ヘレム墓は660〜70年代に築造されたと推定される。

オラーン・ヘレム墓の墓室は全長46mで斜坡墓道、各4の天井・過洞をそなえた大規模な墓である。新城長公主墓が約50m、鄭仁泰墓が53m、蘇定方墓が73m、阿史那忠墓が55m、安元寿は60m、懿德太子墓は101m、

CHEONGHAK

章懷太子墓が71mで、オラーン・ヘレム墓は全長50m前後の大型墓に属する。

壁画題材は青龍・白虎、儀衛、列戟、門樓、牽馬、畏獸、蓮華、侍女で同時期の唐代壁画と共通する。列戟は阿史那忠墓が東西両壁6竿ずつの計12竿、蘇定方墓は計10竿であった。オラーン・ヘレム墓は計6竿であるが、壁画に列戟を表現しうる身分で大將軍級である。壁画には生前の身分関係が表象される。葬送儀礼は公的なものである。三梁冠や佩劍は李勣墓（司空公太子師贈太尉揚州大都督上柱国英国公）のものに相当する。身分と墓制との関係であるが、オラーン・ヘレム墓は右武衛大將軍（正三品）涼州都督の鄭仁泰（664）、左武衛大將軍の蘇定方（667）、右驍衛大將軍薛国王（従一品）の阿史那忠（675）、右驍衛大將軍金微都督上柱国林中県開国公の乙突（678）、右威衛將軍贈代州刺史（従三品）上柱国の安元寿（683）の墓に匹敵する。

乙突は金山（金微山）人で、鉄勒の別部であった、突厥族であるが、都督として唐の墓制にのっとり、都護府の域内で埋葬された。蕃君長の右武衛大將軍阿史那思（李）思摩や右衛大將軍阿史那杜爾は昭陵に陪葬されている。

この地理的条件をみよう。

ボルガン県とトゥブ県境を流れるオルホン川の東、支流のトーラ川の北約2・5kmに位置する。墓誌に「儀鳳三年二月廿九日遭疾終於部落。春秋卅有四」とあり、金微都督の地と推定されている。

トーラ川沿いの東岸にヘルメン・デンジ城が立地する。北壁328m、東壁538m、西壁534m、南壁450mで、西に接して周長約3kmの外城がある。周辺は山塊でかこまれた盆地が形成されている。金微州都督府の中心地であった。

オラーン・ヘレム墓は僕固乙突墓の南約30km、トーラ川の西岸、南辺に位置する。ボルガン県の東辺にあたる。トーラ川の東岸地域は金微州都督府に比定されるが、トーラ川西岸一帯の地域は金微州都督以外の地であるのか。トーラ川流域に金微州都督府がおかれていたのだろうか。

また安北都護府の治所はホルホン・トーラ川流域に存在した可能性がある。

突厥・鐵勒疎部は、調露元年（679）まで、ほぼ30年のあいだ、羈縻府・州体制によって支配された（護雅夫196）。

『旧唐書』巻3によると貞観20年6月、李勣は薛延陀を鬱督軍山で撃破し、五千余を斬首し、男女3万余人を捕虜としたとある。唐の突厥支配は軍事力を背景に、羈縻支配を断行した。

『旧唐書』巻194上突厥上に《突厥盡為封疆之民、於是置單于、瀚海二都護府。單于都護領狼山雲中桑乾三都督、蘇農等一十四州、瀚海都護領瀚海金微新黎等七都督、仙萼賀蘭等八州、各以其首領為都督、刺史。高宗東封泰山、狼山都督葛邏祿社利等首領三十餘人、並扈從至嶽下、勒名於封禪之碑。自永徽已後、殆三十年、北鄙無事》

『通典』巻132に《大唐永徽中、始於邊方置安東、安西、安南、安北四大都護府、後又加單于北庭都護府。麟德元年、改雲中都護為單于都護》とみえる。

麟德初年（664）に燕然都護府は瀚海都護府に改められ、瀚海都護府は雲中城に移された。太極元年（712）、單于・安西・安北大都護府が置かれた。僕固乙突が金微州都督として没したのは儀鳳3年（678）であった。

ホルホン・トーラ川流域と瀚海都護領瀚海金微州都督（646）、瀚海都護府（664）、安北都護府（712）

オラーン・ヘレム墓の被葬者は乙突墓とおなじ、都督級のものであるか、墓室規模は乙突墓より大きいため、より高位の人物も想定される。オラーン・ヘレム墓は唐の羈縻支配期に築造された。被葬者は唐の羈縻政策によって將軍号が授けられた突厥族であろう。

このオルホン・トーラ川流域は突厥第1可汗国期から唐羈縻支配期をへて東突厥第2可汗国期、ウイグル可汗国期、契丹（遼）の文化が栄えた地域である。そこにオラーン・ヘレム壁画墓・僕固乙突墓が存在する。

唐・突厥・高句麗・新羅・百済の国際関係

真平王46年（624）いらい、善徳王、真徳王は「楽浪郡公新羅王」、文武王は「開府儀同三司新羅王」に封じられている。十四国蕃君長のなかで、新羅にたいしては王号と郡王号が複合的に授与された。真徳王3年（649）には唐の衣冠を着用する。同4年（650）に真骨の身分のものは「牙笏」を持つことが規定された。慶州龍江洞古墳の笏を持つ陶俑は唐から將來されたものである。唐の笏の制度をとり入れた。陶俑には胡人像もふくまれる。同時に出土した青銅十二支像もそのころ唐から伝わっている。文武王5年の伊滄文王の死去のさい、

哀悼の意を表し、真骨の公服である紫衣と鈔帯が賜与された。

真平王16年(594) 隋帝詔拜王為上開府樂浪郡公
新羅王(『三國史記』卷4)
真平王46年(624) 唐高祖降使册王為柱国樂浪郡公
公新羅王(『三國史記』卷4)
善德王4年(635) 唐遣使時節册命王為柱国樂浪郡公
郡公新羅王(『三國史記』卷5)
貞觀21年(647) 契苾、廻紇等十餘部落以薛延亡散殆盡、乃相繼歸国。太宗各因其地土、擇其部落、置為州府、以廻紇部為瀚海都督府、僕骨為金微都督府、多覽葛為燕然都督府、拔野古部為幽陵都督府、同羅部為龜林都督府、思結部為盧山都督府、渾部為皋蘭州、：凡一十三州。拜其酋長為都督、刺史、給玄金魚以為符信、又置燕然都護以統之(『旧唐書』卷199下)
真德王元年(647) 唐太宗遣使時節。追贈前王。為光祿大夫。仍册命王為柱国封 樂浪郡王(『三國史記』卷5)
貞觀22年(648) 癸未、斯羅王遣其相伊贊千金春秋及其子文王來朝。是歲、新羅女王金善德死、遣

册立其妹真德為新羅王(『旧唐書』卷3)
真德王3年(649) 始服中朝衣冠(『三國史記』卷5)
真德王4年(650) 下教以真骨在位者執牙笏(『三國史記』卷5)
真德王8年(654) 王薨。諡曰真德。葬沙梁部。唐高宗聞之。為拳哀於永光門。使大常丞張文收持節弔祭之。贈開府儀同三司賜綵段三百(『三國史記』卷5)
武烈王元年(654) 唐遣使持節。備礼册命。為開府儀同三司新羅王。王遣使入唐表謝(『三國史記』卷5)
武烈王7年(660) (蘇) 定方以百濟王及王族臣寮九十三人、百姓一万二千人。自泗泚乘船廻唐。：唐皇帝遣左衛中郎將王文度為熊津都督(『三國史記』卷5)
頭慶5年(660) 辛亥、發神丘道軍伐百濟(『旧唐書』卷4高宗上)
頭慶5年(660) 八月、蘇定方等討平百濟、面縛其王扶餘義慈。國分為五部、郡三十七、城二百、戶七十六萬、以其地分熊津等五都督府。：十一月戊戌

朔、邢國公蘇定方獻百濟王扶餘義慈、太子隆等五十八人俘則天門、責而有之(『旧唐書』卷4高宗上)
其大将彌植又将義慈來降、太子隆并興諸城主皆同送款。百濟悉平、分地為六州。俘義慈及隆、泰等獻于東都(『旧唐書』卷83列伝33蘇定方)
義慈王20年(660) 王及太子孝與諸城皆降。定方以王及王子泰、隆、演及大臣將士八十八人、百姓一万二千八百七人送京師。：析置熊津、馬韓、東明、金漣德安五都督府。各統州縣。擢渠長為都督、刺史、果令、以理之。命郎將劉仁願守都城。又以左衛郎將王文度為熊津都督。撫其余衆。定方以所俘見上。責而有之(『三國史記』卷28)
頭慶6年(661) 春正月乙卯、於河南、河北、淮南六十七州募得四萬四千六百四十六人、往平壤帶方道行營(『旧唐書』卷4)
龍朔元年(661) 夏五月丙申、命左驍衛大將軍、涼國公契苾何力為遼東道大總管、左武衛大將軍、邢國公蘇定方為平壤道大總管、兵部尚書、同中書門下三品、樂安縣公任雅相為湏江道大總管、以伐高麗(『旧唐書』卷4)。
武烈王8年(661) 以阿滄宗貞為都督(『三國史記』

卷5)
文武王2年(662) 唐使臣在館。至是册命王為開府儀同三司上柱国樂浪郡王新羅王(『三國史記』卷6)
龍朔3年(663) 春正月、左武衛大將軍鄭仁泰等元帥帥討鉄勒餘種、盡平之。：改燕然都護府為瀚海都護府、瀚海都護府為雲中都護府(『旧唐書』卷4)
文武王3年(663) 大唐以我国為鷄林大都督府。以王為鷄林州大都督。：唐皇帝詔仁軌檢校帶方州刺史、統前都督王文度之衆我兵(『三國史記』卷6)
麟德元年(664)、改雲中都護府為單于大都護府、官品同大都督符(『旧唐書』卷4)
文武王4年(664) 下教婦人亦服中朝衣裳。：百濟殘衆拋泗泚城叛。熊津都督諸軍事発兵破之(『三國史記』卷6)
文武王5年(665) 伊滄文王卒。以王子礼葬之。唐皇帝遣使來弔。兼進贈紫衣一襲、腰帶一条、彩綾一百匹、綃二百匹。：王興勅使劉仁願熊津都督扶餘隆。盟于熊津就利山(『三國史記』卷6)
總章2年(669)、改瀚海都護府為安北都護府(『旧唐書』卷5)
7世紀は東アジア諸国間における戦争の世紀であった。

隋唐・高句麗戦争、唐・百濟戦争、唐・新羅と百濟・倭（日本）の白村江戦争をへて、隋・百濟・高句麗の滅亡、統一新羅が成立した。

突厥は第1可汗国期から唐の羈縻支配期、東突厥第2可汗国期から滅亡し、廻紇国が成立した。

唐の対突厥の都督制にもとづく機微支配は対百濟の支配方式であった。

唐は660年、滅亡した百濟の地に熊津都護府を置いた。十四国蕃君長など周辺諸国にたいする羈縻支配の時代である。また唐は663年に鶏林大都督府を置く。文武王は鶏林州大都督に任じられる。白村江戦争の勝利国の新羅に都督府が設置された。真平王代以来の羈縻政策から都督体制に支配方式がかわったのであった。

唐の高句麗侵攻に任じられた左驍衛大將軍・涼國公契苾何力の出自は突厥族であった。夷を以て夷を制するという唐の支配方式が貫徹された。

660年、百濟の義慈王とともに唐に帰順した禰氏一族も同様である。禰素士（M13）（708）は唐雲鷹將軍左武衛將軍上柱国来連郡開國公、禰仁秀（M23）（750）は禰素士の長子で鏡州金門府折冲である。禰寔進（M15）（672）は禰素士の父で唐左威衛大將軍来連郡

開國子柱国公である。禰寔進は禰植と同一人物である。いわば捕虜の身分で大將軍となっている。

隋・唐の高句麗侵攻は魏晉の天下観念、夷狄、蕃夷観念にあいつうずる。

唐の突厥、龜茲、高句麗、百濟戦争に任命され將軍の墓が昭陵陪葬区でみつかつている。英国公李勣墓、左驍衛大將軍蘇定方墓、右衛大將軍鄭仁墓、突厥族の右驍衛大將軍阿思那忠墓、右武衛大將軍阿史那李思摩墓、百濟人左威衛大將軍禰寔進などである。身分と墓制、文献と墓誌との比較をつうじて、歴史上の実在した人物を実感をもつてとらえることができる。金徽州都督の僕固乙突墓もどうようである。

3 キトラ・高松塚古墳壁画画像の系譜

キトラ古墳・高松塚古墳の壁画画像―日月・四神・山岳・天文・人物・獸首人身十二支・持物―に日本と百濟・高句麗・新羅・唐と国際関係が表象されている。

四神画像の系譜

キトラ・高松塚古墳の四神画像の粉本は同じで、キトラや羽に幾何学紋風の唐草紋がほどこされる。後脚と尾の交絡構図も類似する。

青龍・白虎の後足・尾の交絡画像は蘇定方墓（667）壁画などのように7世紀後半ごろに出現する。青龍の首輪紋様、身部の火焰形裝飾紋様首飾や火焰形裝飾も唐様式である。葉師寺本尊台座の青龍、敦煌仏龕廟湾123号墓、乾陵石刻紋など唐代の龍・青龍・鳳凰・白虎・鎮墓獸にえがかれる。後足・尾の交絡画像は慶州芬皇寺の軒平瓦に表現され、唐から新羅に伝わっていた。

四神画像の粉本の流入時期は蘇定方墓（667）の白虎画像からみて、7世紀半ばである。四神画像は7世紀後半いらいの唐様式である。葉師寺金堂本尊台座の四神画像は唐、非唐の様式がある。葉師寺本尊は白鳳仏か、平城京遷都後の天平仏かであるが、四神画像の様式は古い。元葉師寺は新羅系の伽藍配置で、藤原京期の698年に完工している。慶州芬皇寺の軒平瓦の龍（青龍）画像のように、唐の四神画像は新羅に流入していた。

日月・天文・山岳紋の系譜

キトラと高松塚の日月山岳紋は唐昭陵陪葬園の太宗德妃の燕妃墓（671）の画像に似る。同時代の唐の永泰公

ラ古墳が先に築造されている。

玄武は龜蛇対向で、蛇身は龜身に巻きつき、さらに蛇身じたいも巻く。横槽円形の構図である。蛇身と龜身の短径と長径の指数はキトラが67、高松塚が72で、高松塚が円形化している。全体にキトラの画像がより写実的である。敦煌仏龕廟湾121号墓などの画像と類似する。中国壁画の玄武像も7世紀後半代に槽円化・円形化する。玄武の龜蛇対向図は龜身と蛇身がからみあう構図から、龜蛇交絡とともに龜身じたいがからむ構図へ変容する。龜と蛇が龜の甲羅の上でにらみあい、蛇が甲羅にからむものから、蛇が龜にまきつき、蛇体が龜の甲羅の上方で円環をえがくものへ変化した。

キトラ古墳の朱雀の羽は幾何学紋様に变化し、羽尾は渦紋で裝飾される。唐の節愍太子墓（710）の鳳凰紋と類似する。玉虫厨子の鳳凰紋は写実的で、葉師寺本尊台座の朱雀につながる。また新羅の慶州芬皇寺軒平瓦の紋様に共通する。玉虫厨子の鳳凰紋は写実的でキトラより古い。

青龍は尾が左後足にくぐる、尾と足が絡む画像である。白虎画像は高松塚が45・5cm、キトラは45cmとやや胴長で、高松塚の青龍の胴部と似る。キトラの白虎は胴部縁

CHEONGHAK

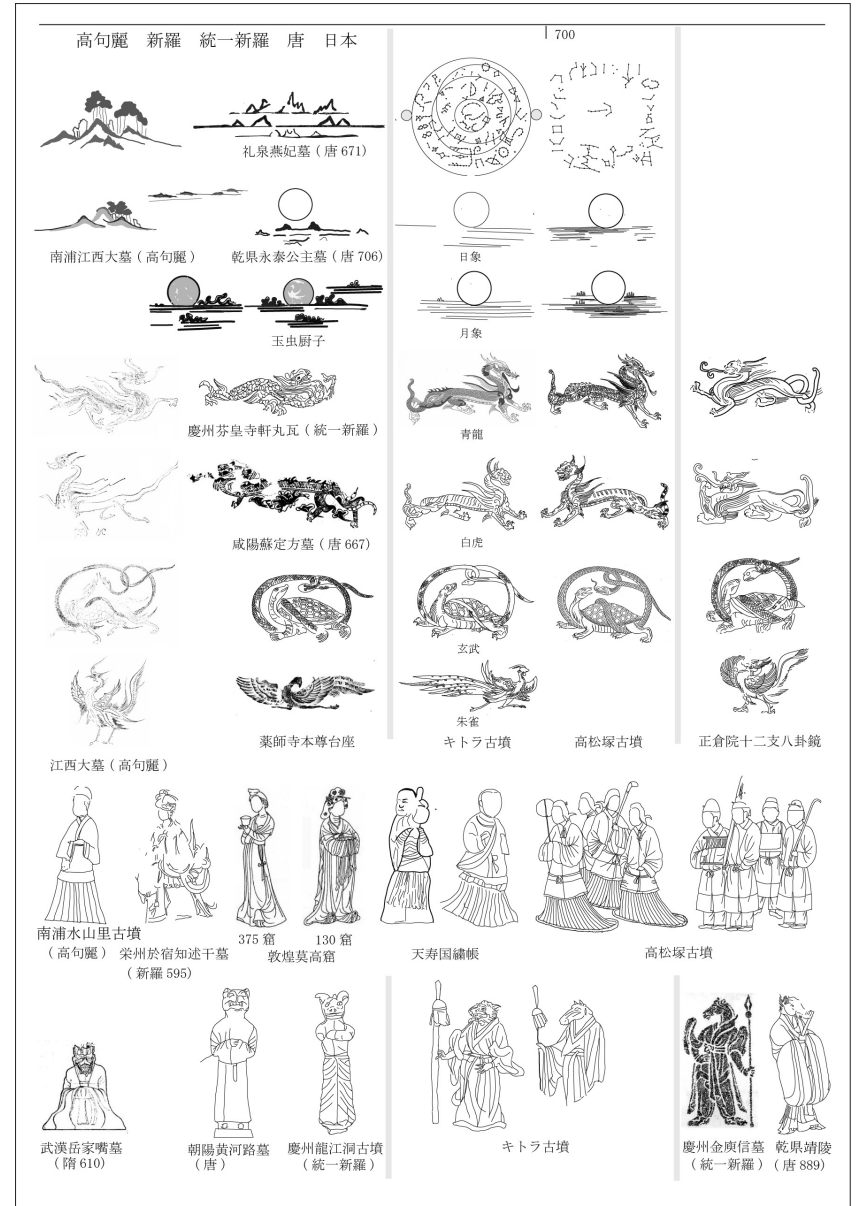


図9 キトラ・高松塚壁画画像の系譜

主墓(706)にも前室の日象の下に3条の横線と三角形状の山形紋が表現されている。
 玉虫厨子の日象に三足鳥、月像に蟾蜍・玉兔がえがかれる。天寿国繡帳の月象は黒色で縁どられ、内におなじ色彩の玉兔と壺と花紋が織られる。月象の右上に円紋と雲状の紋様がある。

高松塚古墳の星宿と日月の方形配置は新疆アスターナ38号墓に類似する。キトラ古墳の天文図は円軌内に表現される「円形星図」である。キトラ壁画の天文図は朝鮮時代の「天象列次分野之図」と類似する。その天文図はもともと高句麗のものといわれる。高句麗では北斗七星や南斗六星などの星座はすでに5世紀初葉の薬水里古墳壁画に表現され、6世紀代に徳花里古墳や真坡里古墳壁画などのような天文図が発達する。天象列次分野之図像もそれらの系統上にある。つまり7世紀の飛鳥時代に高句麗や百濟からそうした天文図が伝来していた。キトラや高松塚の日月山岳紋は唐様式である。その意味で在来の天文図と唐様式の天文図が融合している。

人物群像と持物

高松塚壁画画像は朝賀の儀式や儀仗具・持物にかかわ

CHEONGHAK

る。被葬者に対する威儀の群像である。男子像は屏織きぬがさ)、囊(柳筥)、袋入太刀、毬杖、胡床、「杵」を持つ。女子像は円翳(円羽)、蠅払い、如意を持つ。
 大宝元年(701)正月朔日の朝賀の儀式では「天皇は大極殿に出御して朝賀を受けた。その儀式の様子は正門に鳥形幢を立て、左側には日象・青龍・朱雀の幡、右側には月象・玄武・白虎の幡を立て、蕃夷の国の使者が左右に並んだ」(直木孝次郎他訳注『続日本紀』1)。その鳥形幢については、「文安御即位調度図」の「銅鳥幢」とともに、キトラ壁画の眞像の持つ幢が同時代のものとして参考になる。

上衣は養老3年(719)に右襟に定められた。高松塚壁画の男子は左衽(さじん)、円襟の長袍に白色の袴・裳を着用している。脛裳(はばき)・褶(ひだり)は、天武11年(682)3月に着用が停められ、天武13年閏4月には括緒褌を着ることとされ、朱鳥元年(686)7月再び垂髪とともに脛裳は旧に復した。持統4年(690)の朝服改正では白袴とされ、大宝元年(701)3月に直冠以上に白縛口袴、勳冠以下は白脛裳と定められ、慶雲3年(706)12月に至つてすべて脛裳を廃し、白袴とされた。唐代の女子の服装は上衣に衫、半臂、下衣に裙、帔を

着用する。新羅の服飾は高句麗、百濟とほぼ同じであった。高松塚女子服装は新羅の於宿知述干墓（595）の人物像に類似する。百年前の服装である。法興王7年（520）の「百官公服」の服装でもあった。眞徳王3年（649）に初めて「中朝衣冠」を服した。新羅では元旦の朝賀の儀式において、日月神が拝されていた。日象・月象をあらわす旗のようなものがあつたのであろう。四神思想にもかかわる。

高松塚古墳壁画の人物は威儀具をもつが、キトラ古墳の十二支像は楯（弓）と幢を持つ。鈎鑲は鹵簿を先導する人物、方相氏の持物だ。懿徳太子墓の弓袋は文安御即位調度図（『群書類従』）のそれに類似する。キトラ十二支像持物の幢・弓（盾）は、朝賀の儀式の持物に共通する。人物群像とその持物は唐代の官職と関係がある。

李憲は睿宗長子で、玄宗の開元29年（741）に薨じ、讓皇帝恵陵に追諡された。翌年に皇帝陵に準じて埋葬された。全長59mで、墓室・甬道・過洞・天井・墓道からなる。墓室内玄武と朱雀、楽奏、歌舞、星座、雲紋、甬道から墓道に人物、城楼、青龍・白虎、飛人、出行図がえがかれる。壁画内容は墓道の城楼を境に北に文武官、出行儀杖、南に内廷を描く。皇帝内官六尚局の司・典、

の襟。袖口は朱色。眞像と同じ衣服で、幢を持つのであろう。亥像は子像と同じかたちという。

後（北）壁の戌・子・丑像は弓を持ち、東壁の寅は幢を持つ。前（南）壁の午像も幢である。後壁の3体が弓、その他は幢を持つ。右手で持ち、左手には刀剣類など何も持たない。この幢の先端部はやり先で、幢の形態は懿徳太子墓（706）の列戟に類似する。

キトラ古墳の壁画は方位の四神と時の十二支、日月、星宿図で構成されている。その獸首十二支像は唐よりも新羅の影響による。同時期の唐墓の陶俑・墓誌の獸首人身十二支像のごとくは基本的にならざる筈を持つ。龍江洞古墳の青銅十二支像は武人俑でないが、皇福寺東方墓の十二支像は武人である。キトラの十二支像は武器・旗・戟を持つ。唐の影響であれば、持笏の十二支像であった可能性がある。日本では養老3年に笏の制度がさだめられている。

古代中国において、四神・十二支思想は漢代に存在する。獸形の十二支像にくわえ、獸首人身十二支像が出現するのは隋代であった。湖南省湘陰の隋大業6年墓（610）などいづれも座像である。7世紀末葉から8世紀初葉に、遼寧省朝陽黄河路墓のように立像に変化する。

仕女、内侍省の内侍・内常侍（宦官）の人物が配されている。如意（尚服局）、团扇（尚寝局）など皇帝内官、内官官署機構を表現している。同時代の代宗李豫、元陵の葬儀を想起させる。

高松塚の人物図像は704年に帰国した遣唐使によって将来されたものであろう。その被葬者は刑部（忍壁）親王（705年）と推定されているとおりである。

獸首人身十二支像

キトラの古墳壁画十二支像のうち、子・丑・寅・午・戌・亥の6体の痕跡が確認されている。

子像は朱色の襟の襦に長袍を着る。裾に朱色の縁取りがのこる。右手に身長とほぼ同じ長さの弓のような物を持つ。

丑像も右衽の長袍を着る。袖も朱色の縁どりが下衣の朱色の襦であろうか。朱色の2条にみえる弓状品を持つ。外側の縁辺は山形曲線。端部の下側に垂飾がある。

寅像は朱色のV字形の合わせ襟の襦に、長袍をまとう。袍は左衽。裾に朱色の襪を施す。右手に幢を持つ。鋒先は圭頭、剣形である。

午像は朱色の袍。右手に幢を持つ。戌像はV字の朱色

陝西省高力士墓（762）や靖陵のように壁画として表現されている。

慶州龍江洞古墳の青銅製十二支像（俑）は袴と袍が表現されている。伴出した唐製の男子陶俑は撲頭で袴をはき、襦と円領襦を重ね着る。笏を持つ者がある。

慶州皇福寺跡東方に破壊された墳墓があり、石造十二支像と基壇石が残存する。巳像は短衣（襦）に右衽の広袖袍を着て、下衣は袴を着ける。右手に武器、左手に柄付き円形状のものを持つ。下衣の袴は龍江洞古墳の青銅十二支像のものと似る。「狼山東」に埋葬された神文王在位681〜692年）陵と推定されている。その後、伝金庾信墓など武人像の護石十二支像が発達する。

十二支像の表現空間は、龍江洞古墳のように墓室内の俑から、墓室外の墳丘護石にうつった。四神図と十二支像の表現空間は、墓室（四神）↓墓室内四神・墓室内墓誌（四神）↓墓室内墓誌（四神・十二支）と変遷する。キトラ古墳は墓室内で四神と十二支像が共存する段階のものだ。

キトラ・高松塚壁画図像の伝播

6世紀末から7世紀前半、飛鳥時代の日本列島には、

高句麗として百済から造寺・造仏、天文学、土木技術などが伝えられた。

四神思想とともに天文学も伝わり、天象列次分野之図のような天文図も高句麗から将来されていた。

推古10年(602)に百済僧の観勒が来朝して、曆本、天文地理書、遁甲方術の書をもたらした。このころ、百済から倭に仏教も伝来した。法隆寺若草伽藍出土の壁画片は益山弥勒寺など百済の寺院壁画の影響がみられる。

新羅では、孝昭王元年(692)に高僧の道證が唐から帰り、天文図を献上した。

江西大墓や中墓の四神、日月・山岳紋などの図像は飛鳥時代の法隆寺・玉虫厨子、中宮寺の天寿国繡帳などの図像につながる。

キトラ・高松塚古墳の四神図像は高句麗や百済とおなじように墓室の四壁にえがかれる。同時期の唐壁画墓では墓道の入り口に辟邪として、青龍・白虎のみが表現されるようになる。墓室内に四神を描く風習はもともと高句麗・百済の影響による。

斉明10年(671)3月に、黄書造(連)本実が水ばかりを献上し、その4月に漏剋が設置されたとみえる。その本実は、遣唐使に随行し、天智10年に帰国した。葉

に「新羅葉浪郡王真徳」銘石像がある。真徳王は即位した真徳王元年(647)に葉浪郡王に封じられた。同3年(649)に唐の朝服(衣冠)を採用し、同4年(650)に官(真骨)の持物として笏を採用し、唐の永徽年号を導入した。さらに文武王4年(664)には婦人に中国の衣装を着ることが命じられている。

新羅と唐の連合軍は百済と倭との戦争(白村江)に勝利し、668年、百済・高句麗の地を新羅が統一した。戦勝国の唐と新羅は政治的利害関係を持ちながら、国際関係を結んでいった。倭(日本)の国際関係は遣唐使から遣新羅使に移行していった。

高松塚古墳壁画は渤海貞孝公主墓(792)の衣服や威儀具と類似する。日本・渤海・新羅・唐の文化、国際関係が壁画に表象されている。

突厥オラン・ヘレム墓壁画はキトラ・高松塚古墳壁画と同時期のものである。

唐と高句麗・百済・新羅・日本との関係は同時に突厥、高昌、吐蕃諸国との関係でもあった。

師寺の仏足石の図がもたらされた。また大宝2年(702)の持統喪儀の作殯宮司、慶雲4年(707)の文武の殯宮に供奉し、葬儀の御装司として、葬儀の威儀を司っていたという。こうした職能からみて、黄文連本実らの遣唐使によって粉本が将来した。670年前後に流行していた壁画構成や画風・画法が将来され、四神図像の粉本も入手していた可能性が大きい。

遣唐使から遣新羅使へ

キトラ古墳の獣首人身十二支像は日本・新羅・唐という国際環境をうきぼりにする。7世紀末から8世紀にかけて、「白村江の戦い」の敗戦をへて、669年に遣唐使がとどえるが、702年に再開されるまでの30年間、遣新羅使など新羅との通交は活発化した。藤原京内の元薬師寺(686年?)、大官大寺などの新羅系寺院の双塔式伽藍、飛鳥苑池と慶州雁鴨池、藤原京の造宮と新羅王京、勢多橋と慶州月精橋の橋脚構造にみられる建築・土木技術、新羅土器の分布と新羅系渡来人、正倉院文物のなかの新羅系文物など、新羅との国際関係が緊密であった。

唐の皇帝、太宗昭陵の北司馬門の「十四国蕃君長石像」

【参考文献】(年代順)

- 藤島亥治郎1930「朝鮮建築史論其1・其2」『建築雑誌』44-530・531
- 護雅夫1967『古代トルコ民族史研究I』山川出版社
- 尹武炳1972『역사도시경주의 보존에 관한』과학적 보존에 관한 연(1)』科学技術処
- 岸俊男1972「文献史料と高松塚壁画古墳」『壁画古墳高松塚』鄭良諱・姜友邦1974「新築慶州博物館新羅時代遺構第1次調査」『博物館新聞』43
- 和田萃1976「東アジアの古代都城と葬地」『古代国家の形成と展開』吉川弘文館
- 齋藤忠1978「慶州城東洞遺跡再考」新羅都京内の宮城的性格をもつ遺跡とする考えについて」『古代東アジア史論集』上巻、吉川弘文館
- 佐藤興治1983「新羅の都城制」『文化財論叢』同朋舎
- 文化財研究所1984『皇龍寺遺蹟発掘調査報告書』I、文化財管理局
- 井上和人1984「古代都城制地割再考」藤原京・平城京を中心として」『奈良国立文化財研究所研究論集』VII、奈良国立文化財研究所
- 孫暹1984「昭陵十四国君長石像考」『文博』1984-2朴方龍1985「都城・城址」『韓国史論』5、国史編纂委員会
- 尹武炳1987「新羅王京の坊制」『斗溪李丙憲博士90周年韓国史学論叢』知識産業社
- 岸俊男1988『日本古代宮都の研究』岩波書店
- 東潮・田中俊明1988『韓国の古代遺跡—新羅(慶州)篇』中央公論社
- 趙由典・南時鎮1990『月城塚字発掘調査報告書I』国立慶州文化財研究所

田中俊明 1992 「新羅における王京の成立」『朝鮮史研究会論文集』30、緑蔭書房

国立慶州文化財研究所 1992 「東川洞土地区画整理第6地区取捨調査」『慶州文化財研究所年報 1991』

国立慶州文化財研究所 1996 『王京地区内各ノ冢埋設地発掘調査報告書』『学術研究叢書』16、国立慶州文化財研究所

国立慶州文化財研究所 1996 『財貫井址発掘調査報告書』『学術研究叢書』14、国立慶州文化財研究所

小澤毅 1997 「古代都市『藤原京』の成立」『考古学研究』175

国立慶州文化財研究所 1998 『慶州西部洞19番地内遺蹟発掘調査』『慶州文化財研究所年報 1997』

東潮 1999 「新羅金京の坊里制」『条里制・古代都市研究』15、条里制・古代都市研究会

嶺南埋蔵文化財研究院 2001 『慶州龍江河苑池遺蹟』『嶺南文化財研究院学術調査報告』30

申泰雁 2001 「唐代列戟制探析」『唐墓壁画研究文集』3 秦出版社

宮島一彦 2001 「キトラ古墳天井天文図」『季刊明日香風』80

金子修一 2001 『隋唐の国際秩序と東アジア』名著出版社、東国大学校慶州캠퍼스博物館 2002 『慶州皇南洞 376 統一新羅時代遺蹟』『東国大学校慶州キャンパス博物館研究叢書』13、『東国大学校慶州캠퍼스博物館調査報告』191

陝西省考古研究所 2005 『唐李憲墓発掘報告』

昭陵博物館 2006 「2002年度唐昭陵北司馬門遺址発掘簡報」『考古与文物』2006-6

張建林・王小蒙 2006 「对唐昭陵北司馬門遺址考古新発現的幾点認識」『考古与文物』2006-6

井上和人 2008 『日本古代都城制の研究―藤原京・平城京の史的意義』吉川弘文館

東潮 2009 『高句麗壁画と東アジア』学生社

韓国文化財保護財団 2010 『慶州北門路王京遺蹟Ⅲ』『学術調査報告』224

奈良県立橿原考古学研究所 2010 『大唐皇帝陵』『奈良県立橿原考古学研究所附属博物館特別図録』73

東潮 2012 『邪馬台国の考古学』角川学芸出版

楊富学 2012 「唐代回鶻僕固部世系考―以蒙古国新出僕固氏墓誌銘为中心」『高台魏晋墓与河西歴史文化研究』甘肃教育出版社

A・OЧИР・Д・ЭРДЭНЭБОЛД・ЭРТНИЙН
 ХУДЭЛЧИЙН БУУНХАНТ БУЛШНЫМАЛТ
 ЛАГАСУДАЛГАА-УЛААНБААТАР 2013

金子修一 主編 2013 『大唐元陵儀注新釈』汲古書院

東潮 2013 「キトラ古墳」『季刊明日香風』

石見清裕 2014 「羈縻支配期の唐と鉄勒僕固部―新出〈僕固乙突墓誌〉からみて―」『東方学』127

楊富学 2014 「蒙古国新出土僕固墓誌研究」『文物』2014-5

馮恩学 2014 「蒙古国出土金微州都督僕固墓誌考研」『文物』2014-5

在日コリアンの社会経済的状況の動態

——職業の変遷を中心に——

徳島大学総合科学部准教授
樋口直人

1 在日外国人の職業ニッチ——問題の所在

在日外国人の社会生活の基礎には職業生活があり、それが社会的地位を規定し、社会活動や民族学校、政治参加の基盤となる。また、親の職業と子どもの教育には密接な関連があり、その点でも仕事の研究は重要な意味を持つ。しかしながら、日本の移民研究は在日外国人の職業という領域について、相対的に手薄な蓄積しかしてこなかった。日本の場合、研究者が無作為抽出にもとづく調査を実施するのが難しく、公的機関が実施したデータの二次利用も制限されているため、研究しにくい環境にあったことは間違いない。とはいえ、質的な研究も含め

て職業の領域が軽視されてきたことは否定できず、基本的な状況の正確な理解が進まない事態があった。米国では、人種・エスニシティが職業階層の説明にとって重要な要素とされるようになったが (Blau and Duncan 1967)、日本でそうした認識が進んでいないとはいえない。現実には、在日外国人には集団ごとに職業ニッチがあり、集団ごとに分岐もみられる。しかも、こうしたニッチは時系列的に変化しており、ニューカマーのエスニック・ビジネスへの進出ひとつとってもかなりの差がある (樋口、二〇一三)。これは、ポルテスがかつて述べた移民の包摂様式の議論が適用できる状況であり (Portes 1995)、職業を通して各集団がどのように包摂されているのかを比較できる。

本稿では、在日外国人のうち韓国・朝鮮籍に限定し、その職業ニッチの時系列的变化を予備的に分析する。ここでいう韓国・朝鮮籍とは明示的には在日コリアンを指しており、在日コリアンの職業については一定の研究がなされてきた^{*}。だが、こうした研究は基本的に一時点での状況を扱うもので、時系列的な変化は一部の例外 (韓、二〇一〇) を除いて分析されてこなかった。

在日コリアンの職業に関する基本的な構図として職業差別があり、やむを得ざる適応としてのエスニック・ビジネスがあった。近年では、エスニック・ビジネスを積極的に評価する研究が増えてきたが、一方で日立就職差別裁判や指紋押捺拒否運動以降の就職差別の緩和がいわれている。これはエスニック・ビジネスから一般労働市場への進出を示唆しているが、現実にはどの程度の変化があったのか。あるいは、エスニック・ビジネスは糊口^{こくち}をしのぐ差別の所産なのか、マルハン、平和中島、ロッテ、ソフトバンクといった大企業を生み出す上昇移動を可能にするものなのか。

こうした問いに答えるに際して、現時点でもっとも信頼^{ほうかつ}でき包括的なデータは、国勢調査結果である。二〇〇九年の統計法改正により、学術目的による国勢調査デー

タの二次利用が可能になった。ただし、二次利用に際してオーダーメイド集計を委託すると、かなり高額の手数料がかかる。助成金はすべてこの集計のために使われており、以下では集計データをもとに在日コリアンの職業の変化をあとづけしていく。

2 理論的背景——民族経済化、経済的同化、分極化

在日コリアンの職業の変化をみるに際して、民族経済化、同化、分極化という三つの方向性を設定したい。在日コリアンは独立自営が多いこと、就職差別が緩和された (といわれている) こと、民族経済離れが進んでいるという言説に対応した類型である。

(1) 民族経済化^{*}

多民族社会の労働市場は、エスニシティによって分断されているのが通例である (Bonachich 1972; Hechler 1999)。職をめぐる競争は、エスニシティと無関係に生じるのではない。求職の過程でエスニックな絆が活用された結果、特定のエスニック集団が特定の職に集中する事態が生じる。そのなかでも自営業に進出する集団に注

CHEONGHAK

表1 2005年国勢調査にみる在日外国人の仕事

	日本		韓国・朝鮮		中国		フィリピン		タイ		ブラジル		ペルー		
	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	
専門	自然科学系研究者	138,960	23	540	24	1,590	87	10	2	50	46	20	1	0	0
	システムエンジニア	732,690	121	2,580	115	6,210	339	150	24	60	55	30	2	10	4
	医師	249,070	41	1,360	60	410	22	0	0	10	9	10	1	0	0
	歯科医師	90,130	15	630	28	110	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬剤師	179,850	30	610	27	150	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	看護師	1,104,920	182	1,590	71	120	7	10	2	0	0	0	0	0	0
	マッサージ・鍼灸	106,420	18	830	37	430	23	20	3	70	64	270	19	10	4
	大学教員	163,140	27	1,310	58	2,010	110	10	2	20	18	10	1	10	4
	音楽家（個人教授除）	22,450	4	160	7	230	13	2,220	350	0	0	0	0	50	22
	俳優、舞踊家、演芸家	53,500	9	350	16	460	25	2,560	403	20	18	30	2	0	0
個人教師（他に分類されないもの）	123,820	20	740	33	620	34	460	72	30	27	180	13	20	9	
販売	小売店主	648,880	107	2,340	104	380	21	90	14	20	18	140	10	30	13
	卸売店主	99,590	16	700	31	210	11	10	2	10	9	10	1	10	4
	飲食店主	245,210	40	5,910	262	1,280	70	720	113	240	220	50	4	30	13
	販売店員	3,437,920	566	10,690	475	4,910	268	1,120	176	270	247	1,090	77	160	71
	再生資源卸売・回収	31,510	5	1,750	78	70	4	40	6	10	9	50	4	40	18
	不動産仲介・売買	333,760	55	3,290	146	360	20	10	2	0	0	10	1	0	0
サービス	クリーニング、洗張	147,410	24	310	14	550	30	960	151	100	92	310	22	100	44
	調理	1,855,770	305	15,490	688	11,920	651	1,430	225	730	668	910	64	190	84
	飲食物給仕・身の回り世話	1,105,740	182	9,660	429	8,970	490	3,330	524	580	531	420	30	140	62
	接客社交	32,180	5	690	31	550	30	3,260	513	170	156	30	2	20	9
	芸者、ダンサー	1,580	0	30	1	310	17	2,460	387	10	9	10	1	0	0
	娯楽場等接客	401,760	66	4,070	181	520	28	170	27	20	18	410	29	100	44
	介護職員（治療・福祉施設）	739,700	122	1,340	60	340	19	170	27	30	27	420	30	20	9
製造	セメント製品製造	40,160	7	110	5	210	11	140	22	30	27	490	35	280	124
	金属工作機械	227,840	38	790	35	1,310	72	460	72	120	110	3,390	240	520	231
	金属プレス	98,070	16	320	14	1,100	60	540	85	50	46	3,140	222	740	329
	金属溶接・溶断	206,880	34	1,180	52	3,400	186	1,110	175	320	293	3,790	268	1,130	502
	めっき	33,880	6	120	5	400	22	150	24	10	9	760	54	180	80
	その他の金属加工	642,240	106	2,880	128	3,400	186	2,330	367	380	348	10,520	744	1,450	645
	一般機械器具組立	622,310	102	1,070	48	3,120	170	2,870	452	410	375	21,220	1501	3,250	1445
	電気機械器具組立	564,410	93	990	44	5,110	279	3,020	476	420	385	14,830	1049	1,290	574
	その他の電気機械器具組立・修理	234,010	39	310	14	1,690	92	1,260	198	110	101	4,560	322	670	298
	自動車組立	109,100	18	110	5	310	17	110	17	70	64	1,550	110	320	142
	光学機械器具組立・修理	30,280	5	30	1	210	11	320	50	10	9	1,920	136	80	36
	パン・菓子製造	325,210	54	780	35	900	49	550	87	120	110	2,270	161	340	151
	水産物加工	169,420	28	400	18	6,670	364	740	117	250	229	960	68	220	98
	その他の食料品製造	687,340	113	3,140	139	7,100	388	4,060	639	620	568	7,780	550	1,110	494
	ミシン縫製	200,670	33	810	36	23,440	1280	420	66	130	119	360	25	70	31
	ゴム製品成形	69,960	12	690	31	570	31	300	47	120	110	1,810	128	270	120
	プラスチック製品成形・加工・仕上	234,460	39	1,400	62	3,340	182	1,070	169	320	293	4,230	299	760	338
	塗装作業、画工、看板制作	304,680	50	1,610	71	1,160	63	640	101	60	55	2,140	151	350	156
	包装	315,430	52	1,030	46	2,210	121	1,630	257	280	256	1,320	93	370	165
	他に分類されない製造・制作	361,730	60	1,010	45	1,460	80	1,580	249	190	174	7,750	548	810	360
その他	自動車運転	1,721,360	283	9,140	406	670	37	240	38	20	18	1,080	76	110	49
	フォークリフト運転	95,510	16	320	14	50	3	40	6	30	27	680	48	90	40
	建設	2,565,010	422	12,630	561	4,280	234	2,200	347	430	394	1,720	122	380	169
	荷造	251,230	41	630	28	1,190	65	690	109	140	128	2,540	180	400	178
	清掃	987,540	163	4,490	199	2,280	125	1,540	243	210	192	1,000	71	220	98
総数	60,753,330		225,200		183,100		63,490		10,920		141,410		22,490		

目じたのが、中間マイノリティ論といわれるものだった (Bonacich 1973; Bonacich and Modell 1980)。この理論は、エスニックな階層構造のなかで上位と下位の仲介者として中間マイノリティを位置付けること、永住者より滞留者を想定するなど、日本に適用できない部分もある。しかし、自営業に進出するメカニズムに関しては在日コリアンの状況を説明できる部分が多い。

中間マイノリティを作り出すのは、内部の連帯と外部からの敵意であり、両者は相互強化する関係にあるとされる。すなわち、滞留志向の移民はエスニック集団の外部と関係を持つ志向が弱く、内部での関係を重視することになり、外部からの敵意は、内部での関係をさらに強めることになり、内部で連帯することで比較優位が生まれ、自営業への進出が可能となる。在日コリアンについても、就職差別という外部からの敵意が民族金融機関や民族商工会のような内部組織の連帯を強め、それが比較優位を生み出したという見方は可能だろう。現に韓(二〇一〇)は、民族金融機関を媒介として有望な業種に関する情報が流通し、業種転換を促していく過程を明らかにしている。

こうした研究から導かれるのは、エスニックなニッチの開拓により不利な状況を克服するという見方である。

ングロサクソンに近づくことが望ましいという前提にもとづいていたことによる (Gordon 1964)。その後「エスニシティの復活」や「多文化主義」といった議論を経て、なおまた新たな同化論が唱えられるようになった。その骨子は以下のようになる。かつての同化主義者が想定していた同化は、アングロサクソンに近づくことが望ましいと想定していた。現在の同化論からはそうした規範的な意味合いが失われており、同化は「類似性が高まる過程」を記述する概念となっている (Alba and Nee 2003; Brubaker 2001)。移民は一世から二世などへの世代交代に伴い大きく変化するが、それを表すのに同化という概念が必要である。また、言語能力や社会経済的地位など、同化したほうが不平等の解消につながり望ましい領域もある。さらに、同化は特定の方向に直線的に起こるのではなく、集団が埋め込まれた文脈によって異なる同化の過程が生じる。

こうした観点から在日コリアンの職業をみたとき、就職差別の緩和は経済的同化を促す可能性が高い。新しい同化論の立場からすれば、就職差別は特定の仕事からの排除を帰結する点で望ましくない。差別がなくなり仕事の選択肢が広がった上で、なおエスニック・ニッチに集

かつての民族経済に関する議論は、排除を基調とした「消極的な」ものだった。それが、韓(二〇一〇)にみられるような連帯を基調とした「積極的な」議論へと変化していく。これは、分割労働市場や中間マイノリティ論からエスニック・エンクレイブ論へと展開した、米国のエスニック・ビジネス研究の流れとも符合している。エスニック・エンクレイブ論では、民族経済で仕事をするほうが一般経済で働くよりも利得が大きいとみなす (Portes and Bach 1985; Portes and Zhou 1996; Wilson and Martin 1982; Wilson and Portes 1980; Zhou and Logan 1989)。在日コリアンについていえば、民族経済で働くことで単に自営業として生計の糧を得るにとどまらず、多くの役員を輩出し所得面でも有利であるという仮説が可能となる。所得については国勢調査データで検証できないが、役員比率でこの説の可否を確認できる。

(2) 経済的同化

同化という言葉は、近年では基本的にネガティブで不適切な言葉とみなされる傾向が強い。かつてのアメリカで支配的だった同化論は、アングロ同調主義すなわちア

中するのならば、エスニック・エンクレイブのような望ましい形態とみなせる。そうでなければ、日本人と在日コリアンの職業上の差はなくなるはずである。実際、若い世代に関しては自営業以外への進出が顕著になっているという調査結果もある (福岡・金、一九九七)。前掲の表1は、在日コリアンのニッチが強固に残っていることを示すが、排除されていた職業に進出している可能性を否定するものではない。過去と比べて経済的同化は進んでいるのか。将来どうなりうるのか、国勢調査の結果をもっとも生かせる問題設定となるだろう。

(3) 分極化

これまでみてきた二つの理論は、先行研究でも指摘されてきた傾向であり、それ自体として目新しさはない。それに対して分極化というテーゼは、在日コリアンに関する議論ではほとんど指摘されてこなかった。筆者がこうしたテーゼを三本目の柱とするのは、民族経済離れが進んだ時に生じうる帰結の一つだからである。すなわち、それまで民族経済に包摂されてきた者のうち、ホワイトカラーとして経済的同化を遂げるケースに注目が集まってきた。だが、学歴が低い者は民族経済内部で働けなく

なると、未だ存在する民族差別と相俟^{あひま}つて階層的地位の低下を被^{こうむ}るのではないか。

これはエスニック集団内部での階層分化に着目した議論であり、アンダークラス論の問題設定と通底する部分がある。アンダークラス論は、アフアーマティブアクション以降のアフリカ系アメリカ人について、インナーシティの変化という空間に焦点を当ててきた (Wilson 1987)。かつてのインナーシティには、コミュニティのリーダーになるような層が存在し、役割モデルを提供してきた。しかし、そうした層が上昇移動してインナーシティを去り、さらに脱工業化が進んでインナーシティから雇用が失われた時、コミュニティからリーダーがいなくなった。残ったのは、インナーシティから移動できない人たちであり、役割モデルを失って非行や失業が蔓延^{まえん}する状況がそこで生まれたとなる。

これをインナーシティという空間ではなくエスニック集団の階層構成の問題としてみれば、議論しているのはまさしく分極化である。中間層へと上昇移動した者と下方移動した者への分岐が、そこで想定される帰結となる。それと同様に、在日コリアンについても民族経済にも一般経済にも良好に包摂^{くわくたつ}されない層が増加し、一般経済に

包摂された層との分極化が進展するのではないか。このような仮説を立てることができる。

これら三つの理論は背反ではないが、異なる方向性を含意している。こうした見方がどの程度妥当なのか、一九八〇年から二〇〇五年の変化によりみていきたい。データとして用いるのは、前述の国勢調査オーダーメイド集計である。この集計にはさまざまな制約があるが、悉皆調査であること、職業小分類や学歴と職業の関係^{しっかい}で聞いている点で、現時点で望みうる最良のデータであることは間違いない。パネル調査ではないこと、ニューカマー韓国人が八〇年代以降増加していることを考慮しつつ、コーホート効果、加齢効果、時代効果に分けて分析することで、在日コリアンの職業ニッチの変遷をみていくこととする。^{*,3)}

3 結果

(1) 職業小分類にみるニッチの変遷

まず、細かなニッチの変化をみるために、職業小分類ごとの結果を示したのが表2であり、目立った傾向は以下のように要約できる。

CHEONGHAK

表2 韓国・朝鮮籍の職業小分類の推移

	80		85		90		95		00		05		対日本国籍オッズ比					
	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	N	万分率	80	85	90	95	00	05
医師	750	32	1,040	43	1,240	49	1,490	56	1,360	53	1,360	60	1.2	1.4	1.5	1.6	1.4	1.5
歯科医師	160	7	280	12	440	17	550	21	500	20	630	28	0.7	1.1	1.5	1.6	1.4	1.9
大学教員	170	7	220	9	360	14	440	16	690	27	1,310	58	0.4	0.4	0.6	0.7	1.0	2.2
会社役員	10,850	463	13,620	562	15,750	620	15,930	594	12,600	492	10,250	455	2.0	2.4	2.6	2.4	2.7	2.7
一般事務員	16,780	717	20,210	834	25,840	1016	26,320	981	25,070	979	24,950	1108	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7
小売店主	4,300	184	3,750	155	3,390	133	4,060	151	3,400	133	2,340	104	0.7	0.8	0.8	0.9	1.0	1.0
卸売店主	2,380	102	1,890	78	1,630	64	1,590	59	1,160	45	700	31	2.5	2.1	2.1	2.5	2.2	1.9
飲食店主	8,450	361	9,520	393	8,410	331	10,220	381	7,190	281	5,910	262	6.2	6.1	5.6	6.6	6.0	6.7
販売店員	9,620	411	8,570	354	8,490	334	9,200	343	10,630	415	10,690	475	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8
再生資源卸売・回収従事者	7,930	339	6,580	272	3,780	149	2,920	109	2,250	88	1,750	78	39.9	32.2	26.6	22.0	19.3	15.1
不動産仲介人・売買人	2,570	110	3,020	125	5,300	208	4,050	151	4,230	165	3,290	146	3.2	3.3	4.2	3.2	3.3	2.7
自動車運転者	16,150	690	13,580	561	12,560	494	12,070	450	10,440	408	9,140	406	2.2	1.8	1.6	1.4	1.4	1.5
ゴム製品成形工	830	35	790	33	650	26	660	25	740	29	690	31	2.5	2.3	1.9	2.1	2.5	2.7
プラスチック製品成形・加工・仕上	3,710	158	3,240	134	2,930	115	2,700	101	1,780	69	1,400	62	4.2	3.0	2.7	2.3	1.6	1.6
くつ製造工・修理工	5,010	214	5,240	216	4,610	177	3,340	125	3,150	123	1,490	66	22.1	23.0	20.0	18.1	24.7	19.5
かばん・袋物製造工	1,390	59	1,330	55	1,270	49	1,370	51	1,170	46	590	26	6.8	6.7	6.9	10.2	11.9	8.8
調理人	16,980	725	16,410	677	15,780	621	17,050	636	18,880	737	15,490	688	2.8	2.6	2.4	2.3	2.5	2.3
給仕従事者	11,090	474	10,090	417	9,420	371	11,870	443	11,790	460	9,660	429	3.5	3.0	2.9	2.8	2.7	2.4
娯楽場等の接客員	6,230	266	6,090	251	5,790	228	6,810	254	5,740	224	4,070	181	7.2	5.4	4.3	3.6	3.4	2.8
その他の食料品製造	700	30	1,050	43	1,210	46	1,600	60	2,610	102	3,140	139	0.7	0.8	0.7	0.8	1.0	1.2
計	234,130		242,220		254,230		268,220		256,140		225,200							

・専門…全体に専門職比率は高くない。ただし、表で挙げた医師、歯科医師、大学教員については目立った変化ではないが、上昇傾向にある。^{*4}

・管理…会社役員（その他の団体役員も含む）以外の比率は低い。大企業や公務労働から排除された結果だろう。会社役員比率は九〇年にピークを迎えているが、オッズ比に関してはそれほど明確な傾向がみられない。事務…全体に、日本籍より低いまま推移している。比率自体は上がっているが、オッズ比に変化がないことから、格差が縮まったとはいいたい。

・販売・サービス…小売店主の比率はやや低く、卸売や飲食店主、調理人、給従事者、不動産は高いまま推移している。販売店員の比率は低い。再生資源卸売・回収や自動車運転、娯楽場などの接客員は、在日コリアンとの結びつきが強い仕事だった。しかしながら、オッズ比は低下傾向、人数も減少傾向にある。

・製造…絶対的な比率をみると、全体に低下傾向にある。製造業のなかでも、靴やサンダル関係が多い。大阪市生野区のサンダルや神戸市長田区のケミカルシューズ製造が、全体の比率にも影響を与えている。繊維関係

の変化の関連をみることができる。

表をみる際には、縦の比較（特定の出生年の人が年齢ごとによいような職につくか）と横の比較（ある年齢で特定の職につく比率が、年上／年下の世代と比較してどうなのか）を行えばよい。たとえば一九六九年生まれの筆者ならば、会社団体役員になる比率が一五〇〜一九歳から数えて〇・〇↓〇・四↓〇・七↓一・二↓一・七%と高くなっていく。そして三五〜三九歳の時の比率を年長世代と比較すると、一・七↓二・二↓四・〇↓四・一↓三・七↓三・八%と自分の世代が一番低いことがわかる。比率とオッズ比を総合してみたとき、時代と世代を下ることに、①減少するもの（ニッチでなくなるもの）、②横這いのもの、③増加するものと分けることができる。それぞれについて、以下のものが該当する。

①減少傾向

第一に、会社団体役員^{*5}、商店主、工場主、サービスその他事業主が該当する。これらは民族経済の中核をなしているが、比率は全体として減少傾向にある。役員については一九六〇年代以降生まれで、商店主、工場主、サービスその他事業主については一九五〇年代後半以降生まれ

は、労働集約的で初期投資も技術もさして必要ないことから、世界的に移民のニッチとなってきたが、サンダルや靴に比べると比率は低かった。こうして製造業離れが進むなかで唯一伸びていたのが、「その他の食料品製造」だった。これは、韓国料理が人気を博してキムチなどの製造に携わる者が増加した結果とも思われるが、このデータだけでは断定できない。

(2)社会経済分類にみるニッチの変遷

前項の断片的なデータからも、全体にエスニック・ビジネスのニッチが縮小傾向にあることはわかった。では、そうした変化は主によい世代で生じているのか。より包括的な類型たる社会経済分類を用いてみていこう。表3は、出生コホート別の社会経済分類の比率が書かれている。表の列は当該年に生まれた人が、年齢ごとにどのようなキャリアをたどるかを表している。表の行は、当該年齢の時にどのようなキャリアにあつたかを示す。表4は、対日本国籍のオッズ比を出したものである。絶対的な比率（表3）では、コホート効果と加齢効果はみられるが、時代効果はみられない。オッズ比を併せてみることで、日本全体での職業構造の変化と在日コリアン

れのコホートで低下し、全体として加齢効果も弱くなっている。つまり、年齢を重ねて独立する、役員になるというキャリアをとらなくなっていることになる。こうした変化がみられるのは、一九八〇年代以降に労働市場に参入する世代であり、就職差別の緩和が民族経済を志向しなくなった結果のようにもみえる。

しかし、オッズ比をみると必ずしもそうとはいえないことがわかる。役員のおッズ比は横這いであり、比率の低下は日本全体で役員自体の人数の減少という時代効果によるものだろう。商店主についても、オッズ比はやや異なる傾向を示しており、一九五〇〜六〇年代生まれで一番高くなっている。そのため、民族経済離れというよりは日本全体で商店主が減つたことの影響と考えたほうがよい。それと異なるのは工場主であり、六〇年代生まれ以降でオッズ比は低下傾向にある。絶対的な比率だけでなくオッズ比も低下していることから、民族経済の脱産業（工業）化は、日本社会全体より速く進んでいることになる。^{*6} サービスその他事業主は、六〇年代生まれ以降でオッズ比がやや減少傾向にある。これはパチンコのような在日コリアンにとつての主要産業を含むが、韓（二〇一〇）の議論とは異なり増加傾向にはない。

第二に、技能者も減少傾向にあるが、前段の職と違って到達職でなく初職であることが多いため、加齢に伴い比率が低下する傾向がある。しかし、初職でみたときの比率についても、一九五〇年以前生まれでは二割を超えていたのが、それ以降は低下している。オッズ比をみると、若くなるほど緩やかに低下する傾向がある。そのため、日本全体の脱産業化の影響というよりは、民族経済における製造業離れが日本全体に先んじて進んでいることの影響とみたほうがよいだろう。

②横這い

販売人、個人サービス人はやや増加傾向にあるが、それほど目立つ変化ではないため横這いに分類したほうがよいだろう。この二つの職業は、加齢効果がないのも特徴的である。販売人は、オッズ比をみても変化がない。個人サービス人は、一九五〇年代生まれからオッズ比が高まったのちに、一九七〇年代生まれから減少傾向にある。調理師や接客・給仕が多く在日コリアンにとつて雇用吸収力が高い部門だが、若年層は参入しなくなっているといえよう。

③増加傾向

第一に、専門職、技術職は、今でも全体として多いとはいえないが、増加傾向にあるといつても間違いではない。特に技術職での増加が顕著である。一九五〇年代生まれくらいから変化が始まり、六〇年代生まれで本格的になつていく。オッズ比をみても徐々に上がっており、一以上になるのは一九六〇年代以降生まれの専門職にほぼ限られるが、上昇傾向にあるのは間違いない。これはかつて高学歴者が会社団体役員になることで人的資本を生かしていた状況から、専門・技術職へと変化したことの表れとみてよいのか。あるいは、この年代ではニューカマー韓国人が労働市場に参入するようになるから、在日コリアンの変化というよりはニューカマーの影響なのかもしれない。

第二に、事務職は到達職ではないため、二〇代前半で比率がもつとも高くなる傾向がある。全体にオッズ比が一番高いのは一〇代であり、家業の事務を手伝うという選択肢があるからだと思われる。二〇代前半での比率を比較したとき、一番高いのは六〇年代生まれであり、それ以降の生まれではむしろ低下傾向にある。オッズ比をみると横這いであることから、事務職全体の需要低下と

いう時代効果が作用していると思われる。

第三に、建設が多い労務作業者は高齢層で相対的に高く、戦後生まれになつて低下傾向にあるが、一九六〇年代生まれ以降で増加傾向に転じていた。建設自体は、民族経済で一定の比重を占めているが、若い世代での増加は民族経済における建設業の伸びでは説明できないだろう。民族経済によつて包摂されず、不安定な仕事に就く若年層が増加する分極化を、部分的に表していると考えられる。ただし、オッズ比をみる限りではコーホートごとに違いがあるとはいえないため、民族経済の縮小が不安定就労層の拡大をもたらしたとはいえない。日本全体で労務作業層が増加しており、それと軌を一にして増加しているとみたほうがよいだろう。

4 考察——どのような変化が進行しているのか

これまでに提示したデータと各論から、全体としてどのような変化が生じているといえるのか。理論的背景の箇所を検討した三つの方向性の適合性に即して、全体の知見をまとめて本稿を終えることとしたい。

第一に、全体としてというと、絶対的な比率をみる限り

民族経済化のピークは過ぎたといえる。オッズ比自体は全体として下がっているわけではない。それゆえ、日本経済の変化に合わせて民族経済も変化しているといえるが、そこに包摂される在日コリアンは減っている。また、製造業離れは日本全体より速く進んでいるが、これは一方では中小零細の軽工業が多いことによるだろう。韓(二〇一〇)のいう脱産業化の進展という見方は、製造業離れという点では確かに妥当している。しかし、第三次産業での業主が増えているとはいえないことから、サービス業へと迅速に転換する民族経済という評価は、過大評価であるように思われる。むしろ、日本全体で自営業者が減少するのに合わせて民族経済も縮小し、製造業については日本全体を上回るペースで縮小している、とみなしたほうがよい。

第二に、ホワイトカラーへの進出をみる限り、Alba and Nee (2003) がアメリカの日系や中国系について述べたような経済的同化が緩やかに進んでいるとはいえない。しかし、オッズ比をみる限りではまだ一定の差があること、ニューカマー韓国人の影響があるため数字が押し上げられている可能性を考えると、これも過大評価はできない。つまり、ホワイトカラーへの進出は確かにみ

られるが、民族経済の縮小を補うほどの規模とはいえない。二〇〇五年までの傾向をみる限り、経済的同化に関する言説はやや誇張気味に語られているように思われる。その意味では、まだ就職差別に体现されるネガティブな相違は存在しており、容易に解消されるものではないこともわかる。

最後に、若年層の労務作業者が増加していることから部分的に分極化が生じているとはいえるだろう。とはいえ、オッズ比について特に増加傾向がみられるわけではない。日本全体の分極化と同じペースで進んでいるのであり、民族経済の縮小と結び付けるのは無理がある。

*1 末尾の文献一覧を参照のこと。

*2 民族経済については、Light and Gold (2000)を参照のこと。

*3 一連の研究は、稲葉奈々子、大曲由起子、鍛冶致、高谷幸の各氏と共同で行われた。データの網羅性、方法的な問題、各年の集計結果については、文献表にある各氏との共著論文を参照されたい。

*4 ただし、二〇〇五年の値は高く出すぎており（高谷ほか、二〇一五a）、集計方法が他の年と違った可能性がある。

*5 役員は到達職だが、韓国・朝鮮籍の特徴は到達年齢の早さにある。同族企業、自営の延長としての役員という性格が強い。

*6 これは韓(二〇一〇)の中心的な命題の一つである。

*7 ただし、これがニューカマー韓国人の影響による可能性もあるため、結論を留保する必要があるだろう。

文献

- Alba, R. and V. Nee, 2003, *Remaking the American Mainstream: Assimilation and Contemporary Immigration*, Cambridge, MA: Harvard University Press.
- 浅野順一、一九九七、「在日韓国・朝鮮人社会から見た地域社会形成——荒川区日暮里・三河島地区を事例として」『お茶の水地理』二八号。
- Blau, P. M. and O. D. Duncan, 1967, *The American Occupational Structure*, New York: Free Press.
- Bonacch, E., 1972, "A Theory of Ethnic Antagonism: Split Labor Market," *American Sociological Review*, 37: 547-59.
- , 1973, "A Theory of Middleman Minorities,"

American Sociological Review, 38: 583-594.

——— and J. Modell, 1980, *The Economic Basis of Ethnic Solidarity: Small Business in the Japanese American Community*, Berkeley: University of California Press.

Brubaker, R., 2001, "The Return of Assimilation? Changing Perspectives on Immigration and Its Sequels in France, Germany and the United States," *Ethnic and Racial Studies*, 24(4): 531-548.

福岡安則・金明秀、一九九七、『在日韓国人青年の生活と意識』東京大学出版会。

Gordon, M. M., 1964, *Assimilation in American Life*, Oxford University Press. (=二〇〇〇倉田和四生ほか訳『アメリカンライフにおける同化理論の諸相』晃洋書房。)

韓載香、二〇一〇、『在日企業の産業経済史』名古屋大学出版会。

橋本みゆき、二〇〇一、「民族金融機関の設立と変動における在日韓国・朝鮮人の『エスニックな結束』」『解放社会学研究』一五号。

Hechter, M., 1999, *Internal Colonialism: The Celtic Fringe in British National Development*, Second edition, New Brunswick: Transaction.

樋口直人編、二〇一三、『日本のエスニック・ビジネス』世界思想社。

稲葉奈々子・大曲由起子・高谷幸・樋口直人・鍛冶致、二〇一四、「一九八五年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『茨城大学人文コミュニケーション学論集』一七号。

曹賢美、一九九三、「東京都大田区における在日韓国人高齢者の就業状況」『お茶の水地理』三四号。

———, 一九九五、「在日韓国人高齢者の就業状況——東京都

大田区の場合」『経済地理学年報』四一巻一号。

河明生、二〇〇三、『アイノリティの起業家精神』ITTA。

金明秀・稲月正、二〇〇〇、『在日韓国人の社会移動』高坂健次編『階層社会から新しい市民社会へ』東京大学出版会。

金宣吉、二〇一四、「国際化と都市政策が生み出した神戸市長田区への外国人集積——グローバルゼーションが引き起こすマイノリティの周辺化」『海港都市研究』九号。

金原左門ほか、一九八六、『日本のなかの韓国・朝鮮人、中国人』明石書店。

鍛冶致・高谷幸・大曲由起子・樋口直人、二〇一三、「一九九五年と二〇〇〇年の国勢調査にみる外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『大阪成蹊大学マネジメント学部紀要』一〇号。

鍛冶致・高谷幸・大曲由起子・樋口直人・稲葉奈々子、二〇一五、「一九八〇年と一九八五年の国勢調査にみる外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『大阪成蹊大学マネジメント学部紀要』一二号。

Light, I. and S. J. Gold, 2000, *Ethnic Economies*, San Diego: Academic Press.

永野慎一郎編、二〇一〇、『韓国の経済発展と在日韓国企業人の役割』岩波書店。

内藤正中、一九八九、『日本海地域の在日朝鮮人——在日朝鮮人の地域研究』多賀出版。

呉圭祥、一九九三、『在日朝鮮人企業活動形成史』雄山閣。

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人、二〇一四a、「在日外国人の仕事——二〇〇〇年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』四四号。

———, 二〇一四b、「家族・ジェンダーからみる在日外国人——国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年

報』四四号。

- 、二〇一〇c 『在学率と通学率から見る在日外国人青少年の教育——二〇〇〇年国勢調査データの分析から』『アジア太平洋研究センター年報』七号。
- 大曲由起子・高谷幸・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、二〇二二、『移住者と貧困』をめぐるアドボカシー——移住連貧困プロジェクトの取り組みから』『多言語・多文化——実践と研究』四号。
- 朴一、二〇〇五、『在日コリアンの経済事情』藤原書店編『歴史のなかの「在日」』藤原書店。
- 朴徐玄、二〇〇四、『在日韓国人企業の事業所分布からみた日本の都市階層』『経済地理学年報』五〇巻二号。
- Portes, A., 1995, "Economic Sociology and the Sociology of Immigration," A. Portes ed., *The Economic Sociology of Immigration: Essays on Networks, Ethnicity, and Entrepreneurship*, New York: Russell Sage Foundation.
- and R. L. Bach, 1985, *Latin Journey: Cuban and Mexican Immigrants in the United States*, Berkeley: University of California Press.
- and M. Zhou, 1996, "Self-employment and the Earnings of Immigrants," *American Sociological Review*, 61(2): 219-230.
- 梁京姫、二〇一三、『在日コリアン女性の職業選択に対する行動戦略と初職への入職経路』『東アジア研究』五九号。
- 庄谷恰子・中山徹、一九九七、『高齢在日韓国・朝鮮人——大阪における「在日」の生活構造と高齢福祉の課題』御茶の水書房。
- 徐龍達・全在紋、一九八七、『在日韓国・朝鮮人の商工業の実態』徐龍達編『韓国・朝鮮人の現状と将来』社会評論社。
- 高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致、二〇一三a、二〇一〇

五年国勢調査にみる在日外国人の仕事』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三五号。

- 、二〇一三b、『在日外国人女性の結婚・仕事・住居——二〇〇五年国勢調査データ分析』『文化共生学研究』一二二号。
- 、二〇一三c、『二〇〇五年国勢調査に見る外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三五号。
- 高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、二〇一三a、『一九九五年国勢調査にみる在日外国人の仕事』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三三六号。
- 、二〇一三b、『一九九五年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三六号。
- 、二〇一三c、『一九九〇年国勢調査にみる外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三六号。
- 、二〇一四a、『一九九〇年国勢調査にみる在日外国人の仕事』『文化共生学研究』一三三号。
- 、二〇一四b、『一九九〇年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居』『文化共生学研究』一三三号。
- 、二〇一四c、『一九八〇年国勢調査にみる在日外国人の仕事』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三七号。
- 、二〇一四d、『家族・ジェンダーからみる在日外国人——一九八〇、八五年国勢調査分析』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三七号。
- 、二〇一五a、『二〇一〇年国勢調査にみる在日外国人の仕事』『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』三八号。
- 、二〇一五b、『二〇一〇年国勢調査にみる外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚』『岡山大学大学

院社会文化科学研究科紀要』三八号。

- 、二〇一五c、『二〇一〇年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居』『文化共生学研究』一五号。
- 外村大、二〇〇七、『在日朝鮮人社会の歴史学的研究——形成・構造・変容』緑陰書房。
- Waldinger, R., 1996, *Still the Promised City? African-Americans and New Immigrants in Postindustrial New York*, Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Wilson, K. L. and W. A. Martin, 1982, "Ethnic Enclaves: A Comparison of the Cuban and Black Economies in Miami," *American Journal of Sociology* 88: 135-160.
- Wilson, K. L. and A. Portes, 1980, "Immigrant Enclaves: An Analysis of the Labor Market Experiences of Cubans in Miami," *American Journal of Sociology* 86: 295-319.
- Wilson, W. J., 1987, *The Truly Disadvantaged: The Inner City, the Underclass, and Public Policy*, University of Chicago Press. (一一九九九、青木秀男監訳『アメリカのアンダークラス——本当に不利な立場に置かれた人々』明石書店)。
- 山本俊一郎、二〇〇八、『大都市産地の地域優位性』ナカニシヤ出版。
- 在日高麗労働者同盟、一九九二、『在日朝鮮人の就労実態調査——大阪を中心に』新幹社。
- Zhou, M. and J. R. Logan, 1989, "Returns on Human Capital in Ethnic Enclaves: New York's Chinatown," *American Sociological Review*, 54(5): 809-820.

被災者の声を聞き続ける

「東日本大震災 在日コリアン被災体験聞き書き調査」代表
学習院大学文学部教授
福島県立博物館館長
赤坂憲雄

被災者の声を聞き書きで

東日本大震災発災直後から、被災者の聞き書きに取り組んで来た。これだけの大災害である。被災体験を記録に残して、それを後世に残さなければならぬ。ジャーナリストイックな、文学的な記録もあれば体験手記なども、あるいは映像記録もあるだろう。手法を問わず記録を進めなければならぬが、私たちが選んだのは「聞き書き」だった。これには前史があった。

発災の直前までおよそ一八年にわたって山形県の大学に籍を置き、「東北学」を名乗って東北の文化歴史の掘り起こしにあたってきた。その大きな柱のひとつが聞き

書きだった。大学の仲間たちや学生たちだけでなく、東

北各地に同志を糾合して、聞き書きによる東北の近現代の生活史を記録した。「津軽学」が「盛岡学」が「村山学」が「仙台学」が「会津学」がそれぞれ立ち上がり、それぞれの名を冠した雑誌が創刊され、それぞれの誌面で聞き書きがページに刻まれた。その成果が『聞き書き 知られざる東北の技（野添憲治著／荒蝦夷）』や『じいちゃんありがとう』（赤坂憲雄監修／奥会津書房）などの聞き書き集として刊行された。そして山形の大学を離れて学習院大学に籍を移したものの、福島県立博物館館長として、岩手県遠野文化研究センター所長として、さらに聞き書きを続けなければならないと思っていたところに東日本大震災が発生したのである。

発災直後の混乱から立ち直るや、巡礼にも似た被災地への旅を繰り返した。「被災地」といつても私にとつては教え子や仲間たちがそれぞれに被災し呻吟する土地である。くまなく旅して知る土地である。聞き書きを始めなければと即座に思った。かつての生活の記録を聞き書きによって留めてきた。今度は「いま」を記録して後世に残すべきときである。震災以前からの仲間たちと共に、そう話し合って、混乱の被災地で聞き書きが始まった。

私たちの聞き書きは「震災体験記」ではない。被災地であつてどのような暮らしが営まれてきたのか、どのように話者がここに生きてきたのかから始まらなければ、「いま」の持つ意味は伝わらない。短い聞き書きではそれこそコメントやアンケートに似る。ひとりの話者に時間をかけて、ときには幾度も足を運んで、四〇〇字詰め原稿用紙にして一〇枚を基本とした。とはいえ、この聞き書きの姿勢もまた、震災があつてのことではない。震災以前からの「東北学」の聞き書きの基本であつた。

自らも被災したり、家族を亡くしたりもした聞き書きの書き手たち二九人が、それぞれ被災地に分け入った。そしてまずは一〇〇人の聞き書きをまとめたのが『鎮魂と再生 東日本大震災・東北からの声100』（赤坂憲

CHEONGHAK

雄編／藤原書店）である。各地で聞き書きはまだまだ継続中である。震災を経て甚大な被害を受けた宮城県東松島市には地域誌『奥松島物語』（赤坂憲雄監修／奥松島物語プロジェクト編／荒蝦夷）が創刊され、同様な動きが石巻でも始まりつつあるが、いずれも消え去った町の記憶を記録する聞き書きが大きな柱となりそうである。

東北の外国人たち

そのなかで被災した外国人の姿がぼつりぼつりと見え始めた。震災直後、宮城県の新聞「河北新報」に掲載された印象的な写真があつた。宮城県南三陸町。海辺から着のままで被災者が高台へと避難して来る。おばあさんをおぶっている女性と、そのとなりにもうひとり女性。撮影は三月十二日である。最初は避難の一瞬を切り取った鮮烈な写真としてしか見ていなかった。だが、のちにはつきりしたのは、日本人のおばあさんを背負つて避難する女性は中国人花嫁だった。となりの女性もまた花嫁として東北にやって来た中国人女性だった。

アジアからの花嫁たちが東北に入っている。被災したおばあさんと被災した中国からの花嫁の写真には、災害

列島が負わなければならない日常の問題が凝縮ぎん縮されて現れていた。もちろん東北における外国人の居住者の姿は震災以前から目に入っていた。あるいは、私が勤務していた大学のある山形は、八〇年代に嫁不足の解消のためにフィリピンから女性を招いた。自治体による外国人花嫁の受け入れの初期の例である。韓国や中国からの花嫁たちがそれに続いた。既に、各地の学校には日本人とさまざまな国籍の外国人のあいだに生まれた児童がたぐさいる。

結婚だけではない。震災以前のことだが、福島県いわき市の古い寺院でこんな風景を見た。東南アジアからやって来たらしい少女といつてもいい年ごろの女性たちが、境内をもめずらし気に散歩していた。楽しそうに互いの写真を撮り合っていたが、観光客の気配はなかった。どうやら出稼いせぎにやって来て、たまの休日ここにやって来た。中国人研修生を高台に避難させて自らは亡くなった宮城県女川町おながわの水産加工会社役員役員の存在はメディアを通じて知られたが、三陸沿岸を中心に漁業の現場や水産加工の現場に各国からの労働者が研修生などの名目で働いていた。あるいは留学生として東北にやって来た外国人も多い。雑誌『別冊東北学』や『仙台学』で

リピン女性数人が泣きながら体験を語った。まず彼女は言葉がわからなかった。日本人なら得られた情報が彼女たちには得られなかった。地震や津波に関する日本人なら知っている基礎的な知識もない。それでなくとも情報が遮断しきだんされた被災地で、言葉もわからない、知識もないとしたら災害にどう対処できるか。彼女たちの体験から、そんな人たちがどのように生き延びたのかがおぼろげに見えた。たとえば、あなたが言葉もわからずに、その土地の深い歴史や文化も知らずにどこかの国にいる。そこで災害に遭ったらどうするか。どうやって逃げるのか。そんな目隠しをされて避難しなければならぬような状況に彼女たちは置かれていた。

防災・減災の重要性が語られている。明日なのか、来年なのか、それともその先のいつかなのかはわからないが、次の震災は必ず来る。可能な限り、それに対する準備をしておくべきなのは論をまたないが、そのとき大災害の中の外国人は見過ぎされてはいけないテーマだ。これからもたぐさんの出自や文化、背景を異にする人たちがこの災害列島で共生せざるを得ない。その人たちに、災害時にどうやって情報を伝達すればいいのか、最低限のルールを作っておかなければならない。情報の断絶は

は、そんな東北に暮らす外国人の聞き書きも取り上げていた。

河北新報の写真に象徴されるような、東北に暮らす外国人たちの被災体験も聞き集めなければならないのではないか。あの災害は決して日本人だけが体験したわけではない。たぐさんの外国人たちも体験している。そんな被災者の聞き書きをしなければ、トータルな震災の体験を語り継げないのではないか。かつて聞き書きなどで出会った東北に暮らす外国人たちが、あのいわきの寺院で出会った少女たちのような（東北学）の記憶のなかにある外国人たちが、どのように震災を体験したのか。東北の村や町の片隅に暮らしていた海の向こうからやって来た労働者や花嫁たちがどのように生き抜いたのかが知りたかった。

明日の震災のために

東北に暮らす外国人たちの被災体験の聞き書きにも取り組まなければならないのではないかと仲間たちと話し合っていたころ、二〇一一年の秋だったか、福島で震災の小さな研究会に出席した。日本人男性と結婚したフィ

パニックに繋がる。東京など大都市圏にはもつとたぐさんの外国籍の人たちが暮らしている。東日本大震災を教訓として、多言語できちんとした最低限の情報を伝達できるシステムを作っておくことが防災・減災のために絶対に必要となる。それなしではパニックが起きかねない。

東北はかろうじてパニックを起こさずに共に生き延びることができた。それは被災地の人たちが「ここは我慢するしかない、そうすれば支援が来る」と情報や思いを共有できたからではないか。言語や情報の問題はありながら、東北被災地の外国人たちは、幸いにも基本的には孤立しなかった。例えば、避難所で不安や不便を感じた外国人はいたにしても、だがそれは、高齢者や障害者をかかえた避難者、さまざまな事情を持ちながら避難所に入った日本人の被災者と同様な事態だった。避難所に入るのが困難な家族をかかえてかろうじて倒壊を免れた自宅の二階などで避難生活を送った被災者も多い。いずれにしても、日本人・外国人にかかわらず、東北被災地では避難生活にさまざまなトラブルがあったのは間違いない。そもそもが避難生活とは平和で安定的なものではない。現在もそんな避難生活を送る二〇万人以上の被災者の暮らしを私たちは忘れてはならない。そんななか、

外国人被災者が気持ちよく暮らしているとは思えないが、被災の初期状況では必要最低限のトラブルで済んでいたといつていい。東北被災地では明らかな差別や迫害はなかった。そこにあつたのは災害弱者としての外国人居住者の姿だった。

これには東北の地域性があるように思える。東北人の我慢強さが震災直後、さまざまに喧伝された。それがよかつたのか悪かつたのかは別として、確かに多くの男たちは女性や子供を、あるいはいわゆる災害弱者を優先して避難させた。彼ら彼女らを避難所に入れて、自らは避難所の外で耐えていた男たちもいる。もちろん男たちに限らず、さまざまな善意が被災地にはあつた。かろうじて残っていた地域社会の力がそれに与つていた。ひとつの避難所に集落ごと入つたところは安定していた。どのような人物がリーダーになつたかによつても大きな違いがあつた。また、寺院や神社の宗教施設が初期の避難所として重要な役割を担いもした。外国人避難者も受け入れた。岩手県山田町のあるお寺は地域の自主避難所となつた。地域の規模の大きい避難所に入つていたが、檀家を中心に全員がお寺に戻つて、一か月ほど共同生活を続けた。東北の地域社会がお寺や神社などの宗教施設が

重なつて、外国人被災者の聞き書きを進めるべきだと思ひ始めていた。財団法人「韓哲文化財団」（当時）の助成を受けて、まずは東北の在日韓国人、あるいは結婚や仕事のために東北にやつて来た韓国人の聞き書きに着手できた。私たちだけでなく、さまざまなNPOや研究グループが「災害と外国人居住者」をテーマに支援や調査を続けている。これからもこのテーマにこそを寄せつつ、それらが来るべき明日の災害に対処するための礎となることを祈る。

さまざまな〈被災〉

今回の聞き書きに私個人はほとんど動けなかつた。震災直後から福島県立博物館館長として、岩手県遠野文化研究センター所長として、震災後の対応に追われた。また、東日本大震災復興構想会議委員、福島県復興ビジョン検討委員会委員、飯舘村復興計画推進委員会委員長、一般社団法人ふくしま会議代表理事など、東北被災地の復興に関わる立場ともなつて、実際の聞き書きの現場に立つことはなかなか叶わなかつた。聞き書きは、先に述べた震災以前からの同士たちや『鎮魂と再生 東日本大

中心となつて形成されているのがあらためてよくわかつた。東北の地域社会の宗教的核に気づかされた。本来はお寺など地域の宗教施設は、地域が危機に陥つたときに境内を開放して炊き出しにあたつたり、医療などを提供する場だった。東北人の我慢強さを、地域社会の力が支えた。公的な避難所だけではなく、このような地域独自の避難所があつたから、なんとか生き延びることができた。東北人はこれを誇つていい。

そして、これからの地域社会は国籍やそれぞれの立場を超えて作られなくてはならない。それを象徴していたのが、南三陸でおばあさんを助けた中国からの花嫁たちであり、女川で中国人研修生を助けた水産加工場の経営者ではなかつたか。同様なことが、たとえば東南海地震や首都直下型地震に見舞われた地域、特に東京などの都市部で可能なのか。東日本大震災をはるかにしのぐであろう極度の混乱のなかで、今回の東北被災地の人たちの我慢強さや善意を、地域社会の力を期待できるだろうか。関東大震災の暗い記憶を蘇らせてはならない。そのためにも東日本大震災下にあつて、被災を経験した外国人の記録を残し、それを未来にもかならず襲つてくる災害に対処するための記憶としたい。そんな思いがいくつも

震災・東北からの声100』に参加してくれた聞き手に加えて、東北学院大学の郭基煥教授（同大経済学部共生社会学科長／同大災害ボランティアステーション所長）を中心としたチームが行つた。さまざまなメンバーが聞き書きにあたる拠点として「東日本大震災在日コリアン被災体験聞き書き調査」をテーマにメンバーを集め、私はその代表となつて活動をサポートすることとした。

郭教授は六年前、名古屋から仙台市の同大へ。震災前には仙台のコリアン社会とはあまり交渉がなかつたが、自らが知る西日本の状況とは違うものを感じた。例えば、西日本と比較すれば、地域のコリアン社会の組織の規模も小さく、活動も盛んとはいえない。東北の人口そのものが多くないことを思えば、また、大都市がほとんどないことを思えば、地域のコリアン社会の規模が小さいのは理解できるが、加えて閉鎖的・排他的ともいわれる東北の地域社会で生きるために、自らのアイデンティティの主張よりも、地域への同化を選択しているのではないかとの印象を郭教授は持つたという。そして、東日本大震災が起きた。郭教授は同大災害ボランティアステーションを拠点に被災地支援に奔走、同時に外国人被災者の支援活動にも取り組む。これらの活動を通じて、いつ

また起こるかもしれない大災害のために、外国人被災者の体験の調査・研究が必要と痛感した。外国人被災者支援にあたるNPOや研究者と協力して、在日コリアンを中心に調査を進めながら、私たちの聞き書きに参加した。四年を過ぎて、郭教授は東北の地域社会の性質が、東日本大震災下の外国人被災者の体験に現れているのではないかと見る。閉鎖的・排他的ととらえられる側面を持つ東北の地域社会だが、一方ではひとたびその成員と認識されたとき、それぞれは保護や互助の対象となる。長く東北に暮らす日コリアンや結婚によってこの地に暮らすこととなった韓国人は、そのような地域社会の一員として震災を体験した。平時には同調圧力と受け止められかねない地域社会の持つある種の「負」の力が、危機にあつて「正」に転じた。さらに、注目を集めた「災害ユートピア」的な状況が生まれ、被災者の連帯が高揚したのも与つて、それが深刻な差別や孤立を生まなかつた要因となつた。郭教授はまた、東北の近代の問題との関係も指摘する。日本近代を「負け組」として歩んできた東北人の地域社会が、どのように在日コリアンを、外国人居住者を受け入れてきたか。その結果が、今回の在日コリアンをはじめとした外国人被災者への対応に影響を

するに至つた朝鮮半島の人たちが、あの日の東北にいた。「津波が来たら家族であつてもてんでんばらばらでいいからまずは逃げる」という「津波でんでんこ」の教えが注目された。だが、その瞬間だけでなく、日本人であろうと外国人であろうと関わりなく、被災からの再起もまた「てんでんこ」である。さまざまな事情を抱えた人たちが、それぞれに再起を果たさなければならぬ。さらにいえば、震災以前の生もまた「てんでんこ」であり、それをある一瞬あぶり出すのが災害なのかもしれない。そして、その「てんでんこ」を総体として見つめて、災害列島の未来への糧としなければならぬ。

聞き手となつたメンバーは岩手・宮城・福島三県の沿岸被災地に赴き、それぞれ話し手に対した。その記録は四年目の三月にまず取りまとめられる運びとなつている。この聞き書きの取材行のために、そして記録の発行のために、助成金は使われた。四年目を迎えてひと区切りではあるが、聞き書きはこれからも続く。記録の刊行も続く。あの日から四年。東日本大震災は被災地の外ですすでに過去のニュースかもしれない。だが、そこに生きる人たちにとつて〈被災〉はいまだ生々しい日常の現実である。四年を過ぎても、まだまだ被災地の状況はき

与えたのではないかとの分析である。

郭教授のこのような分析は、私たちが〈東北学〉を通じて深めてきた東北への理解と重なる認識がいくつもあする。大災害は平時には見えないその社会の貌をあらわにするときさまざまに指摘されているが、地域社会と外国人被災者の問題もまたそのひとつなのだ。被災地の在日コリアンを中心とした外国人被災者の体験記録は、これからの被災地の外国人被災者への対応だけでなく、そこにある地域社会の素顔をもまた照らし出す。とすれば、東北以外の土地、別の地域で大災害が発生したとき、地域社会の外国人被災者にながら起るのか。今回の東北の在日コリアンの経験が、それを考えるためのひとつの鍵となることを願う。なお、それぞれに帰国の道を選択したニューカマーを中心とした人たちもまたいる。これには福島第一原発事故が影を落としている。原発事故の悲劇はいまだ進行中である。地震・津波の被災とはまた別の視点で論じるべき、大きな問題として残る。

私の許に折々に届けられた聞き書きを読んで思うのは、予想していたこととはいえ、語り手各々の背景の多様性である。さまざまな事情でさまざまな経緯で東北に定着

びしい。とりわけ福島県の状況は深刻である。福島第一原発の廃炉まで見据えれば、終わりは見えない。私たちの聞き書きは、さまざまな話者を相手にさらに続く。聞き書きだけでなく、映像なども含めた多様な手法による震災体験はこれからも記録され続けなければならない。さまざまな手法による東日本大震災の記録は、いま私たちが残すことのできる未来への伝言であると信じたい。

聞き書き 一

子供たちのためにも頑張る

須田淑江(すだよしえ) (一九五八年生まれ・宮城県女川町在住)

須田淑江さんは三五歳のとき日本人男性と結婚。夫の住む離島、出島へやって来た。ギンザケ養殖の盛んな出島は周囲一四キロ、東日本大震災前の人口が約五〇〇人という小さな島。東日本大震災の津波でほとんどの養殖いかだが流され、須田家もギンザケのほかホヤとホタテの養殖設備と住まいを失った。震災後は女川町の仮設住宅に暮らしながら、苦勞の末に出島での養殖を再開した。

出島に韓国人は私一人です。故郷は釜山^{プサン}。仕事で韓国と日本を行き来していたとき、紹介してくれる人がいてお父さん（夫）と結婚して出島に来たの。おじいちゃん代からギンザケ養殖やっている家で、お父さんの代になつてからホタテとホヤの養殖も始めました。初めてお父さんに連れられて出島に来たとき、海がきれいでびつくり。私、出島の海に一目惚れしてしまつたんです。釜山のビーチもきれいだけど、出島の海の色はすごい。海の底がぜんぶ見えるもの。

震災の日は仙台にいました。仙台のアパートで独り暮らしをしている高校生の息子と待ち合わせて、新しい制服を買うために三越で買い物したの。その帰り道、さくら野百貨店前のバス停にいたら地震があつた。看板みたいな大きなものが目の前に落ちてきてびつくりして。もう立ってられない。コンビニに立ち寄っていた息子が携帯のメールで「おかあ、津波来た」って教えてくれた。その瞬間、心臓がドクンつてなつたの。

息子と二人で女川^{おながわ}行きのバスを待つたけど、すごい行列で乗れない。次のバスが来たのが夕方五時過ぎ。なんとか乗れた。でも、仙台を出ると道路はどこ行っても通行止め。運転手さんが「お客さんたち、どうしますか」つ

で私は心配で心配で眠れなかつたよ。会つた瞬間、涙がボロボロ。おばあさんも一緒に住んでいたんだけど、震災の日は仙台にいる自分の娘のところ泊まりに行つてたから大丈夫だった。家族全員が無事なのはよかつたな。石巻の避難所で生活しているとき、民団宮城（県地方本部）の団長さんが避難所に私を捜して訪ねて来たんですよ。びつくりしました。食べ物や物資をいっぱい持ってきてくれてすごく助かつた。その後、四月四日から学校が始まるというので、自衛隊のトラックで女川の避難所に引越したの。女川は学校が一番早く始まりました。女川の子供たち、家が流されて遊ぶ場所もないでしょう。余震もあるし津波の恐怖で眠れない。だから学校だけは早く再開して子供たちの居場所を作ろうとなつたのね。

その後、島の人たちは男も女も毎日、島に通つて瓦礫^{がれき}を掃除することになりました。私は娘のそばにいなぎやと思つて、たまにしか島に行かなかつた。行きたくなかつたの。行けば悔しい。島を見ても涙しか出ないもの。出島には保育所と女川第四小学校、女川町立女川第二中学校があつたけど、震災後には子供が少なくなつたから閉校しました。子供たちはみな町の学校に通つています。大人は子供の通学を優先するから、みんな町に仕事を見

て聞くから、「同じ船に乗つたんだから石巻^{いしのまき}まで一緒に行きましょう。時間かかってもいい」って言いました。バックして戻つて、またちよつと行くとバックして。道を探しながら山道を進んで、ぐるーつと遠回り。夜は山の上にバスを停めて、次の日はバス会社の車庫に泊まつて。まるまる二日かけて石巻の蛇田^{へびた}にあるイオンにたどり着いたの。そこで「これ以上は行けません」って降ろされたんです。

知り合いの家でお世話になつてから、ようやくお父さんと小学六年生の娘を捜し始めたの。最初の地震があつた瞬間、出島にいるお父さんと電話で話したのよ。「娘を頼むよ」って。あとは携帯も繋がらない。女川は役場もなにも全滅だから、情報が無い。そのうち「出島の人たちは自衛隊のヘリで石巻に避難した」と教えてくれる人がいた。運ばれた場所は五か所もあつたから捜し回つたよ。石巻の避難所で二人と再会したのは震災の一週間後でした。

その日はお父さんも娘と再会したばかり。二人はそれぞれ別のヘリで連れていかれたけど、娘は学校の先生や友達と一緒にだつたし、島の人たちはみんな知つた顔だから娘も不安にならなかつたと思う。でも、二人に会うま

付けて島を出たんです。

出島の人たちはみんなお互いの顔を知っているの。生まれたときから一緒に、みんな友達。家族と同じ。町だつたらよその子が何か悪いことしていてもなかなか叱れない。でも、島なら「こんなことやつて駄目だろう！」って誰でもはつきり言つてあげるよ。島の子は大人しくて素直。優しい。事件もない。山の上にある学校まで四〇分は歩くから朝早く家を出て、帰りはお友達と一緒に寄り道しながら何時間もかけて帰る（笑）。どこに行けば何がある、何が起つて全部知つているの。そんなだから、子供たちは島の学校にすごく思いを残しているのね。震災でできなかった卒業式をすることになったとき、子供たちの強い希望で、みんなで島の学校に帰つて卒業式をしたんですよ。

今住んでいるのは女川町旭が丘の仮設住宅。船に乗つて毎日、出島の養殖場に通つています。ギンザケとホタテとホヤの養殖は震災の年の秋から再開しました。十一月にギンザケの稚魚^{ちぎよ}が入つてきて、出荷が三月末から始まり、四月から七月が中心。ホタテの出荷は七月末から十月まで。ホヤは三年後じゃないと出荷できないの。一人くらしいの人に手伝つてもらつています。でも選別と

CHEONGHAK

水揚げ、あとホタテの稚貝が北海道から来て耳吊りの作業をするときはもつと増えるね。

震災後に初出荷したギンザケは、質はすごくいいのにダメだった。大赤字。福島原発事故の影響で売れないの。今は水揚げしたら国に売って保障をもらうかたち。自分たちで売るより金額が少ないけど、この保障がないと本当に無理。だけど負けたくない。頑張りたい。

おばあさんはずっと仙台のお義姉さんの家。震災以来、出島にも女川にも来ていません。仮設住宅は四畳半が二つだけで狭いってこともあるけど、めっちゃめちゃになつた島を見せたくない。おばあさんは戻ってこなくていいんです。私たち、震災を思い出すと力が抜けてしまつて何もできないの。前向きにならないと何もできないよ。子供たちの将来を考えて頑張らなきゃって言い聞かせている。でも同時に、あまり頑張つては駄目かな、とも思ったりもする。震災のときはいっぺんに一〇キロくらい痩せちゃったし。

こうやって話していても涙が出てくる。ほんとは震災のこと喋りたくないんだよね。胸にしまいこんでおきたい。喋れば悔しいし、誰も責めることもできないし……。たぶん震災に遭った人たちは同じ思いだと思う。口には

うって決めたの。四カ月ですっかり変わりました。いい勉強をしたね。高校は調理科にいるのよ。そこで取れる資格はぜんぶ取って、卒業後は一年か二年外で働いたら帰ってきてお父さんを手伝ってねと話しています。

震災前の女川町は人口約一万二〇〇〇人。今はその半分もいません。住所だけ残して実際は住んでいない人も多いから、役場でもはつきりした数が把握できないみたい。日本で指折りの漁業の町だったのが、それがなくなつたもの。冷凍施設も加工場も流されて。生活がかかつている若い人は、仕事がないから町を出るしかない。年寄りしか残っていないの。

出島はもともとギンザケ養殖が盛んだけど、今の段階で再開したのはうちも含めて三分の一。だつて設備の修理代が何千万円という単位ですよ。そんなお金どこにあるの。借金するしかない。五年間は返済しなくていいとして、結局返さなくちゃいけない。仕事を再開できてもこれからが大変。補助金ではどうやっても足りない。うちも二重ローンで大変なの。弁護士に相談しているけど、どうなるかわからない。だからこそ後ろ向いちゃだめ。何でも前向きに頑張るしかない。震災で神経を使つたおかげで、ずいぶん年を取つたような気がします。タ

CHEONGHAK

出さないけども、死ぬまで忘れないんじゃないですか。

子供たちも家ではこの話題にあまりふれないけど、学校では震災に関わる活動をいろいろやっていますよ。支援してくれた人たちにお礼の挨拶したり、募金を学校や町のために使う活動をしたり。修学旅行で東京に行ったときは外国の新聞記者の前で話をしました。子供たちは震災の後、急に大人になったね。将来の希望をきちんと持つて、気持ちが強くなった。このあいだ石巻地区の中学生の弁論大会を聞きに行ったんだけど、涙が出ました。娘も震災のこと、出島のことを話して優秀賞をもらった。あの体験を通していろんな人と会ったりしたからかな。人の前で考えを発表するなんて苦手だった子も、堂々とできるようになった。

息子は地震でショックを受けて、高校を四カ月休んだの。学校やめてお父さんの仕事を手伝う、そうじゃなければ就職するつて。親を助けなきゃいけないと考えたんでしよう。土木工事の仕事をしたり住込みで働いたり、ボランティアをしたり、いろんな経験をした。給料はちゃんと私にくれました。お金の価値もわかつたんじゃないですか。そして大学を出ても就職が厳しいのに、高校中退じゃもつと難しいと思つたみたい。ちゃんと卒業しよ

バコの本数が増えたし、一滴も飲まなかつたお酒も飲むようになった。チューハイの小さい缶一本で十分だけど、それがないと落ち着かないのよね。

震災のすぐ後は釜山にいる兄弟から「福島原発も心配だ、帰って来い。一年でも二年でも実家に住めばいい。何とかなるよ」と電話で言われました。でも「帰らないよ」と断つたの。「気持ちだけありがたくいただきます。嫁に来た以上はここでお父さんと一緒にお墓に入りませう」つて。夏休みになつてから子供たちと三人で釜山に行きました。家族や親戚に元気な顔を見せて、一緒に食事して、とにかく忙しかった。みなすごく喜んでくれたけど、一〇日間もいたのにビーチにも行けなくて、子供たちはブーブー不満を言つてましたよ(笑)。

健康が一番だよ。一生懸命頑張つても駄目なときは……まあそのときはそのとき。何とかなるでしょ。私、子供たちからいっぱいパワーをもらっているもの。子供たちは宝物。なんぼ疲れても、子供たちのことを考えれば頑張れる。子供たちの前では暗い顔したくない。辛いとは言いたくない。だけど、子供たちは全部わかつてるんですよ。あの子たちは意外と広い視野を持つてるの。例えば、前は何でも欲しいものを買つてもらえる何不自

由ない暮らしだった。それが当たり前と思って、私にすぐ何か文句を言ってきた。でも今は甘い思いはなくなくて、文句も言わない。震災に遭っていない子供より一歩早く大人になった感じかな。親や周りの大人たちを毎日見ているから、震災を経験した子はきつと強い大人になれる気がするの。

やっぱり家族がいるってすごいことね。私、子供がいなければ養殖の再開をしなかったかもしれない。他のお父さんお母さんだって、お子さんがいなかったら強い気持ちを持ってないと思う。家族一人でも失ったらきつと違うもの。周りには家族を失った人いっぱいいるの。その人たちとは震災の話、家族の話、しゃべれない。言えばお互い泣くから、ただ温かい気持ちで接するしかないよ。そうそう、うちのお父さんも変わったのよ。もともと喋らない人だったんです。でも震災後は自分から話しかけて、子供たちともよく喋るようになった。前は仕事のことしか頭になかったのが、変わったんだよね。

自分が被災したからじゃなくて、日本の全国民には三月十一日の震災を忘れないでほしいなと思いますよ。忘れてはいけないんです。日本は地震の多い国なので、これからどうなるかわからない。他の地方で大きな地震が

の「って言うから、「うん大丈夫、大丈夫」って答えた。でも、なかなか揺れが止まらなくてね、どうしようかなあと思いつながら、おつかなくて裸足で立ったまんま一歩も外に出られなかった。

地震が収まってから裏の堤防に上がったの。うちのすぐ後ろを閉伊川へいがわと近内川ちないがわが流れているんです。川の水がシャーツと引いて、「大変だ、おつきい津波が来るんじゃないかな」と思った。登別温泉トウベツに行ったとき、お湯が湧いてるところを見たことあるんだけど、あれのごとく下から水が湧いてくるんだっけよ、ボコボコ、ボコボコって。まず引いていって、それからモクモクとおがって。速いのね、時間にすればほんの何分間なの。川に船は上がってくるわ、屋根は流れて押し寄せてくるわ、水はどんどん増えてあと八〇センチ上がればこれも終わりだった。ギリギリだったね。あと一回大きいのが来たらうちも流された。

結局、避難所には行かず家にいました。知り合いの人たちにも泊まってもらって。一階のお店のスペースで、テーブルの間なんか蒲団や毛布を敷いてみんなでごろ寝しました。家族も含め、多いときで一〇人くらいが一週間ここで生活したの。

起きたら、助けにいかなきやいけない。お互いに手を取って助け合わないと駄目じゃないですか。

二〇一二年十二月二十五日 聞き手／千葉由香

聞き書き 二

今がいちばん幸せだね

朴日順ホクニチジュン(一九三五年生れ・岩手県宮古市在住)

宮古市内で焼肉店「永同園えいどうえん」を営む朴日順さんは在日二世。震災後は家族五人に加えて知り合いなども店に寝泊まりさせて共同生活を送りながら、復旧工事に当たる人たちのために炊き出しを行った。震災からわずか一〇日後には店を再開。多くの人々に温かい食事を提供して喜ばれた。

地震が来たとき店には私一人だったの。ガスは揺れると自動で消えるから、とにかくストーブを消してテレビを消して。玄関の戸を開けて、裸足のままずっとそこに掴まってた。そのとき隣のお母さんが来て、「高台たかだいにおばあちゃんを連れてくけど、おばちゃん大丈夫な

うちはプロパンガスだからガスは大丈夫だったけど、電気が二日半くらい止まった。電気で井戸水を汲み上げる自家水道なので停電だと水も出ないのね若い人たちが茶碗などを洗う水を山へ汲みに行つて、飲み水は隣の水道の蛇口から汲んできて溜めて使つて。

そのころ味噌がなくなつてね。友達が「おらほの母さんが田舎に味噌を頼むつげよ」って言うから連絡してもらったら、一キロなのか何なのか六〇〇〇円だって。とんでもないよ。だから断つて。そしたら、仮設にいる人が持つてきてくれたので、その味噌でお味噌汁を作つた。

雪は降るしきあ、寒かったもんね。みんなに温かいの食べさせたくて。泥だらけになって仕事している人たちには弁当も持たせたのね。おにぎりだと冷めるし、どうせ冷たくなるならちらし寿司はどうかと思つて、冷凍庫に入っていたものを使つてちらしを作つて。とにかく、寒くてねえ。仕事している人たちが可哀想で。みんな毎日長靴履いて歩いて、人捜しとかをしていたころでしょう。息子はお水とお菓子なんかをリュックさ入れて避難所をまわつたの。そして知つてる人や、うんと年取つた人たちを見つけたら家さ連れてきた。私も自転車で避難

所に行つて、おつゆとご飯だけだけど、熱いの食べさせ
るから、来てご飯食べてちょうだいって誘つて歩いてね。
お店は震災後一〇日くらいで開けました。息子は
「えー、こんなときに店開けんの」って言うから、「どこ
さ行つて、何を貰つて食べんの？」って答えたの。米も
何もないし、金もないし。稼がないと自分の口さも入る
ものがねえんだよって。炊き出しだつて毎日三〇人分
作つて食べさせてでしょ。家族五人でもゆるくないのに、
これじゃダメだつて。米くささいって歩くわけにもいか
ないし、だから明日から店やるつて。

はじめ、私は丼を五〇個とか一〇〇個とか作つて無料
で食べさせるかなと考えたの。そしたら友達が、そいう
うことしたらまた大変になる、いくらでもいいからお金
を貰つたほうがいいんだつて言うの。だから、「焼いた
肉をご飯につけた肉丼にして、お味噌汁とキムチを付
けたらどうか、何ぼで出したらいい？」つて相談し
て、五〇〇円と決めたのね。さつそくの友達が自分の
家さ行つて、コンパネ切つて「丼五〇〇円」と書いて看
板を作つて立ててくれた。最初その人は、肉丼と味噌汁
とキムチだけだと思つたんだつて。だけど私はそこにお
かずを二つ付けたのよ。丼はバラ肉一〇〇グラムを七枚

なつて降りたんだつて。田舎の家さ駆け込んで泊めても
らつたんだらうね。その家のお婆さんがでつかいザルに
芋を炊いて、「これを食べなさい」つて言つてくれたら
しいんだけど、母親は日本語がわからないでしょう。ま
るで、「今おめえを殺すんだ」つて言われているような
感じがして、おつかなくて食べられなかつたんだつて
(笑)。

父親が日本に来たのは、そのよつぽど前でないかな。
父親の生い立ちは全然聞いたことがなくて、うちの旦那
が父親と話したときチョコチョコ喋つたのを聞いたこと
があるくらい。俺は誰も兄弟がいなくて、一人ぼっち
だから日本さ来たとか話してた。私は母親にも「オンマ
に兄弟はいないの？ お婆あちゃんはどつしてんの？」
とか小さいとき尋ねたことはあるんだけど、妹がいる
よ、とか言うだけで、詳しいことは絶対言わなかつた。

新里村(現・宮古市)の墓目に住んでいたとき、父親
は大川に行く途中の押角というところで鉄道のトンネル
工事の仕事をしていたの。今みたいに道具があるわけ
ないし、穴をもんで発破をかけて、そして砕いた石をト
ロッコに積んで持ち出した。ここのトンネルの中で死
亡した人はみんな韓国人だつて。「何万人も亡くなつた

か八枚に切つて並べたわけさ。中には八個だとか一〇個
だとか持ち帰るお客さんもいてね。帰りにもまた来て
くれたりして。それでなんとかかんとか私たちもご飯食
べられるようになった。
本当にこの肉丼には拜んでもいいくらい助けられたな
あ。肉丼がないと大変だつた。こういうときこそ、助け
たり助けられたりしなきゃと思つて、私もできるだけの
ことを尽くしたの。

日本で生まれた日順さん。両親は朝鮮半島の慶尚南道
出身だが、詳しいことはほとんど聞かずじまいだつた。
それでも少し耳にした両親の話や、日順さん自身の少女
時代のことを語つてくれた。

小さいころからずつと岩手に住んでいます。父親と母
親は慶尚南道の出身で、母親が一三歳のときに父親と結
婚した。父親は仕事で日本中をあちこち歩いていて、母
親は朝鮮半島と日本を行き来していたみたい。

私が生まれたのは、母が八戸あたりの現場にいる父の
ところさ行く途中だつたんでないかな。妊娠していた母
親が一人で引越していく途中、汽車の中でお腹が痛く

んだよ、盛岡から宮古までの枕木一本ずつに韓国人が
眠つてる」つて、よく父親はお酒飲むと涙こぼして言つ
てた。普段は飯場に泊まつて、給料が出たときだけ帰つ
てきたの(笑)。当時は周りに韓国人がいつぱいいたつ
たよ。墓目にもいたつたし、あとは和井内とか刈屋(共
に旧・新里村)にも。今はもういないの。宮古にもいな
いもの。

戦時中はね、釜石の艦砲射撃もあつたけど宮古も何遍
か爆弾が落ちたんだよ。すごい音だつたもの。墓目にい
ても「ドン！ ドン！」つて空襲の音が聞こえたつた。
母親が縫つた防空頭巾を被つて、煎り豆を袋に入れて水
を瓶に詰めて、空が見えないような暗い山の中に行つて、
「ここにじつとしてろ」つて、母親がね。

墓目で母親は小さな畑を作つた。そこにしゃがんで
草をむしりながら歌を歌うの。祖国を思い出して自分で
作つた歌を、鼻歌みたいにね。内容は覚えてないんだけ
ど、ウリマル(母国語)で、涙こぼしながら。私は子供
心に、じつと聴いたつたのさ。草むしりながらハミング
のように歌う様子は、頭のすみにどつか残つてる。ああ、
やつぱり自分の国つてこういうものなのかなつて思いま
した。

妹が生まれて三カ月くらいときかな。母親が妹をおんぶってオムツを干しているとき、ふつ飛んできた馬に蹴られて骨は折るわ、頭は打つわで、もう駄目だって言われたの。馬車で病院に連れて行っただけど、長く寝込んでしまった。今だったら病院設備がいいからそんなことないんだろうけど。だから妹は私がおんぶってね。米粉を茶碗さうるかしてキレイに洗って、搦り鉢で搦ってミルクにしてね、砂糖なのかサッカリンなのかをちよこつと入れて哺乳瓶で飲ませた。

そんなことから、学校にはあまり行けなかった。父親は昔人で、女の子は学校さ行かなくてもいいっていう考えだったし、行けばいじめられるし。掃除洗濯炊事をして、父親の飯場に付いてつご飯を炊いたりもしたから、学校にはほとんど行っていないの。自分が勉強しない分、妹と弟だけは勉強させたいと思った。母親は寝たり起きたり。起きてても眩暈がしてあまり動けなかった。母を助けるために私が一番犠牲になったの。父親は六一歳で母親は七九歳で亡くなりました。

一八歳で日順さんは結婚する。望んだ結婚ではなく、苦勞が続いたが、あるとき焼肉店を開く決意をした。店

結婚して子供が三人生まれたんだけど、お盆も正月も晴れ着の一枚も買ってやれなかった。旦那は土木の仕事をしていて、胴巻きに金入れて飲んだり食ったり歩いてただけどね。だから私は観念して、「お店をやってみたい」と話をしたの。そしたら黙って口も聞いてくれない。私も何も言わないままだったら、一カ月くらいしてからかな、「そう言うならやってみろ、その代わり金はないよ」と。当時私はバチンコの景品交換の仕事をしてたから、そのお金を貯めて焼肉屋を始めたの。

開店したのは昭和四八（一九七三）年。宮古の街中に店舗を借りて三年やった後、今の店を建てた。お店は流行ったよ。それで子供を仙台の朝鮮学校に通わせることもできたの。旦那は家にお金を入れない人でね、家を建てたのも私。土地は仕事用に旦那が買ったものだけど、家が私が生きてたんだよ。

旦那は六時に起きて仕事に行くので、弁当包んで出してやんないとなんない。私は夜まで店をしているから、寝る暇がないの。息子をおんぶったまま、座布団を二つに折ったのをテーブルに乗つけて枕にして寝たんだ。蒲団さ寝てしまえば起きれないと思って。

CHEONGHAK

旦那は昔の人で難しい人だった。酔っ払えば手をあげることもあったし。今の人たちは自分の旦那に、「あなた、こうやって、ああやって」とものを言うでしょう。もし私がそんなことしたら、天井もなくなるよ。子供たちがみんなお父さんに似なくてよかつたな。お酒を飲んでもみんな朗らかだし。

店の名前は永同園。旦那の出身が忠清北道永同郡なのよ。旦那は一九歳のときに徴用で朝鮮半島から引つ張られてきたの。お姉さんが一人とお兄さんが四人いる。四二年ぶりに旦那を連れて韓国に行つたときに、嫂さんたちがいろんな話をしてくれたんだけど、旦那はしまいつこ（末子）でね。お母さんが早くに亡くなったから、一番上のお兄さんのお嫁さんが自分の子供と一緒に育ててくれたんだって。片方のおっぱいは自分の子供さ、もう片方のおっぱいはおらほの旦那さ飲ませてね。

旦那が徴用される日は、すごい土砂降りだったんだって。戸を開けたら水が溢れて入ってくるようなところを、ワラで編んだミノを被って引つ張られていく姿が目に見えて、いつもどうしてるのかと気になってたって、嫂さんが涙流しながら話してくれた。それから、戦後、向こうではアメリカ人の進駐軍みたいのがいばって、ご飯

の経営、夫との韓国訪問など、震災を経た今、人生を振り返る。

結婚してからも苦勞したね。私は一八で結婚したの。それも父親が勝手に話を決めて。お見合いということで暮目の家にも相手 came 来たはずなんだけど、どんな人がやって来たのか私は記憶がないの。父親の仕事の関係で人夫たちが出たり入ったりしてたしね。

結婚式当日も若い人が五〜六人立ってて、どの人が結婚相手だかわからなかった。私は嫁に行かなくて、ご飯も食わずに寝たまま起きないでストライキ起こしたの。そして、腰のあたりまであった長い髪をばっさり切った。そうすれば、「あの子は坊主になったから嫁に行かなくてもいい」って言われるんじゃないかなって考えたんだね。

だけど次の日、「大丈夫だ」ってパーマ屋さんに連れて行かれた。そのころのパーマ屋さんは、上からたくさん機械がぶら下がっていて、それで巻いてもらうのね。私は「嫌いだからパーマやんない」って言い張つたんだけど、無理くり捕まって座らせられて、本当に怖かつたよ。何されるのかと思って。

の用意が一分でも遅れば折檻せつかんされたらしいね。お兄さん二人はそれで殺されたようなもんだって話も聞いたよ。

旦那は一度体を壊してから、それつきり仕事しなくなつた。入院したり退院したり。だから私は二五年間も子供を学校さ通わせながら旦那のお守りしたの。糖尿
病で目が見えなくなつてからは、どこに行くにも連れて歩かないといけなかつたし。だから、今が一番幸せだよ。小さいときから苦労して、父親が亡くなつてからは母親の世話もして。結婚した相手は飲ん兵衛で苦労して……。本当、今が一番。もうね、天国だかもわかんない。そう思えたのはごく最近だね。

旦那のお墓は宮古にあります。この家からちよつと行つた山の上。お父さんがいつも上から私たちを見守つてくれるように、近くにお墓を建てました。

二〇二二年十一月十一日 聞き手／西脇千瀬

青鶴6

2015年3月14日 発行

発行人 韓昌祐

編集人 芦崎治

事務局 金度亨

発行 (公財) 韓昌祐・哲文化財団

〒100-6228 東京都千代田区丸の内1-11-1

パシフィックセンチュリープレイス丸の内31階

電話03-5221-7973

ファクス03-5221-7984

<http://www.hanchangwoo-tetsu.or.jp>

DTP制作 株式会社センターメディア

電子ブック制作 株式会社ページワン

本文の一部あるいは全部を無断で複写することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

©2015 HANCHANGWOO-TETSU CALUTURAL FOUNDATION
Printed in Japan

青
6
鶴

www.dawangyao.com.cn 010-64601468
公益財団法人 翰昌社・哲文化財団